

官  
號  
外

大正十二年三月十日

土曜日

印  
刷  
局

第四十六回 帝國議會衆議院議事速記錄第二十八號	大正十二年三月九日(金曜日)午後一時十四分開議
第一 小作調停法案(政府提出)	第一 議會第一讀會
第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉	第二 行政裁判制度改革ニ關スル建議案
第三 共通法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)	第三 中込高崎間鐵道敷設ニ關スル建議案
第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉	第四 (佐藤寅太郎君外四名提出)
第五 大正十年法律第一百二號中改正法律案(政府提出)	第五 筑波山國立公園設置ニ關スル建議案
第六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉	第六 (鈴木錦蔵君提出)
第七 西比利亞引揚ノ爲損害ヲ被リタル者等ノ救恤ニ關スル法律案(政府提出)	第七 行政裁判制度改革ニ關スル建議案
第八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉	第八 (清瀬一郎君提出)
第九 競馬法案(政府提出)	第九 (阿部武智雄君外八名提出)
第十 河川法中改正法律案(本多貞次郎君外三名提出)	第十 (中込高崎間鐵道敷設ニ關スル建議案)
第十一 災害地地租免除法中改正法律案(植場平君外一名提出)	第十一 (代太君外七名提出)
第十二 農業倉庫普及充實ニ關スル建議案(井上角五郎君外十名提出)	第十二 (大正十年法律第一百二號中改正法律案)
第十三 農業倉庫普及充實ニ關スル建議案(齋藤宇一郎君外一名提出)	第十三 (大正十年法律第一百二號中改正法律案)
第十四 水產銀行設立ニ關スル建議案(鷺澤字八君外三名提出)	第十四 (大正十年法律第一百二號中改正法律案)
第十五 內地ト朝鮮、臺灣、樺太、南洋群島、關東州及滿鐵附屬地間ノ郵便電信料金統一名提出)	第十五 (大正十年法律第一百二號中改正法律案)
第十六 仁川築港擴張ニ關スル建議案(牧山耕藏君外四名提出)	第十六 (大正十年法律第一百二號中改正法律案)
第十七 牧野法制定ニ關スル建議案(吉良元夫君提出)	第十七 (大正十年法律第一百二號中改正法律案)
第十八 第二國立醸造試驗所新設ニ關スル建議案(吉良元夫君外二名提出)	第十八 (大正十年法律第一百二號中改正法律案)

第十九 北海道本州連絡完成ニ關スル建議案	第二十一 (阿部武智雄君外八名提出)
第二十 中込高崎間鐵道敷設ニ關スル建議案	第二十二 (佐藤寅太郎君外四名提出)
第二十三 (佐藤寅太郎君外四名提出)	第二十三 (鈴木錦蔵君提出)
第二十四 (伊豫三津濱町ニ停車場設置ニ關スル建議案成田榮信君外四名提出)	第二十四 (伊豫三津濱町ニ停車場設置ニ關スル建議案成田榮信君外九名提出)
第二十五 愛媛縣三津濱港修築ニ關スル建議案(成田榮信君外十名提出)	第二十五 (成田榮信君外十名提出)
第二十六 热海大仁間鐵道速成ニ關スル建議案(小泉策太郎君外一名提出)	第二十六 (小泉策太郎君外一名提出)
第二十七 國立公園設定促進ニ關スル建議案(平野光雄君提出)	第二十七 (平野光雄君提出)
第二十八 虎野山國立公園設置ニ關スル建議案(鈴木隆君外三名提出)	第二十八 (虎野山國立公園設置ニ關スル建議案)
第二十九 義老川及小堀川改修ニ關スル建議案(鈴木隆君外六名提出)	第二十九 (義老川及小堀川改修ニ關スル建議案)
第三十 木次三次間鐵道速成ニ關スル建議案(原夫次郎君外二名提出)	第三十 (木次三次間鐵道速成ニ關スル建議案)
第三十一 烏根縣ニ鐵道局設置ニ關スル建議案(原夫次郎君外二名提出)	第三十一 (烏根縣ニ鐵道局設置ニ關スル建議案)
第三十二 出雲今市三次間鐵道速成ニ關スル建議案(原夫次郎君外二名提出)	第三十二 (出雲今市三次間鐵道速成ニ關スル建議案)
第三十三 國稅徵收事務ニ對スル交付金増額ニ關スル建議案(長谷川宗治君外三名提出)	第三十三 (國稅徵收事務ニ對スル交付金増額ニ關スル建議案)
第三十四 川之江池田間鐵道敷設ニ關スル建議案(河上哲太君外十名提出)	第三十四 (川之江池田間鐵道敷設ニ關スル建議案)
第三十五 宮津河守間鐵道敷設ニ關スル建議案(大島實太郎君外一名提出)	第三十五 (宮津河守間鐵道敷設ニ關スル建議案)
第三十六 滉川長野原間鐵道速成ニ關スル建議案(木橋三四郎君外一名提出)	第三十六 (滉川長野原間鐵道速成ニ關スル建議案)
第三十七 大阪和歌山間鐵道敷設ニ關スル建議案(山口義一君外三名提出)	第三十七 (大阪和歌山間鐵道敷設ニ關スル建議案)

○議長(柏谷義三君) 諸般ノ報告ヲ致セマス	第三十八 福相鐵道速成ニ關スル建議案(堀切善兵衛君外六名提出)
〔原田書記官朗讀〕	第三十九 北海道治水ニ關スル建議案(松實喜代太君外七名提出)
一政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ	第四十 樺太資源開發ニ關スル建議案(阪上貞信君提出)
(定年ニ因ル退職判事檢事ノ恩給ニ關スル件)	
西比利亞引揚ノ爲損害ヲ被リタル者等ノ救恤ニ關スル法律案	

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ  
(以上三月八日提出)

大阪都制案

提出者 板野 友造君

清瀬 一郎君  
武内 作平君

村田虎之助君  
上畠益三郎君

森下龍太郎君  
武内 作平君

浪速縣設置ニ關スル法律案  
提出者 板野 友造君

清瀬 一郎君  
武内 作平君

村田虎之助君  
紫安新九郎君

森下龜太郎君  
武内 作平君

浪速縣大阪都組合法案  
提出者 板野 友造君

清瀬 一郎君  
武内 作平君

村田虎之助君  
上畠益三郎君

森下龜太郎君  
武内 作平君

伏見港擴築ニ關スル建議案  
提出者 上埜安太郎君

管野傳右衛門君  
廣瀬 鎮之君

米澤與三次君  
野村 嘉六君

高見 之通君  
香川 保忠君

常願寺川改修速成ニ關スル建議案  
提出者 上埜安太郎君

米澤與三次君

議員制度調査委員會設置二關スル建議案	菅野傳右衛門君 高見之通君 香川保忠君	廣瀬鎮之君 廣瀬規矩雄君 河上哲太君
提出者 山口義一君 瀧正雄君 鈴木錠藏君	木下成太郎君 松本君平君 木下謙次郎君 樋口秀雄君	森嘉六君 松岡俊三君 林田龜太郎君 一宮房治郎君
中央大國立公園設置二關スル建議案	「ローマ」字ヲ小學校教科中ニ加フルノ建議案 提出者 上塚司君 小橋一大太君 中島照寛君 養老國立公園設置二關スル建議案	河上哲太君 平野光雄君 松岡俊三君 原田十衛君 松野鶴平君 池田泰親君 根本正君
提出者 松本君平君 木下謙次郎君 樋口秀雄君	木下成太郎君 松本君平君 木下謙次郎君 樋口秀雄君	河上哲太君 平野光雄君 松岡俊三君 原田十衛君 松野鶴平君 池田泰親君 根本正君
三角港海陸連絡速成二關スル建議案	「ローマ」字ヲ小學校教科中ニ加フルノ建議案 提出者 上塚司君 小橋一大太君 中島照寛君 養老國立公園設置二關スル建議案	河上哲太君 平野光雄君 松岡俊三君 原田十衛君 松野鶴平君 池田泰親君 根本正君
提出者 樋渡次右衛門君 樋竹龍三郎君	樋渡次右衛門君 樋竹龍三郎君	河上哲太君 平野光雄君 松岡俊三君 原田十衛君 松野鶴平君 池田泰親君 根本正君
醫育充實二關スル建議案	提出者 中原徳太郎君 齋藤壽雄君 岩崎宗茂助君 中島成晴君 香川保忠君	三浦得一郎君 近藤達兒君 八木逸郎君 松下禎二君 山田永俊君 大林森次郎君 和知君 善立君 國松君
自治刷新二關スル決議案	提出者 安達謙藏君 賴母木桂吉君 三木武吉君 平野光雄君	井上敬之助君 櫻内幸雄君 古屋慶隆君 神谷彌平君
(以上三月八日提出)		石川玄三君 多木久米次郎君 土井權大君 本多貞次郎君 宮崎三之助君 鶴澤宇八君 佐々木平次郎君 濱口吉兵衛君
瓜哇印度及海峽植民地航路運賃値上二關スル再質問主意書	○議長(柏谷義三君) 御異議ナイト認メマス、仍テ許可ス ○議長(柏谷義三君) 御異議ナシト呼フ者アリ コトガアリマス、第四部選出決算委員、齋藤宇一郎君ヨリ 常任委員辭任ノ申出ガアリマシタ、許可スルニ御異議アリ コトニ致シマス、其部ノ諸君ハ速ニ補缺選舉ヲ行ヒ、届出	高見之通君 香川保忠君 河上哲太君 平野光雄君 清瀬規矩雄君 河上哲太君 松岡俊三君 林田龜太郎君 一宮房治郎君 田道襄一君 市町村長又ハ郡長ハ遲滞ナク申立ニ關スル書類ヲ裁 理事板野友造君(理事小橋藻三衛君補闕) 一昨八日競馬法案委員島本信二君辭任ニ付キ補闕ト シテ梅田潔君ヲ肝屬川改修速成二關スル建議案委 員秋亮君辭任ニ付キ其補闕トシテ成田榮信君ヲ大 漁船獎勵ニ關スル建議案委員高草美代藏君辭任ニ 付キ其補闕トシテ高木正年君ヲ執レモ議長ニ於テ選 定セリ
提出者 樋渡次右衛門君 樋竹龍三郎君	提出者 樋渡次右衛門君 樋竹龍三郎君	一昨八日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ 郡ノ併合ニ關スル建議案外一件委員
提出者 安達謙藏君 賴母木桂吉君 三木武吉君 平野光雄君	井上敬之助君 櫻内幸雄君 古屋慶隆君 神谷彌平君	井上敬之助君 櫻内幸雄君 古屋慶隆君 神谷彌平君
(以上三月八日提出)		石川玄三君 多木久米次郎君 土井權大君 本多貞次郎君 宮崎三之助君 鶴澤宇八君 佐々木平次郎君 濱口吉兵衛君

小樽官有地貸付ニ關スル質問主意書  
提出者 山本厚三君  
岡本幹輔君  
平出喜三郎君  
友田文次郎君  
(以上三月八日提出)

外務省所管事務政府委員被仰付  
一昨八日內閣總理大臣ヨリ左ノ通發令アリタル旨ノ通  
牒ヲ受領セリ

外務書記官 東鄉茂徳  
三三四 田川平三郎君  
四六三 田道襄一君  
市町村長又ハ郡長ハ遲滞ナク申立ニ關スル書類ヲ裁  
理事板野友造君(理事小橋藻三衛君補闕)

一昨八日理事補闕選舉ノ結果左ノ如シ  
大正十年度豫備金支出ノ件外二件(承諾ヲ求ムル  
件)委員

第一條 小作料其ノ他小作關係ニ付爭議ヲ生シタルト  
キハ當事者ハ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ヲ管轄ス  
ル地方裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得  
當事者ハ合意ヲ以テ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ヲ  
管轄スル區裁判所ニ調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第二條 調停ノ申立ハ爭議ノ目的タル土地ノ所在地ノ  
市町村長又ハ郡長ヲ經テ之ヲ爲スコトヲ得  
第三條 前條ノ規定ニ依ル調停ノ申立アリタルトキハ  
市町村長又ハ郡長ハ遲滞ナク申立ニ關スル書類ヲ裁  
判所ニ送付シ且町村長ニ在リテハ郡長ニ、郡長ニ在リ  
テハ町村長ニ申立アリタル旨ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス  
ハ調停ノ申立ヲ受ケタル市町村長又ハ郡長ハ關係市  
町村長及郡長ニ前項ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス  
第四條 裁判所直接ニ調停ノ申立ヲ受ケタルトキハ遲  
滯ナク之ヲ關係市町村長及郡長ニ通知スルコトヲ要  
ス但シ第七條第一項ノ規定ニ依リ事件ヲ移送スル場  
合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 調停ノ申立ハ爭議ノ實情ヲ明ニシテ之ヲ爲ス  
コトヲ要ス

第六條 調停ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコ  
トヲ得  
口頭ヲ以テ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ市町村吏員、郡  
書記又ハ裁判所書記其ノ調書ヲ作ルコトヲ要ス  
第七條 爭議ノ目的タル土地カ數箇ノ裁判所ノ管轄  
區域内ニ存スル場合ニ於テ調停ノ申立ヲ受ケタル地  
方裁判所又ハ區裁判所相當ト認ムルトキハ決定ヲ以  
テ事件ヲ他ノ管轄地方裁判所又ハ管轄區裁判所ニ  
移送スルコトヲ得管轄權ナキ裁判所カ調停ノ申立ヲ  
受ケタルトキ亦同シ

前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立シルコトヲ得ス  
第一項ノ場合ニ於テ事件ノ移送ヲ受ケタル裁判所ハ  
遷滞ナク關係市町村長及郡長ニ其ノ旨ノ通知ヲ爲ス  
コトヲ要ス

第八條 當事者暨ニ義務回避其ノ他不當ノ目的ヲ以  
テ調停ノ申立ヲ爲シタリト認ムルトキハ裁判所ハ其ノ  
申立ヲ却下スルコトヲ得

第九條 調停ノ申立ヲ受理シタル事件ニ付訴訟カ禁局

スルトキハ調停ノ終了ニ至ル迄訴訟手續ヲ中止ス

第十條 裁判所調停ノ申立ヲ受理シタルトキハ争議ノ

實情ニ鑑み直ニ調停ヲ爲シ又ハ調停委員會ハ開タコ

トヲ要ス  
当事者ノ申立アルトキハ裁判所ハ調停委員會ヲ開ク

コトヲ要ス

第十一條 裁判所事務ニ依リ適當ナル者アリト認ムル

トキハ先ツ之ヲシテ勘解ヲ爲サシムルコトヲ得

第十二條 当事者多數ナル場合ニ於テハ其ノ全部又ハ

一部ヲ代表シテ調停ニ關スル一切ノ行爲ヲ爲サシム

ル爲總代ヲ選任スルコトヲ得

總代ハ當事者中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ要ス

裁判所前項ノ規定ニ依ル總代ナキ場合ニ於テ必要ア

リト認ムルトキハ總代ノ選任ヲ命スルコトヲ要ス

第十三條 總代ノ選任ハ書面ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ

要ス  
裁判所前項ノ規定ニ依ル總代ノ選任ヲ命スルコトヲ

要ス  
效ナシ

第十四條 裁判所ハ期日ヲ定メ當事者又ハ總代ヲ呼

出スコトヲ要ス

前項ノ呼出ヲ受ケタル當事者又ハ總代ハ正當ノ事由

ナクシテ出頭ヲ拒ムコトヲ得ス

第十五條 調停ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル者ハ裁

判所ノ許可ヲ受ケ調停ニ參加スルコトヲ得

裁判所ハ調停ノ結果ニ付利害關係ヲ有スル者ノ參加

ヲ求ムルコトヲ得

第十六條 當事者總代及前條ノ利害關係人ハ自身

出頭スルコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ裁

判所ノ同様スルコトヲ得

裁判所ハ何時ニテモ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十七條 當事者總代及前條ノ利害關係人ハ自身

出頭スルコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ裁

判所ノ同様スルコトヲ得

裁判所ハ何時ニテモ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十八條 當事者總代及前條ノ利害關係人ハ自身

出頭スルコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ裁

判所ノ同様スルコトヲ得

裁判所ハ何時ニテモ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十九條 小作官ハ期日ニ出席シ裁判所ニ對シ事件ノ

條ノ市町村長又ハ郡長其ノ他適當ト認ムル者ニ對シ

意見ヲ求ムルコトヲ得

第二十條 裁判所必要アリト認ムルトキハ小作官、前

所ニ依ル

相當ト認ムル者ノ傍聽ヲ許スコトヲ得

第二十二條 裁判所ハ費用ヲ要スル行爲ニ付當事者ノ

一方又ハ雙方ヲシテ其ノ費用ヲ豫納セシムルコトヲ得

第二十三條 裁判所ニ對スル申立其ノ他ノ申述ハ書面

又ハ口頭ヲ以テ申述ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所書記其ノ

調書ヲ作ルコトヲ要ス

第二十四條 裁判所ノ調停ニ付テハ裁判所書記其ノ

調書ヲ作ルコトヲ要ス

第二十五條 裁判所ハ調停前調停ノ爲必要ト認ムル

措置ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 裁判所ノ調停條項中ニ費用ノ負擔ニ關

スル定ヲ爲サルトキハ各當事者ハ其ノ支出シタル費

用ヲ自ラ負擔ス

第二十七條 調停ハ裁判上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有

ス  
裁判所長之ヲ指定ス

第二十八條 調停委員會ハ調停主任一人及調停委員

二人以上ヲ以ア之ヲ組織ス

第二十九條 調停主任ハ判事ノ中ヨリ毎年豫メ地方

調停委員ハ調停ニ適當ナル者ニ就キ地方裁判所長ノ

選任シタル者ノ中ヨリ各事件ニ付調停主任之ヲ指定

ス但シ當事者カ合意ヲ以テ選定シタル者アルトキ又ハ

地方裁判所長ノ選任シタル者ニ就キ當事者雙方カ各

別ニ選定シタル者アルトキハ其ノ者ノ中ヨリ先ツ之ヲ

指定スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ指定セラレタル者ハ正當ノ事由ナク

シテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第三十條 調停主任ハ爭議ノ實情ニ鑑み適當ト認ムル

場所ニ於テ調停委員會ヲ開クコトヲ要ス

第三十一條 調停委員會ニ於ケル調停手續ハ調停主

任之ヲ指揮ス

第三十二條 調停委員會ノ決議ハ調停委員ノ過半數

ノ意見ニ依ル可否同數ナルトキハ調停主任ノ決議トス

所ニ依ル

第三十三條 第十一條乃至第二十六條ノ規定ハ調停

委員會ノ調停手續ニ之ヲ準用ス

第三十五條 調停委員會ハ當事者、總代又ハ利害關係

人ノ陳述ヲ聽キ且必要ト認ムルトキハ證據調査ヲ爲スコ

トヲ得

事訴訟法ヲ準用ス

證人及鑑定人ノ受クヘキ旅費日當及止宿料ニ付テハ

民事訴訟費用法ヲ準用ス

第三十六條 期日ニ於テ調停成ラサルトキハ調停委員

會ハ適當ト認ムル調停條項ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ調停條項ヲ定メタル場合ニ於テハ

調停委員會ハ其ノ調停ノ正本ヲ當事者、總代アルト

キハ總代ニ送付シ且當事者又ハ總代カ其ノ送付ヲ受

ケタル後一月内ニ異議ヲ述ヘサルトキハ調停ニ同意シ

タルモノト看做ス旨ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス

當事者又ハ總代カ前項ノ正本ノ送付ヲ受ケタル後一

月内ニ調停委員會ニ異議ヲ述ヘサルトキハ調停ニ同

意シタルモノト看做ス

調停委員會ハ申立ニ因リ前項ノ期間ヲ伸長スルコト

ヲ得期間ノ仲長ハ之ヲ相手方、總代アルトキハ總代ニ

通知スルコトヲ要ス

當事者又ハ總代カ異議ヲ述ヘタルトキハ調停委員會

ハ其ノ旨ヲ相手方、總代アルトキハ總代ニ通知スルコト

ヲ要ス

第三十七條 調停委員會第八條ニ規定スル事由アリ

ト認ムルトキハ調停ヲ爲サルコトヲ得

第三十八條 調停成リタルトキ又ハ第三十六條第二

項ノ規定ニ依リ調停ニ同意シタルモノト看做サレタル

トキハ裁判所ハ調停主任ノ報告ヲ聽キ調停ノ認否ニ

付決定ヲ爲スコトヲ要ス

調停認可ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

調停不認可ノ決定ニ對シテハ當事者又ハ總代ハ民事

訴訟法ニ從ヒ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第三十九條 裁判所ハ調停カ著ク公正ナラスト認ムル

場合ニ非サレハ調停不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ得

第四十條 調停委員會ニ開キタル場合ニ於テハ調停ハ

認可決定アリタルトキニ限リ裁判上ノ和解ト同一ノ

效力ヲ有ス

第四十一條 裁判所調停認可ノ決定ヲ總代ニ告知シ

タル場合ニ於テハ調停條項ヲ爭議ノ目的タル土地ノ

所在地ノ市役所又ハ町村役場ノ掲示場ニ掲示スルコ

トヲ要ス

第四十二条 調停委員會必要アリト認ムルトキハ調停

ノ經過ヲ公表スルコトヲ得

所在地ノ市町村長ニ通知スルコトヲ要ス

第四十三条 調停事件終了シタルトキハ裁判所ハ其ノ

結果ヲ關係市町村長ニ通知スルコトヲ要ス

第四十四条 調停ノ申立ヲ爲スハ手數料ヲ納付スル

コトヲ要ス

第二十一條 調停手續ハ之ヲ公開セス但シ裁判所ハ

コトヲ得

第二十二條 裁判所ハ費用ヲ要スル行爲ニ付當事者ノ

一方又ハ雙方ヲシテ其ノ費用ヲ豫納セシムルコトヲ得

第二十三條 裁判所ニ對スル申立其ノ他ノ申述ハ書面

又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 裁判所ノ調停ニ付テハ裁判所書記其ノ

調書ヲ作ルコトヲ要ス

第二十五條 裁判所ハ調停前調停ノ爲必要ト認ムル

措置ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 裁判所ノ調停ニ付テハ裁判所書記其ノ

調書ヲ作ルコトヲ要ス

第二十七條 調停ハ裁判上ノ和解ト同一ノ效力ヲ有

ス  
裁判所長之ヲ指定ス

第二十八條 調停委員會ハ調停主任一人及調停委員

二人以上ヲ以ア之ヲ組織ス

第二十九條 調停主任ハ判事ノ中ヨリ毎年豫メ地方

調停委員ハ調停ニ適當ナル者ニ就キ地方裁判所長ノ

選任シタル者ノ中ヨリ各事件ニ付調停主任之ヲ指定

ス但シ當事者カ合意ヲ以テ選定シタル者アルトキ又ハ

地方裁判所長ノ選任シタル者ニ就キ當事者雙方カ各

別ニ選定シタル者アルトキハ其ノ者ノ中ヨリ先ツ之ヲ

指定スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ指定セラレタル者ハ正當ノ事由ナク

シテ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第三十條 調停主任ハ爭議ノ實情ニ鑑み適當ト認ムル

場所ニ於テ調停委員會ヲ開クコトヲ要ス

第三十一條 調停委員會ニ於ケル調停手續ハ調停主

任之ヲ指揮ス

第三十二條 調停委員會ノ決議ハ調停委員ノ過半數

ノ意見ニ依ル可否同數ナルトキハ調停主任ノ決議トス

所ニ依ル

第四十五條 當事者又ハ利害關係人ハ手數料ヲ納付シテ記録ノ閲覽若ハ勝寫又ハ其ノ正本、勝本、抄本若ハ事件ニ關スル證明書ノ付與ヲ裁判所書記ニ求ム

ルコトヲ得但シ當事者カ事件ノ繁屬中記錄ノ閲覽又ハ勝寫ヲ爲ス場合ニ於テハ手數料ヲ納付スルコトヲ要セス

第四十六條 調停委員及第十一條又ハ第三十四條ノ規定ニ依リ勘解ヲ爲シタル者ニハ、旅費、日當及止宿料ヲ給ス

第四十七條 第四十四條及第四十五條ノ手數料並前條ノ旅費、日當及止宿料ノ額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條 本法中郡長又ハ郡書記トアルハ北海道ニ於テハ北海道廳支廳長又ハ北海道廳屬、島司ヲ置キタル島嶼ニ於テハ島司又ハ島廳書記トス

本法中町村長、町村吏員又ハ町村役場トアルハ町村役場ニ準スルモノトス

第四十九條 第三十四條ノ規定ニ依ル呼出ヲ受ケタル者正當ノ事由ナクシテ出頭セサルトキハ調停事件ノ繫屬スル裁判所ハ調停委員會ノ意見ヲ聽キ五拾圓以下ノ過料ニ處スルコトヲ得

非訟事件手續法第二百七條及第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

第五十條 調停委員又ハ調停委員タリシ者故ナク評議ノ顛末又ハ調停主任、調停委員ノ意見若ハ其ノ多少ノ數ヲ漏泄シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附 則  
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(國務大臣荒井賢太郎君登壇)

○國務大臣(荒井賢太郎君) 小作調停法案ノ提出ノ大體ノ理由ヲ説明致シマス、小作問題ハ我國ノ現下ノ最重要ナ問題デアリマスル、ソレ故ニ政府ニ於キマシテハ、主トシテ其根本調査並ニ對策ニ關シマシテ、廣ク且ツ長キニ瓦リマシテ、慎重ナル調査審議ヲ進メシハアリマスルノデゴザイマスル當而ノ小作爭議ノ解釋ニ關シマシテハ、地方官廳ヲシテ常ニ深甚ノ注意ヲ拂ハシメツ、アリマスデ、其外主トシテ地方ニ於ケル名望家ニアリマシテ、且ツ地方ニ於ケル信望ヲ高イ人アアルトカ、或ハ郡市町村ノ官吏アルトカ、或ハ警察官アルトカ又或ハ農會アルトカ、產業組合アルトカ云フモノ、盡力ニ依リテ、事實上ノ調停ニ任シテ居ル次第デゴザ

イマス、然ルニ近時ノ情勢ヲ見マスルト云アト、各地方ノ状況ニ察シマシテモ、此小作爭議ハ漸次頻發スルノ状況ニ在リマスルノデ、此争タルヤ固ヨリ主トシテ經濟上ノ利益分配ヲ中心トシテ生ズルモノアルト云フコトハ、争フベカラガル

事デゴザイマスルガ、併シ其間ニ於テ自然當事者間ノ感情ニ背馳或ハ衝突ヲ來スト云フヤウナコトガ生ジマシテ、其爲ニ社會一般ニ不安ノ法ヲ惹起シテ、前途頗ル憂慮スベキモノガアリマスル次第デゴザイマスル、斯様ナ現在ノ事實ト趨勢ニ對シマシテ、國家が慎重ニ調查ヲ致シマシテ、是ガ根本策ヲ樹立スルト云フコトモ固ヨリ必要ノ事デアラウトハ存ジマスル、併ナグラ先以テソレ迄ニ起リマスル所ノ小作爭議ノ解決ニ對シマシテハ、現在ノ調停即チ事實上民間若クハ官公吏ノ調停ニ一任シテ置キマシタ其情勢ニ對シマシテ、更ニ一步ヲ進メタル何等カノ施設ヲ以テ是ガ解決ヲ圖ルト云フコトガ、現下必要ノ事デアラウト考ヘテ居ルノデゴザイマスル、此趣旨ニ基キマシテ、政府ハ今回小作制度調査會ノ成案ニ基キマシテ、更ニ慎重ナル考慮ヲ加ヘマシテ、茲ニ小作調停法トシテ本案ヲ提出致シタ次第デゴザイマス、抑、本案ノ目的ハ公平ノ立場ニ在リマスル調停機關ヲシテ、當事者ノ協調和解ヲ促進シ、圓滿ナル解決ヲ得セシメタイト云フノニアリマスル、デ即チ、當事者ノ申立て依リマシテ、判事ニ民間適當ノ委員ヲ加ヘタル調停委員會ヲ組織シマシテ、必要ニ應ジマシテ隨所ニ出張シテ調停ノ任ニ當ラシメタイ、而シテ當事者雙方が膝ヲ交ヘテ互讓和解セシメルコトニ、此委員會ヲシテ努力斡旋ヲ致サシメタイト斯ウ云フ趣旨ニ在ルノデゴザイマス、而シテ其調停ノ結果ニ對シマシテハ、裁判所ノ認可決定ヲ以テ、裁判上ノ和解ト同一ノ效果ヲ付與シタイ、斯ウ云フ考デゴザイマスル、左様致シマシテ、在來ノ所謂事實上ノ調停ト併せ行ハシメルヤウニ致シタイ、即チ小作爭議ノ程度ニ應ジマシテ、在來ノ事實上ノ調停ニ依ラシメ或ハ今回此法案ニ於テ設ケマスル調停機關ニ依リテ解決セシメタイ、双方ヲ用ヒテ往キタス、斯ウ云フ積リデゴザイマスル、ソレ故ニ或ハ本法ニ依リテ調停ノ申出ガアリマシタル爭議ニ付キマシテモ、先づ勘解即チ事實上ノ調停ニ付シ得ル途ヲ設ケマシタリ、又郡市町村長等ト密接ノ關係ヲ保持シ、又或ハ主要地方ニ小作官ナル行政官ヲ特設致シマシテ、當時其地方ノ事情ニ通セシメマシテ、以テ調停上協力ヲ當而ノ小作爭議ノ解釋ニ關シマシテハ、地方官廳ヲシテ常ニ深入甚ノ注意ヲ拂ハシメツ、アリマスデ、殊ニ此成案ヲ見ルニ人士ヲ集メマシテ、廣ク且ツ長キニ瓦リマシテ、慎重ナル調査審議ヲ進メシハアリマスルノデゴザイマスル

當而ノ小作争議ノ解釋ニ關シマシテハ、地方官廳ヲシテ常ニ深入甚ノ注意ヲ拂ハシメツ、アリマスデ、其外主トシテ地方ニ於ケル名望家ニアリマシテ、且ツ地方ニ於ケル信望ヲ高イ人アアルトカ、或ハ郡市町村ノ官吏アルトカ、或ハ警察官アルトカ又或ハ農會アルトカ、産業組合アルトカ云フモノ、盡力ニ依リテ、事實上ノ調停ニ任シテ居ル次第デゴザ

○田中萬逸君 本員ハ只今議題ニ供サレテ居リマス小作調停法案ニ對シテ、五點ニ瓦ル質問ヲ試ミタイト思ヒマス、近來小作争議ガ各所ニ頻發ヲ致シ、サナカラ燎原ノ火ノ如キ勢ヲ以テ更ニ各地ニ傳播蔓延ヲ致シ、既ニ一個ノ社會問題ニ化シテ居リマスルコトハ諸君ノ御存知ノ如クデアリマス、ソレガ爲ニ所謂平和ノ樂園トサヘ呼バレテ居リマシタ我が農村ニ於キマシテハ、忌ハシキ所ノ階級鬭争ノ巷ニ化ゼンコトハ、帝國ノ存立上一日一刻ト雖モ等閑視スルコトヲ容トスルニ至ル傾カアリ、遂ニ思想上ノ悪化ヲ招イテ、農村荒廢ノ原因ヲ醸成スルニ至ダコトハ洵ニ憂慮スベキ次第デアリマス、而シテ此農村ノ荒廢ヲ救濟シ、是ガ振興ヲ策スルコトハ、帝國ノ存立上一日一刻ト雖モ等閑視スルコトヲ容サム所ノ重大問題デアリマシテ、現ニ當議會ニ於キマシテモ、此問題ハ最も重要な要件トシテ、目下委員會ニ於テ調停法トシテ本案ヲ提出致シタ次第デゴザイマス、斯カル折柄内調停法トシテ本法ヲ提出致シタ次第デゴザイマス、當事者ノ協調和解ヲ促進シ、圓滿ナル解決ヲ得セシメタイト云フノニアリマスル、デ即チ、當事者ノ申立て依リマシテ、判事ニ民間適當ノ委員ヲ加ヘタル調停委員會ヲ組織シマシテ、必要ニ應ジマシテ隨所ニ出張シテ調停ノ任ニ當ラシメタイ、而シテ當事者雙方が膝ヲ交ヘテ互讓和解セシメルコトニ、此委員會ヲシテ努力斡旋ヲ致サシメタイト斯ウ云フ趣旨ニ在ルノデゴザイマス、而シテ其調停ノ結果ニ對シマシテハ、裁判所ノ認可決定ヲ以テ、裁判上ノ和解ト同一ノ效果ヲ付與シタイ、斯ウ云フ考デゴザイマスル、左様致シマシテ、在來ノ所謂事實上ノ調停ト併せ行ハシメルヤウニ致シタイ、即チ小作争議ノ程度ニ應ジマシテ、在來ノ事實上ノ調停ニ依ラシメ或ハ今回此法案ニ於テ設ケマスル調停機關ニ依リテ解決セシメタイ、双方ヲ用ヒテ往キタス、斯ウ云フ積リデゴザイマスル、ソレ故ニ或ハ本法ニ依リテ調停ノ申出ガアリマシタル争議ニ付キマシテモ、先づ勘解即チ事實上ノ調停ニ付シ得ル途ヲ設ケマシタリ、又郡市町村長等ト密接ノ關係ヲ保持シ、又或ハ主要地方ニ小作官ナル行政官ヲ特設致シマシテ、當時其地方ノ事情ニ通セシメマシテ、以テ調停上協力ヲ當而ノ小作争議ノ解釋ニ關シマシテハ、地方官廳ヲシテ常ニ深入甚ノ注意ヲ拂ハシメツ、アリマスデ、其外主トシテ地方ニ於ケル名望家ニアリマシテ、且ツ地方ニ於ケル信望ヲ高イ人アアルトカ、或ハ郡市町村ノ官吏アルトカ、或ハ警察官アルトカ又或ハ農會アルトカ、産業組合アルトカ云フモノ、盡力ニ依リテ、事實上ノ調停ニ任シテ居ル次第デゴザ

○田中萬逸君登壇)

○田中萬逸君 本員ハ只今議題ニ供サレテ居リマス小作調停法案ニ對シテ、五點ニ瓦ル質問ヲ試ミタイト思ヒマス、近來小作争議ガ各所ニ頻發ヲ致シ、サナカラ燎原ノ火ノ如キ勢ヲ以テ更ニ各地ニ傳播蔓延ヲ致シ、既ニ一個ノ社會問題ニ化シテ居リマスルコトハ諸君ノ御存知ノ如クデアリマス、ソレガ爲ニ所謂平和ノ樂園トサヘ呼バレテ居リマシタ我が農村ニ於キマシテハ、忌ハシキ所ノ階級鬭争ノ巷ニ化ゼンコトハ、帝國ノ存立上一日一刻ト雖モ等閑視スルコトヲ容トスルニ至ル傾カアリ、遂ニ思想上ノ悪化ヲ招イテ、農村荒廢ノ原因ヲ醸成スルニ至ダコトハ洵ニ憂慮スベキ次第デアリマス、而シテ此農村ノ荒廢ヲ救濟シ、是ガ振興ヲ策スルコトハ、帝國ノ存立上一日一刻ト雖モ等閑視スルコトヲ容サム所ノ重大問題デアリマシテ、現ニ當議會ニ於キマシテモ、此問題ハ最も重要な要件トシテ、目下委員會ニ於テ調停法トシテ本案ヲ提出致シタ次第デゴザイマス、斯カル折柄内調停法トシテ本法ヲ提出致シタ次第デゴザイマス、當事者ノ協調和解ヲ促進シ、圓滿ナル解決ヲ得セシメタイト云フノニアリマスル、デ即チ、當事者ノ申立て依リマシテ、判事ニ民間適當ノ委員ヲ加ヘタル調停委員會ヲ組織シマシテ、必要ニ應ジマシテ隨所ニ出張シテ調停ノ任ニ當ラシメタイ、而シテ當事者雙方が膝ヲ交ヘテ互讓和解セシメルコトニ、此委員會ヲシテ努力斡旋ヲ致サシメタイト斯ウ云フ趣旨ニ在ルノデゴザイマス、而シテ其調停ノ結果ニ對シマシテハ、裁判所ノ認可決定ヲ以テ、裁判上ノ和解ト同一ノ效果ヲ付與シタイ、斯ウ云フ考デゴザイマスル、左様致シマシテ、在來ノ所謂事實上ノ調停ト併せ行ハシメルヤウニ致シタイ、即チ小作争議ノ程度ニ應ジマシテ、在來ノ事實上ノ調停ニ依ラシメ或ハ今回此法案ニ於テ設ケマスル調停機關ニ依リテ解決セシメタイ、双方ヲ用ヒテ往キタス、斯ウ云フ積リデゴザイマスル、ソレ故ニ或ハ本法ニ依リテ調停ノ申出ガアリマシタル争議ニ付キマシテモ、先づ勘解即チ事實上ノ調停ニ付シ得ル途ヲ設ケマシタリ、又郡市町村長等ト密接ノ關係ヲ保持シ、又或ハ主要地方ニ小作官ナル行政官ヲ特設致シマシテ、當時其地方ノ事情ニ通セシメマシテ、以テ調停上協力ヲ當而ノ小作争議ノ解釋ニ關シマシテハ、地方官廳ヲシテ常ニ深入甚ノ注意ヲ拂ハシメツ、アリマスデ、其外主トシテ地方ニ於ケル名望家ニアリマシテ、且ツ地方ニ於ケル信望ヲ高イ人アアルトカ、或ハ郡市町村ノ官吏アルトカ、或ハ警察官アルトカ又或ハ農會アルトカ、産業組合アルトカ云フモノ、盡力ニ依リテ、事實上ノ調停ニ任シテ居ル次第デゴザ

○田中萬逸君 本員ハ只今議題ニ供サレテ居リマス小作調停法案ニ對シテ、五點ニ瓦ル質問ヲ試ミタイト思ヒマス、近來小作争議ガ各所ニ頻發ヲ致シ、サナカラ燎原ノ火ノ如キ勢ヲ以テ更ニ各地ニ傳播蔓延ヲ致シ、既ニ一個ノ社會問題ニ化シテ居リマスルコトハ諸君ノ御存知ノ如クデアリマス、ソレガ爲ニ所謂平和ノ樂園トサヘ呼バレテ居リマシタ我が農村ニ於キマシテハ、忌ハシキ所ノ階級鬭争ノ巷ニ化ゼンコトハ、帝國ノ存立上一日一刻ト雖モ等閑視スルコトヲ容トスルニ至ル傾カアリ、遂ニ思想上ノ悪化ヲ招イテ、農村荒廢ノ原因ヲ醸成スルニ至ダコトハ洵ニ憂慮スベキ次第デアリマス、而シテ此農村ノ荒廢ヲ救濟シ、是ガ振興ヲ策スルコトハ、帝國ノ存立上一日一刻ト雖モ等閑視スルコトヲ容サム所ノ重大問題デアリマシテ、現ニ當議會ニ於キマシテモ、此問題ハ最も重要な要件トシテ、目下委員會ニ於テ調停法トシテ本案ヲ提出致シタ次第デゴザイマス、斯カル折柄内調停法トシテ本法ヲ提出致シタ次第デゴザイマス、當事者ノ協調和解ヲ促進シ、圓滿ナル解決ヲ得セシメタイト云フノニアリマスル、デ即チ、當事者ノ申立て依リマシテ、判事ニ民間適當ノ委員ヲ加ヘタル調停委員會ヲ組織シマシテ、必要ニ應ジマシテ隨所ニ出張シテ調停ノ任ニ當ラシメタイ、而シテ當事者雙方が膝ヲ交ヘテ互讓和解セシメルコトニ、此委員會ヲシテ努力斡旋ヲ致サシメタイト斯ウ云フ趣旨ニ在ルノデゴザイマス、而シテ其調停ノ結果ニ對シマシテハ、裁判所ノ認可決定ヲ以テ、裁判上ノ和解ト同一ノ效果ヲ付與シタイ、斯ウ云フ考デゴザイマスル、左様致シマシテ、在來ノ所謂事實上ノ調停ト併せ行ハシメルヤウニ致シタイ、即チ小作争議ノ程度ニ應ジマシテ、在來ノ事實上ノ調停ニ依ラシメ或ハ今回此法案ニ於テ設ケマスル調停機關ニ依リテ解決セシメタイ、双方ヲ用ヒテ往キタス、斯ウ云フ積リデゴザイマスル、ソレ故ニ或ハ本法ニ依リテ調停ノ申出ガアリマシタル争議ニ付キマシテモ、先づ勘解即チ事實上ノ調停ニ付シ得ル途ヲ設ケマシタリ、又郡市町村長等ト密接ノ關係ヲ保持シ、又或ハ主要地方ニ小作官ナル行政官ヲ特設致シマシテ、當時其地方ノ事情ニ通セシメマシテ、以テ調停上協力ヲ當而ノ小作争議ノ解釋ニ關シマシテハ、地方官廳ヲシテ常ニ深入甚ノ注意ヲ拂ハシメツ、アリマスデ、其外主トシテ地方ニ於ケル名望家ニアリマシテ、且ツ地方ニ於ケル信望ヲ高イ人アアルトカ、或ハ郡市町村ノ官吏アルトカ、或ハ警察官アルトカ又或ハ農會アルトカ、産業組合アルトカ云フモノ、盡力ニ依リテ、事實上ノ調停ニ任シテ居ル次第デゴザ

○田中萬逸君 本員ハ只今議題ニ供サレテ居リマス小作調停法案ニ對シテ、五點ニ瓦ル質問ヲ試ミタイト思ヒマス、近來小作争議ガ各所ニ頻發ヲ致シ、サナカラ燎原ノ火ノ如キ勢ヲ以テ更ニ各地ニ傳播蔓延ヲ致シ、既ニ一個ノ社會問題ニ化シテ居リマスルコトハ諸君ノ御存知ノ如クデアリマス、ソレガ爲ニ所謂平和ノ樂園トサヘ呼バレテ居リマシタ我が農村ニ於キマシテハ、忌ハシキ所ノ階級鬭争ノ巷ニ化ゼンコトハ、帝國ノ存立上一日一刻ト雖モ等閑視スルコトヲ容トスルニ至ル傾カアリ、遂ニ思想上ノ悪化ヲ招イテ、農村荒廢ノ原因ヲ醸成スルニ至ダコトハ洵ニ憂慮スベキ次第デアリマス、而シテ此農村ノ荒廢ヲ救濟シ、是ガ振興ヲ策スルコトハ、帝國ノ存立上一日一刻ト雖モ等閑視スルコトヲ容サム所ノ重大問題デアリマシテ、現ニ當議會ニ於キマシテモ、此問題ハ最も重要な要件トシテ、目下委員會ニ於テ調停法トシテ本案ヲ提出致シタ次第デゴザイマス、斯カル折柄内調停法トシテ本法ヲ提出致シタ次第デゴザイマス、當事者ノ協調和解ヲ促進シ、圓滿ナル解決ヲ得セシメタイト云フノニアリマスル、デ即チ、當事者ノ申立て依リマシテ、判事ニ民間適當ノ委員ヲ加ヘタル調停委員會ヲ組織シマシテ、必要ニ應ジマシテ隨所ニ出張シテ調停ノ任ニ當ラシメタイ、而シテ當事者雙方が膝ヲ交ヘテ互讓和解セシメルコトニ、此委員會ヲシテ努力斡旋ヲ致サシメタイト斯ウ云フ趣旨ニ在ルノデゴザイマス、而シテ其調停ノ結果ニ對シマシテハ、裁判所ノ認可決定ヲ以テ、裁判上ノ和解ト同一ノ效果ヲ付與シタイ、斯ウ云フ考デゴザイマスル、左様致シマシテ、在來ノ所謂事實上ノ調停ト併せ行ハシメルヤウニ致シタイ、即チ小作争議ノ程度ニ應ジマシテ、在來ノ事實上ノ調停ニ依ラシメ或ハ今回此法案ニ於テ設ケマスル調停機關ニ依リテ解決セシメタイ、双方ヲ用ヒテ往キタス、斯ウ云フ積リデゴザイマスル、ソレ故ニ或ハ本法ニ依リテ調停ノ申出ガアリマシタル争議ニ付キマシテモ、先づ勘解即チ事實上ノ調停ニ付シ得ル途ヲ設ケマシタリ、又郡市町村長等ト密接ノ關係ヲ保持シ、又或ハ主要地方ニ小作官ナル行政官ヲ特設致シマシテ、當時其地方ノ事情ニ通セシメマシテ、以テ調停上協力ヲ當而ノ小作争議ノ解釋ニ關シマシテハ、地方官廳ヲシテ常ニ深入甚ノ注意ヲ拂ハシメツ、アリマスデ、其外主トシテ地方ニ於ケル名望家ニアリマシテ、且ツ地方ニ於ケル信望ヲ高イ人アアルトカ、或ハ郡市町村ノ官吏アルトカ、或ハ警察官アルトカ又或ハ農會アルトカ、産業組合アルトカ云フモノ、盡力ニ依リテ、事實上ノ調停ニ任シテ居ル次第デゴザ

農商務大臣ノ腰ノ餘リニ弱サニ一驚ヲ喫セザルヲ得ナリマス、拍手元來農商務大臣ノ御腰ハ餘リ御強クハナリ、其御強クナイコトハ彼ノ物價調節ニ當テ、是亦政友會ノ掣肘ニ依テ枝葉末節ニ過ギナイ所ノ十九箇條ノ項目ヲ發表セラレシ際ニ於テ、吾々ハ既ニ之ヲ周知致シテ居ルノアル、苟モ農務行政ノ首腦ニ在ル所ノ方ガ、國力發展ノ上ヨリ觀テ、一日モ忽ニスベカラザル農村振興上頗ル有力ナル、重要ナル問題ヲ提出スルニ當テ、政黨ノ聲息ヲ窺テ其時機ヲ失シ、會期切迫ノ今日握潰シテ豫想致シテ提出スルナドトノ疑問ヲ懷カシム態度ニ出デラレタト云フコトハ、一體何タル態タラクアル、若シサウデ無イトスレバ、立派ニ此案ヲバ貴衆兩院ヲ通過サセテ御覽ナサルガ宜イ、若シソレガ出來ヌ以上ハ、飽迄モ荒井農商務大臣ノ誠意ヲ疑ハザルヲ得ナイノアリマス（拍手）殊ニ農商務大臣ハ、此小作問題ハ曾テ此問題ヲ中心トシテ、農村振興ノ問題ノ名下ニ畏多クモ攝政宮殿下ノ上聞ニ達シテ、昨年ノ夏ト覺エマスルガ、時ノ農務局長岡本君、即チ現任ノ農商務次官岡本英太郎君ヲ特ニ霞ヶ關ノ離宮ニ召セラレ、前後二時間ニ亘リ親シク御下問アラセラレタコトヲ、ヨモヤ御承知無イコトハナカラウト存ズルノアリマス、英明ニ渡ラセラレル所ノ殿下ガ、岡本次官ヲ召セサセ給ウタノハ、畢竟スルニ疲弊困憊ニ趨ク所ノ我ガ農村ノ現在並ニ將來、而シテ其原因デアル所ノ此小作爭議是等ヲ憂慮アラセ給ウタ結果デアルト吾々ハ拜察致スサヘモ畏キ次第デアリマス、然ルニ荒井農商務大臣ハ頗ル輕々シクナル御説ヲ拜シテ誠ニ感激措ク所ヲ知ラズ、其聖恩ノ添ナシニ感涙ニ咽ビシ我が農業者ハ、蓋シ妙クナカッタデアラウト信ズルノアリマス、然ルニ荒井農商務大臣ハ頗ル輕々シク本問題ヲ取扱テ居ラル、ノミナラズ、小作問題ヲ中心トセル農村振興ノ問題ニ對シテスラ、斯ノ如キ吾々了解ニ苦シム所ノ言辭ヲ弄シテ居ラレル、現ニ本年ノ新年ニ當テ、其年頭ノ所感ヲ述ベルニ際シ、大臣ハ斯様ニ言ハレテ居ル「農村ノ疲弊ハ事實デアルガ政府トシテ之ヲ救濟スル妙策ハ無イ」ト放言サレテ居ルデハナカク、又或ル雑誌ニ「目下ノ窮境ト云フコトハ有ユル社會ヲ通ジテ現象デアラズ、單ニ農村ノミテハナイノグ、恰モ自己ノ農務行政ノ首腦アルコトヲ忘レタルガ如キ言辭ヲ弄シテ居ラレルガ、吾々農業者ハ此御説ヲ拜承シテ失望落膽スルコトハ一方ナラヌノアリマス、物價調節ニ當テ、必ズ物價調節ヲ行フト聲明セラレタ其聲明モ、單ニ一種ノ掛聲ニ了シタ、此點ヲ見テモ堅ク聲明セラレタ事サヘモ實行セラレナイカ、又或ル雑誌ニ「目下ノ窮境ト云フコトハ有ユル社會ヲ通ジテ現象デアラズ、單ニ農商務大臣ガ、縱シ農村ノ振興ニ對シテ力ヲ盡シテヤルト仰シャテモ、其言葉ハ大ニ割引シテ聽カナケレバナラヌ、ノミナラズ、農村ノ疲弊ハ事實デアルガ、何等妙策ハ無イ、對策ハ

無イト言ハレタ以上ハ、吾々農村ニ居ル者ハ全ク立憲ガ無イト言フテ失望ノ餘、落膽ノ餘、轉業ヲシタ者モ尠クナ、延イテ是等ノ爲ニ小作争議ヲ頻出シ、現ニ小作争議ヲ更ニ勃發セシムニ至シタ云フコトハ、御調査ニ依テ明カダアラウト思フ、斯ノ如クニシテ果シテ英明ナル所ノ攝政宮殿下ノ優渥ナル御下問——此感泣スベキ御下問ニ奉答スルノ道デアルト思テ居ラレルカ、吾々ハ荒井農商務大臣ノ言動ヲ見得ナイノアリマス（拍手）殊ニ農商務大臣ニ對シテ、農村振興ノ一體何タル態タラクアル、若シサウデ無イトスレバ、立派ニ此案ヲバ貴衆兩院ヲ通過サセテ御覽ナサルガ宜イ、若シソレガ出來ヌ以上ハ、飽迄モ荒井農商務大臣ノ誠意ヲ疑ハザルヲ得ナイノアリマス（拍手）殊ニ農商務大臣ハ、此小作問題ハ曾テ此問題ヲ中心トシテ、農村振興ノ問題ノ名下ニ畏多クモ攝政宮殿下ノ上聞ニ達シテ、昨年ノ夏ト覺エマスルガ、時ノ農務局長岡本君、即チ現任ノ農商務次官岡本英太郎君ヲ特ニ霞ヶ關ノ離宮ニ召セラレ、前後二時間ニ亘リ親シク御下問アラセラレタコトヲ、ヨモヤ御承知無イコトハナカラウト存ズルノアリマス、英明ニ渡ラセラレル所ノ殿下ガ、岡本次官ヲ召セサセ給ウタノハ、畢竟スルニ疲弊困憊ニ趨ク所ノ我ガ農村ノ現在並ニ將來、而シテ其原因デアル所ノ此小作争議是等ヲ憂慮アラセ給ウタ結果デアルト吾々ハ拜察致スサヘモ畏キ次第デアリマス、然ルニ荒井農商務大臣ハ頗ル輕々シクナル御説ヲ拜シテ誠ニ感激措ク所ヲ知ラズ、其聖恩ノ添ナシニ感涙ニ咽ビシ我が農業者ハ、蓋シ妙クナカッタデアラウト信ズルノアリマス、然ルニ荒井農商務大臣ハ頗ル輕々シク本問題ヲ取扱テ居ラル、ノミナラズ、小作問題ヲ中心トセル農村振興ノ問題ニ對シテスラ、斯ノ如キ吾々了解ニ苦シム所ノ言辭ヲ弄シテ居ラレル、現ニ本年ノ新年ニ當テ、其年頭ノ所感ヲ述ベルニ際シ、大臣ハ斯様ニ言ハレテ居ル「農村ノ疲弊ハ事實デアルガ政府トシテ之ヲ救濟スル妙策ハ無イ」ト放言サレテ居ルデハナカク、又或ル雑誌ニ「目下ノ窮境ト云フコトハ有ユル社會ヲ通ジテ現象デアラズ、單ニ農村ノミテハナイノグ、恰モ自己ノ農務行政ノ首腦アルコトヲ忘レタルガ如キ言辭ヲ弄シテ居ラレルガ、吾々農業者ハ此御説ヲ拜承シテ失望落膽スルコトハ一方ナラヌノアリマス、物價調節ニ當テ、必ズ物價調節ヲ行フト聲明セラレタ其聲明モ、單ニ一種ノ掛聲ニ了シタ、此點ヲ見テモ堅ク聲明セラレタ事サヘモ實行セラレナイカ、又或ル雑誌ニ「目下ノ窮境ト云フコトハ有ユル社會ヲ通ジテ現象デアラズ、單ニ農商務大臣ガ、縱シ農村ノ振興ニ對シテ力ヲ盡シテヤルト仰シャテモ、其言葉ハ大ニ割引シテ聽カナケレバナラヌ、ノミナラズ、農村ノ疲弊ハ事實デアルガ、何等妙策ハ無イ、對策ハ

無イト言ハレタ以上ハ、吾々農村ニ居ル者ハ全ク立憲ガ無イト言フテ失望ノ餘、落膽ノ餘、轉業ヲシタ者モ専クナ、延イテ是等ノ爲ニ小作争議ヲ頻出シ、現ニ小作争議ヲ更ニ勃發セシムニ至シタ云フコトハ、御調査ニ依テ明カダアラウト思フ、斯ノ如クニシテ果シテ英明ナル所ノ攝政宮殿下ノ優渥ナル御下問——此感泣スベキ御下問ニ奉答スルノ道デアルト思テ居ラレルカ、吾々ハ荒井農商務大臣ノ言動ヲ見得ナイノアリマス（拍手）殊ニ農商務大臣ニ對シテ、農村振興ノ一體何タル態タラクアル、若シサウデ無イトスレバ、立派ニ此案ヲバ貴衆兩院ヲ通過サセテ御覽ナサルガ宜イ、若シソレガ出來ヌ以上ハ、飽迄モ荒井農商務大臣ノ誠意ヲ疑ハザルヲ得ナイノアリマス（拍手）殊ニ農商務大臣ハ、此小作問題ハ曾テ此問題ヲ中心トシテ、農村振興ノ問題ノ名下ニ畏多クモ攝政宮殿下ノ上聞ニ達シテ、昨年ノ夏ト覺エマスルガ、時ノ農務局長岡本君、即チ現任ノ農商務次官岡本英太郎君ヲ特ニ霞ヶ關ノ離宮ニ召セラレ、前後二時間ニ亘リ親シク御下問アラセラレタコトヲ、ヨモヤ御承知無イコトハナカラウト存ズルノアリマス、英明ニ渡ラセラレル所ノ殿下ガ、岡本次官ヲ召セサセ給ウタノハ、畢竟スルニ疲弊困憊ニ趨ク所ノ我ガ農村ノ現在並ニ將來、而シテ其原因デアル所ノ此小作争議是等ヲ憂慮アラセ給ウタ結果デアルト吾々ハ拜察致スサヘモ畏キ次第デアリマス、然ルニ荒井農商務大臣ハ頗ル輕々シクナル御説ヲ拜シテ誠ニ感激措ク所ヲ知ラズ、其聖恩ノ添ナシニ感涙ニ咽ビシ我が農業者ハ、蓋シ妙クナカッタデアラウト信ズルノアリマス、然ルニ荒井農商務大臣ハ頗ル輕々シク本問題ヲ取扱テ居ラル、ノミナラズ、小作問題ヲ中心トセル農村振興ノ問題ニ對シテスラ、斯ノ如キ吾々了解ニ苦シム所ノ言辭ヲ弄シテ居ラレル、現ニ本年ノ新年ニ當テ、其年頭ノ所感ヲ述ベルニ際シ、大臣ハ斯様ニ言ハレテ居ル「農村ノ疲弊ハ事實デアルガ政府トシテ之ヲ救濟スル妙策ハ無イ」ト放言サレテ居ルデハナカク、又或ル雑誌ニ「目下ノ窮境ト云フコトハ有ユル社會ヲ通ジテ現象デアラズ、單ニ農村ノミテハナイノグ、恰モ自己ノ農務行政ノ首腦アルコトヲ忘レタルガ如キ言辭ヲ弄シテ居ラレルガ、吾々農業者ハ此御説ヲ拜承シテ失望落膽スルコトハ一方ナラヌノアリマス、物價調節ニ當テ、必ズ物價調節ヲ行フト聲明セラレタ其聲明モ、單ニ一種ノ掛聲ニ了シタ、此點ヲ見テモ堅ク聲明セラレタ事サヘモ實行セラレナイカ、又或ル雑誌ニ「目下ノ窮境ト云フコトハ有ユル社會ヲ通ジテ現象デアラズ、單ニ農商務大臣ガ、縱シ農村ノ振興ニ對シテ力ヲ盡シテヤルト仰シャテモ、其言葉ハ大ニ割引シテ聽カナケレバナラヌ、ノミナラズ、農村ノ疲弊ハ事實デアルガ、何等妙策ハ無イ、對策ハ

處アリト思惟致シマスガ、更ニ調停不調ノ結果遂ニ民事訴訟ニ依ル事トナレバ、一層其弊害ヲ多クスルモノデアルト憂フルノデアリマスガ、此點ハ如何デアルカ、又本法ハ收穫後ノ時期ナラズニ角、押秧時前ニ於ケル惡辣ナル爭議ニ對シテハ、其用意ノ周到ヲ缺イテ居ルト思フカ、此點ハ如何デアルカ、是ガ第四ノ二問デアリマス、最後ノ第五點シテ、本法第四十四條ニ規定セル如ク調停ノ申立ヲ爲スニハ先ツ手數料ヲ納付スレコト、ナニテ居リマスガ、其手數料ハ一體幾許デアルカ、幾許ト判然シタコトカ御定ニナフテ居ラヌ、一體下ノ位ノ額デアルカ、其大體ヲ示サレタイ、第二ニ此手數料ハ争議ノ大小強弱ニ論ナク一定シテ居ルノデアルカ、或ハ小作ノ段別トカ小作ノ高ニ依テ相違致シテ居ルノデアルカ、第三ニ手數料ハ當事者ノ一方ノミ、即チ調停ノ申立ヲシタ者ノミカ負擔スルノデアルカ、ソレトモ當事者アル双方ノ地主小作者ノ負擔デアルカ、第四ニ若シ調停ガ不調ニ終タ場合ニハ如何ニスルノデアルカ、此點ヲ承リタイノデアリマス、私ノ質問ハ是デ終リマス

○議長(柏谷義三君) 荒井農商務大臣

(國務大臣荒井賢太郎君登壇)

○國務大臣(荒井賢太郎君) 田中君ノ第一ノ御質問ノ

本案提出ノ期日ノ遅タルノハ如何ナル理由デアルカ、是ハ重大ナル案デアリマスカラ、種々審議ニ時日ヲ要シマシテ、是

今日提出スルコトニナリマシタノデゴザイマス、ソレカラ、第二

ニ本案ハ申立ニ依テ調停ヲ致スト云フコトニナフテ居ルガ、

ソレデハ緩慢デハナイカ、斯ウ云フ争議ガアタ場合ニ於テハ、

自ラ進シテ調停ヲスルト云フヤウナ事が必要デナイカ、又一

方ノ申立ニ依テ調停ヲ爲スト云フコトカ必要デナイカト

云フ御趣意ノ御質問ノヤウニ承リマシタガ(田中萬逸君「サ

ウデアリマセヌ」下呼フ)本案ハ説明ヲ致シマシタ通り、普通ノ

所謂事實上ノ調停ト云フコトハ、本案以外始終政府ハ勿

メテ居リマス、即チ小作争議ガアリマシタ時分ニハ、行政官

吏デアルトカ、市町村ノ公吏デアルトカ、調停ニ盡シテ居ル

所ノ人々ガ、進シテ事實上調停ヲ進メテ行クト云フコトニハ

常ニ盡力シテ居ルノデス、又本案ニ於テモ假令申立ガアリマ

シテモ、普通ノ事實上ノ調停、即チ勘解デ事ガ治マルト見タ

場合ニハ、先以テ勘解ヲ致シタラ宜カラウト云フコトニ規定

ヲシテ居リマス、ソレ故ニソレ等ノ事デハ到底治マラヌ場合ニ、本法ニ依テ調停ヲシヤウト云フノデアリマスカラ、當事者

ノ申立ニ依テ初メ本法ヲ適用シヤウト、斯ウ云フ事ニナ

リマス、無論事實上ノ調停ハ始終ヤッテ居ルノデアリマス、第

三ニ本案ハ小作ノ争議ノ起キタ場合ニ於ケル解決策デアル

ガ、其根本法タル小作法トモ申スモニ付テハ、政府ハ何時

頃制定スル積リデアルヤト云フヤウナ御尋ニアリマス、第

一小作制度調査會ニ於テ目下攻究中デアリマス、併ナガラ小

作法ト申シマスルモノハ、各地方ノ習慣が餘程異ラテ居ルノ

デアルカ、之ニ就テ簡單ニ御答辯ヲ得タイト思ヒマス

(國務大臣荒井賢太郎君登壇)

○國務大臣(荒井賢太郎君) 重ネテノ御質問ニアリマス

ヲ遙ゲタ後ニ制定セラルベキモノト存シマス、今ニ於テ豫メ

其制定ノ時期ヲ明言スルコトハ出來ナイノデゴザイマス、第

四ノ御質問ハ一寸私ハ聽取リ余タ點モアルノデゴザイマス

ガ、本案ニ依テ調停ヲ試ミタ際ニ、其調停ガ不調ニ了タ

トキニ再ビ民事裁判所ニ立戻ル、斯様ナ事ハ矢張小作争

議ヲ頻發セシムルヤウニ誘導シハシナイカト云フ御趣旨ト承

リマシタ、若シ間違ガアリマシタナラバ御直シ下サイ、是ハ調

停法案ニアリマスカラ、成ベク調停ノ出来ルヤウニ盡力ヲ致

シマスル、ソレ故ニ双方ガ膝ヲ突合ハシテ交譲妥協セシムル

コトニ努力ヲシマシテ、ソレテモ調停ガ出来ナイトキニ、更ニ調

停委員會ガ調停案ヲ作テマデ當事者ニ示シテ、調停ノ出来

ルヤウニ盡力ヲスル積リデアリマス、併ナガラソレモ調停ガ

不調ニナフタトキニハ、已ムヲ得ナイ、普通ノ裁判所ニ行クヨ

リ仕方ガナイト思ヒマス、併ナガラ成ベク左様ニ參ラヌヤウニ

盡力スルヤウナ此法案ハ出來ア居ルノデアリマス、最後ニ手

數料ノ額ニ付テ御尋ニゴザイマシタガ、手數料ハ申立者ノ方

ニ納メサセル積リデゴザイマス、而シテ其額ハ成ベク輕ク致ス

ト云フ考ニゴザイマスルカ、只今ノ所未ダ其額ヲ定メテ居リ

マセヌ、又不調ニナフタトキデモ是ハ一旦納メマシタシテ、其儘ニ納メルト云フコトニナラウト思ヒマス、ソ

レダケヲ…

○田中萬逸君 極ク簡単ニアリマスカラ、當席ニ御許ヲ願

ヒマス——只今農商務大臣ノ御答辯中、第一ノ私ノ質問ノ要

領ヲ御取違ニナフテ居ルヤウデアリマスカラ、茲ニ極ク簡単ニ

其要旨ヲ申上げマス、ソレハ此調停ノ申立ヲ爲スニハ、一方

ノ者ガ之ヲ申立て、サウシテ調停を行ハレルト云フヤウナ條

文ニナフテ居リマスルガ、露骨ニ申セバ、惡辣ナル小作農者ガ

アヘテ、又ハ之ヲ煽動スル者ガアヘテ、此調停法ノ力ヲ借ラント

スル所ノ地主ノ脅威致シ、之ヲ忌止マラシムルト云フ場合ナ

キニシモアラブト考ヘマス、又農村ノ警察力ト云フモノハ之

ヲ取締ルニ現ニ十分分ナインノデアリマス、斯ル際ニハ、爭議ガ却テ長引ク所ノ虞ガアリマスルガ故ニ幸ニ小作官ト云フ行

政官ガ出來ルノデアルカラ、此小作官ガ爭議ガ起テ相當ノ

年月ガ掛カニテ尙ホ解決ガ出來ナカタ其場合ニハ、若シ當

事者ノ一方ノ者ガ調停ヲ爲スト云フ意思ガアタ場合ニ申

決シテ彼ノ地主ノ横暴又ハ小作人ノ「ストライキ」ト云フヤ

ウナ問題トハ違フノデアヘテ、天ノ自然ニ爲セル所ノ所謂不

可抗力ノ被害デアルノデゴザイマス、故ニ私ハ此救濟策ト

致シマシテハ、御互ニ協力致シマシテ、此災害ヲ緩和スルヨ

リ外ニ賢第ハナイト思フノデゴザイマス、小作争議ノ問題ハ

斯ル天災ノ場合ニ於ケル所謂不作ヨリ起ル争議が多イノデゴ

ト防グコトガ出來ルト思ヒマスガ、此點ニ對スル御考ハ如何

トアルカ、之ニ就テ簡單ニ御答辯ヲ得タイト思ヒマス

○海江田準一郎君 私モ此法案ニ付テ一二質疑ヲ致シントスル者ニゴザイマス、先程ノ説明ニ於キマシテ内容ハ分

リマシタノデゴザイマスガ、尙ホ疑ノ點ヲ一二質問致サント

スルノデゴザイマス、本期會期中幾多ノ法律案、種々ナル建

議案ガ提出サレタノデゴザイマシタガ、其中最モ重要ナリト

思ヒマシタノハ、農村振興ニ關スル問題ト認メルノデゴザイ

マス、而シテ只今上程サレテ居リマス所ノ此小作調停法案

ナルモノハ、此農村振興ノ問題ニ最モ密接ナル、且シ重大ナ

ル關係ヲ有スルモノト思フノデアリマス、彼ノ歐洲戰亂ガ生

ミマシタ所ノ自由、平等、友愛ノ所謂民衆的思想ノ高潮ニ

伴レマシテ、一面勞働對資本ノ問題ノ發生促進ヲ促シタト

云フコトハ、争フベカラザル所ノ事實ニゴザイマス、併ナガラ

之ヲ動機ト致シマシテ、小作ト地主ノ問題ノ發生シタク見

トハシマシタノハ、農村振興ニ關スル問題ト認メルノデゴ

ザイマス、即チ先年來各地ニ勃發致シマシタ所ノ地主小作

ノ問題ハ、果シテ歐洲戰亂ガ生ミマシタ所ノ自由、平等、友

愛ノ所謂民衆的思想ノ高潮ニ伴レテ發生シタクモノハ、

否カ、此點ハ私トシテハ誠ニ疑ハシイノデゴザイマス、私ノ見

ル所ニハ地主ト小作ノ問題ハ、恰モ河ヲ隔テ、兩岸ニ立

テ居ルガ如キモノノデアヘテ、大水が出来レバ小作モ困ルシ、旱魃

カタノ場合ニハ、其當事者ノ一方若クハ雙方ノ者ヨリ、相當

年限ガ、經過致シマシタラバ、必ズ調停ノ申立ヲスルト云

フコトノ規定ヲ設ケラレタナラバ、小作争議ノ永續スルコト

防グコトガ出來ルト思ヒマスガ、此點ニ對スル御考ハ如何

トアルカ、之ニ就テ簡單ニ御答辯ヲ得タイト思ヒマス

○國務大臣(荒井賢太郎君) 重ネテノ御質問ニアリマス

カラ御答致シマスガ、田中君ノ御意見モ固ヨリ「ツノ御意見デアラウト私ハ信ジテ居リマス、併ナガラ本法ハ申上ダマ

リマシタ、若シ間違ガアリマシタナラバ御直シ下サイ、是ハ調停法案テアリマスカラ、成ベク調停ノ出来ルヤウニ盡力ヲ致シマスル、ソレ故ニ双方ガ膝ヲ突合ハシテ交譲妥協セシムルコトニ努力ヲシマシテ、ソレテモ調停ガ出来ナイトキニ、更ニ調停委員會ガ調停案ヲ作テマデ當事者ニ示シテ、調停ノ出来ルヤウニ盡力ヲスル積リデアリマス、併ナガラソレモ調停ガ不調ニナフタトキニハ、已ムヲ得ナイ、普通ノ裁判所ニ行クヨ

リ仕方ガナイト思ヒマス、併ナガラ成ベク左様ニ參ラヌヤウニ

盡力スルヤウナ此法案ハ出來ア居ルノデアリマス、最後ニ手

數料ノ額ニ付テ御尋ニゴザイマシタガ、手數料ハ申立者ノ方

ニ納メサセル積リデゴザイマス、而シテ其額ハ成ベク輕ク致ス

ト云フ考ニゴザイマスルカ、只今ノ所未ダ其額ヲ定メテ居リ

マセヌ、又不調ニナフタトキデモ是ハ一旦納メマシタシテ、其儘ニ納メルト云フコトニナラウト思ヒマス、ソ

レダケヲ…

○海江田準一郎君 私モ此法案ニ付テ一二質疑ヲ致シントスル者ニゴザイマス、先程ノ説明ニ於キマシテ内容ハ分

リマシタノデゴザイマスガ、尙ホ疑ノ點ヲ一二質問致サント

スルノデゴザイマス、本期會期中幾多ノ法律案、種々ナル建

議案ガ提出サレタノデゴザイマシタガ、其中最モ重要ナリト

思ヒマシタノハ、農村振興ニ關スル問題ト認メルノデゴザイ

マス、而シテ只今上程サレテ居リマス所ノ此小作調停法案

ナルモノハ、此農村振興ノ問題ニ最モ密接ナル、且シ重大ナ

ル關係ヲ有スルモノト思フノデアリマス、彼ノ歐洲戰亂ガ生

ミマシタ所ノ自由、平等、友愛ノ所謂民衆的思想ノ高潮ニ

伴レマシテ、一面勞働對資本ノ問題ノ發生促進ヲ促シタト

云フコトハ、争フベカラザル所ノ事實ニゴザイマス、併ナガラ

之ヲ動機ト致シマシテ、小作ト地主ノ問題ノ發生シタク見

トハシマシタノハ、農村振興ニ關スル問題ト認メルノデゴ

ザイマス、即チ先年來各地ニ勃發致シマシタ所ノ地主小作

ノ問題ハ、果シテ歐洲戰亂ガ生ミマシタ所ノ自由、平等、友

愛ノ所謂民衆的思想ノ高潮ニ伴レテ發生シタクモノハ、

否カ、此點ハ私トシテハ誠ニ疑ハシイノデゴザイマス、私ノ見

ル所ニハ地主ト小作ノ問題ハ、恰モ河ヲ隔テ、兩岸ニ立

テ居ルガ如キモノノデアヘテ、大水が出来レバ小作モ困ルシ、旱魃

カタノ場合ニハ、其當事者ノ一方若クハ雙方ノ者ヨリ、相當

年限ガ、經過致シマシタラバ、必ズ調停ノ申立ヲスルト云

フコトノ規定ヲ設ケラレタナラバ、小作争議ノ永續スルコト

防グコトガ出來ルト思ヒマスガ、此點ニ對スル御考ハ如何

トアルカ、之ニ就テ簡單ニ御答辯ヲ得タイト思ヒマス

ハ、此法案ヲ制定セラル、根本精神ニ於テ、此勞働所謂勞資問題ハ如何ナル關係ニ御考ニナフ居ルノカ、又一面此問題ヲ階級的交渉ノ問題ト見ラレルヤ如何、次ニ政府ハ農村ニ於ケル所ノ社會政策ト致シマシテ、地主ト小作トノ關係ハ溫情主義ニ依ルベキデアルカ、或ハ權利義務ノ問題ト認メラレテ居ルカ如何、第三ニハ今日農村振興或ハ農村改造ト云フコトヲ申シマスルガ、此調停法案ナルモノハ斯程急ニ施行スベキ法案トシテ提出セラレタルヤ否ヤ、最後ニ御尋シタインハ小作調停法ヲ實施セラレマスルニ要スル所ノ費用ハドノ位ノモノデゴザイマスルカ、此四點ヲ御尋シタインデアリマス

○議長(柏谷義三君) 荒井農商務大臣

(國務大臣荒井賢太郎君登壇)

○國務大臣(荒井賢太郎君) 御答ヲ致シマス、第一ノ御質問ハ地主ト小作トノ間ニ於ケル爭ハ作不作ト云フコトニ原因ヲシテ居ル、即チ天災ニ依テ不作ノ年ニ小作料ヲ減免シテ吳レト云フヤウナ争ノ起ルノハ當リ前デアテ、ソレが多キヲ占メル、故ニ左様ナ事ハ當事者間ニ於て能ク妥協シテ治メルノガ相當デナナイカ、斯ウ云フ御質問ノヤウデゴザイマスルガ、成程我國ニ於ケル地主小作人ノ間ノ關係ハ從來ハ主從ノ關係、即チ溫情主義ア來テ居ラタト思フノデアリマス、而シテ其争モ其年ノ豐凶ニ依テ其年限リ小作料ヲ減ジテ貰フト云フヤウナ事ノ要求ニ止マテ居ラタヤウニ考ヘルノデス、然ルニ近來ハ大ニ其性質ヲ變ジテ來マシテ、溫情主義ガ今日ニ於テハ地主小作人ガ對抗シテ争フト云フコトニナフテ居ル、對抗的ニナフテ居ル、ソレカラ又一箇年限リノ年ノ豐凶ニ應ジタル小作料ノ減免ト云フコトデナクシテ、永久ニ小作ノ條件ヲ改メタイ、斯ウ云フ要求ニ赴イテ居云フト、茲ニ社會上忌ムベキ鬪爭ガ起キハシナイカ、之ヲ最モ憂慮致ス次第、其甚シキニ至ラヌ間に、調停機關ヲ設ケテ圓満ニ解決ヲシテ行キタイト云フノガ本案ノ趣意ナシテス、第二ノ御質問ハ只今第一ノ御質問ニ對シテ御答ヲ致シマシク所ニ依テ、自カラ政府ノ考ノ在ル所ヲ御了解下サルコトデアラウト存ズルノアリマス、第三ノ此法案ヲ斯様ニ至急ニ制定スルノ必要ヲ政府ハ何故ニ感ズルカト云フヤウナ御質問デゴザイマシタガ、只今申上げマシタ通りニ、現ニ小作争議ノ狀勢ハ、此儘ニ放任シテ置キマスト云フト、現ニ紛糾ヲ致シマシテ拾收スベカラガルヤウナ狀勢ニ立至ルノ虞ガアリマスカラ、一日モ早クス様ナモノヲ制定シテ、之ヲ甚シキニ至ラザル防止シヤウト云フ積リテ提出ヲ致シタ次第デゴザイマス、御了承ヲ願ヒマス、最後ニ本案施行ニ要ス

○木下甚三郎君 私ハ昨年此處ニ於キマシテ電信電話ノ建議ヲ致シマス問題ニ於キマシテ、是ハ農業ノ問題ノ三番叟デアル、是カラ先ニ序幕、一段目、三段目ニ行クノデアルト申上ダマシタガ、一年ノ後今年ハ此議會ニ於テ初カラ今日マデ、ズット農業救濟ト云フコトニ全院舉テ御審議ヲ爲サレルコトハ、私ハ誠ニ喜バシイ次第デゴザイマス、就キマシテ其第一タル一番目標ニ致シテ舉ゲテ居ル所ノ小作ト地主ノ關係ガ、本日此議場ニ政府カラ提案ニナリマシタノデゴザイマス、此事ハ中ニ一日ヤ二日此處ニヤタ所デ、ダンナイ値打ノアルモノト思ヒマス、ソレデゴザイマスカラ私ハ昨日多木君ノ演説ニエラウ私ハ多木君以上三下手ナノスカラ脱線ヲ仰山致シマスケレドモ、分ラヌデモ靜ニ御聽下サイ(謹聽々々)私ハ此小作ノ爭議ヲ調停スルト云フ案ガ此間ニ仲間ノ話ヲシタライカヌカ知ラヌカ言ヒマスガ、我派ノ政務調査會ニ出マシテ、ソレデ農務局ノ局長サンカ出テ、シタガ、私ガ村ニ居ラテ知テ居ル通リト、他所ノ知ラヌコトモ誠ニ明ニ分リマシタ、其次ヘ持テ來テ、ソレデヤニ依テ小作調停案ヲセンナラスト云フ御論議ニナッテ來タ、一寸待テオク年間モ調査會ニ御審議ニナツ、調ペタ上ニ調ペテ御出シニナダ案ヤカラ、惡イ咎ハナイト思フノデスケレドモ、私ノ百姓ノ心理、ソレカラ割出シテ見ルト、ドウシテモ是ハ考付カヌノデス、所ガソレカラ其後ニ農會へ行キマシタラ、農會デハ木下甚三郎ガ反對スル、コンナ事ヲ言テ評議員ガ電信ヲ打ッタノデアル、百姓ノ最大名案タル所ノ小作法案ニ反對スルナドハ困ルカラト言フテ、帝國農會ガ吃驚シテ私ノ跡ヲ附キ歩イタト云フコトデアル、ソレハ困ルカラスウ云フコトヲ、地主ト小作人ガ對抗的ニ争テ居ルヤウナ状況ニナシテ居ルノアリマス、此狀勢ガ次ニ瀕蔓シテ行キマスト云フト、茲ニ社會上忌ムベキ鬪爭ガ起キハシナイカ、之ヲ最モ憂慮致ス次第、其甚シキニ至ラヌ間に、調停機關ヲ設ケテ圓満ニ解決ヲシテ行キタイト云フノガ本案ノ趣意ナシテス、第二ノ御質問ハ只今第一ノ御質問ニ對シテ御答ヲ致シマシク所ニ依テ、自カラ政府ノ考ノ在ル所ヲ御了解下サルコトデアラウト存ズルノアリマス、第三ノ此法案ヲ斯様ニ至急ニ制定スルノ必要ヲ政府ハ何故ニ感ズルカト云フヤウナ御質問デゴザイマシタガ、只今申上げマシタ通りニ、現ニ小作争議ノ狀勢ハ、此儘ニ放任シテ置キマスト云フト、現ニ紛糾ヲ致シマシテ拾收スベカラガルヤウナ状勢ニ立至ルノ虞ガアリマスカラ、一日モ早クス様ナモノヲ制定シテ、之ヲ甚シキニ至ラザル防止シヤウト云フ積リテ提出ヲ致シタ次第デゴザイマス、御了承ヲ願ヒマス、最後ニ本案施行ニ要ス

○木下甚三郎君登壇

(木下甚三郎君登壇)

○木下甚三郎君 私ハ昨年此處ニ於キマシテ電信電話ノ建議ヲ致シマス問題ニ於キマシテ、是ハ農業ノ問題ノ三番叟デアル、是カラ先ニ序幕、一段目、三段目ニ行クノデアルト申上ダマシタガ、一年ノ後今年ハ此議會ニ於テ初カラ今日マデ、ズット農業救濟ト云フコトニ全院舉テ御審議ヲ爲サレルコトハ、私ハ誠ニ喜バシイ次第デゴザイマス、就キマシテ其第一タル一番目標ニ致シテ舉ゲテ居ル所ノ小作ト地主ノ關係ガ、本日此議場ニ政府カラ提案ニナリマシタノデゴザイマス、此事ハ中ニ一日ヤ二日此處ニヤタ所デ、ダンナイ値打ノアルモノト思ヒマス、ソレデゴザイマスカラ私ハ昨日多木君ノ演説ニエラウ私ハ多木君以上三下手ナノスカラ脱線ヲ仰山致シマスケレドモ、分ラヌデモ靜ニ御聽下サイ(謹聽々々)私ハ此小作ノ爭議ヲ調停スルト云フ案ガ此間ニ仲間ノ話ヲシタライカヌカ知ラヌカ言ヒマスガ、我派ノ政務調査會ニ出マシテ、ソレデ農務局ノ局長サンカ出テ、シタガ、私ガ村ニ居ラテ知テ居ル通リト、他所ノ知ラヌコトモ誠ニ明ニ分リマシタ、其次ヘ持テ來テ、ソレデヤニ依テ小作調停案ヲセンナラスト云フ御論議ニナッテ來タ、一寸待テオク年間モ調査會ニ御審議ニナツ、調ペタ上ニ調ペテ御出シニナダ案ヤカラ、惡イ咎ハナイト思フノデスケレドモ、私ノ百姓ノ心理、ソレカラ割出シテ見ルト、ドウシテモ是ハ考付カヌノデス、所ガソレカラ其後ニ農會へ行キマシタラ、農會デハ木下甚三郎ガ反對スル、コンナ事ヲ言テ評議員ガ電信ヲ打ッタノデアル、百姓ノ最大名案タル所ノ小作法案ニ反対スルナドハ困ルカラト言フテ、帝國農會ガ吃驚シテ私ノ跡ヲ附キ歩イタト云フコトデアル、ソレハ困ルカラスウ云フコトヲ、地主ト小作人ガ對抗的ニ争テ居ルヤウナ状況ニナシテ居ルノアリマス、此狀勢ガ次ニ瀕蔓シテ行キマスト云フト、茲ニ社會上忌ムベキ鬪爭ガ起キハシナイカ、之ヲ最モ憂慮致ス次第、其甚シキニ至ラヌ間に、調停機關ヲ設ケテ圓満ニ解決ヲシテ行キタイト云フノガ本案ノ趣意ナシテス、第二ノ御質問ハ只今第一ノ御質問ニ對シテ御答ヲ致シマシク所ニ依テ、自カラ政府ノ考ノ在ル所ヲ御了解下サルコトデアラウト存ズルノアリマス、第三ノ此法案ヲ斯様ニ至急ニ制定スルノ必要ヲ政府ハ何故ニ感ズルカト云フヤウナ御質問デゴザイマシタガ、只今申上げマシタ通りニ、現ニ小作争議ノ狀勢ハ、此儘ニ放任シテ置キマスト云フト、現ニ紛糾ヲ致シマシテ拾收スベカラガルヤウナ状勢ニ立至ルノ虞ガアリマスカラ、一日モ早クス様ナモノヲ制定シテ、之ヲ甚シキニ至ラザル防止シヤウト云フ積リテ提出ヲ致シタ次第デゴザイマス、御了承ヲ願ヒマス、最後ニ本案施行ニ要ス

ノ恩給ニ一人前百圓ヅ、ヲオヤリニナリ、政府ハ財政緊縮  
デヤ、經濟ガ許サヌト吾々ニ大正九年以來度ニ言ハレテ居  
リナガラア、云フ事ヲ知ラヌ間ニシテ居ルソレデアルカラ此  
事モ今デモ出來ヌ事ハナイ、ソレダカラ、ノテモコグツテモ、十  
三年度ニハ委譲ヲスルト云フコトヲヤデ貰ハナケレバ、ソン  
ナ小作爭議位デハアキマセヘンノヤ、是ハ總理大臣ニ此處  
ヘ出張シテ貰ヒマシテ、サウシテ明答ヲ受ケテ後ニ決メタイ、  
併シソレハ總理大臣テモ農商務大臣デモ構造デス、私共年  
ト云フコトダケ明言シテ吳レタラ宣イ、サウデナケレバ私共年  
ヘ歸リマシヤラウ、國ヘ歸ダク所デ二百七十萬圓モ縣稅ヤ村  
稅ノ方デ、ヒックラテ持テ行カレテ、此方ハ是ダケシカ土產  
ガ無イト言シテハ顏ガ合サレナイカラ、下ウゾ是ダケハ願ヒマ  
(拍手)

○國務大臣荒井賢太郎君(別表三君登壇)　國務大臣荒井賢太郎君(別表三君登壇)  
チ小作争議ハ元ニ農業上ノ利潤が少ニカラ起ル問題デア  
ル、斯ウ云フ御意見ハ如何ニモ其通り思フノアリマス、元  
元ハ——即チ説明ニモ申上ダマシタ通り、小作争議ノ起ル  
原因ハ經濟上ノ分配、其分配ヲ中心トシテ起ルト云フコト  
ハ、是ハ争フベカラガル事デアラウト思フノアリマス、ソレ故  
ニ其點ニ對シテハ農村振興デアリマストカ、或ハ農業上ニ於  
ケル金融上ノ施設デアルトカ、生産増加ノ方法デアルトカ云  
ブコトヲ譯ジマシテ、農業上ノ利潤ヲ増スルト云フ策ヲ執  
ルト云フコトハ固ヨリ必要デテ、此點ニ付テハ私何等木  
下君ト異ヌタ意見ヲ持テ居リマセヌ、併ナガラ小作争議ニ  
對シマシテハ、唯ソレニヨ以テ安心スル譯ニハ往カナイノ  
ガ今日ノ状態デアル、起ル原因ハ成程經濟上ノ分配ヲ中  
心トシテ起シタノデアルガ、一旦起ルト云フト之ニ對シテ種々  
ナル原因ガ加ニテ悪化スル傾向ガアル、地主小作人ガ對抗  
的ニ争フ傾向ガアル、其結果ハ社會ニ不安ノ念ヲ惹起スト  
云フ傾向ガアルカは、是ハ其儘ニ捨置ク譯ニハ往カヌニ依フ  
テ、茲ニ其モノニ對スル解決法トシテ提出シタ、斯ウ云フコト  
デアリマシテ、木下君ノ根本ニ對スル御意見ニ付テハ何等  
異ダタ意見ヲ持テ居リマセヌ(拍手)  
○議長(柏谷義三君) 南鼎三君

○南鼎三君 質問セントスルコトハ、先づ此本案ハ小作爭議ニ於ケル手續法ノヤウナモノデアル、前年本院ニ於テ借家借地法ヲ制定シ、引續キ是ガ調停法ヲ制定シテ、姉妹案トシテ今ヤ社會ニ是ガ活用サレ、善良ナル結果ヲ見ツ、アルコトハ實ニ喜ブノデアリマス、而モ私モ大阪地方裁判所ニ於ケル調停員ノ一人ニ選定サレマシテ、既ニ是ガ争議ニ携ツテ、非常ニ良好ナル結果ヲ見テ居ルコトヲ喜ブ者デアリマスガ故ニ、本案ノ御提出ニ付テハ非常ニ御贊同ヲ申上ダルノデアリマスルガ、併シ是ハ丁度手續法ダケデアツテ、之ヲ實際ニ行フニ方リマシテ、本物ノ小作法ト云フモノガナカツナラバ、其争議ノ標準ヲ決定スル所ノ法文ヲ、何ニモ求ムルコトノ出來ナイコトガ其所ニ生ジテ來ルト思フノデアリマス、「民

問題デアリ、殊ニ一時ノモノニアタナラバ直ニ解決シテ居リマス今年ダケ我慢スレバ宜ノノダト云フ地主ニ觀念ガアル、併シ永久的ニナシテ來マスルト云フ自分ノ財産所得ノ上ニ多大ナル影響ガ及ビマスカラ、即チ之ニ應ゼナイト云フ事ニナシテ來ルノデス、所謂三割四割又ハ五割マデマケロト云フヤウナコトハ、日本全國ニ於テ澤山アルノデアリマス、ソレヲ裁判官ガ不法ノ目的、或ヒ義務回避トシテ之ヲ取扱フテ斯ノ如キ申立ハ無法ノモノデアルト云フ事ニ依テ之ヲ却下シタナラバ、調停ト云フ事ハ成立スルコトハ出來ナイ事ニナシテ來ル、即チ第八條ハサウ云フ事ヲ規定シテノダ、即チ不法ノ目的、義務回避ヲ爲サントシテモ、尚且ツ之ヲ却ノ力ニ依テ調停スルト云フナラバ、私ハ非常ニ贊成デアルガ、サウデナイ事ヲ規定サレテアル、其事柄ノ矛盾撞着セルコトヲ御尋シタナデアリマス、ソレカラ第十八條ト、十九條ト、二十條トニ小作官ノ行動ヲ示シテアリマスガ、第十八條ハ意見ヲ求ムルコト、十九條ハ其意見ヲ述ブルコト、二十條ハ調査ヲ嘱託セシムルコト、此三ツノ事ニナシテ居リマスガ、意見ヲ種々ナル方面ニ求メ、又意見ヲ種々ナル事柄ニ依テ陳述スル事が出來得ルニ拘ラズ、何等其小作官ノ責任ト云フモノガ無イコトニナシテ居リマスガ、斯ウ云フ事柄ハ單ニ是ハ事務ヲ執ル上ノ事デアルカト云フコトヲ聽キタイ、茲ニ小作官トシテ官制ヲ設ケラレ、サウシテ小作調停ニ對シテ意見ヲ吐キ、意見ヲ求メ、即チ干涉スルコトニナレバ、其人ノ一言半句、其人ノ一舉一動ガ此調停ノ上ニ大ナル結果ヲ及ボスコトハ、火ヲ賭ルヨリ明カデアリマス、然ルニ重大ナル影響ヲ及ボス所ノ小作官ノ責任行爲ニ付テハ、何等規定シテナインレハドウ云フ譯デアルカト云フコトヲ御尋シタイ、先ヅ以上三點デアリマスルガ、詳細ナル事ハ何レ委員會ニ於テ御尋スルコト、致シタインデアリマス(拍手)

○國務大臣荒井賢太郎君登壇  
〔國務大臣荒井賢太郎君登壇〕  
問大臣(荒井賢太郎君) 御答ヲ致シマス、第一ノ質  
問タル、未ダ根本法ノ制定セラレサルニ先ダテ、先ツ手續法  
トモ見ルベキ本案ヲ提出ニナダノハ、本末顛倒デハナカラウ  
カト云フヤウナ御趣旨ノ御質問ゴザイマスカ、如何ニモ根  
本法ノ制定が容易ニ出来マスナラバ、根本法ノ制定ヲ致シ

テ然ル後ニ本案ノ如キ爭議ノ解決法ヲ出スト云フニトカ順序アラウト考ヘマスル、併ナガラ屢々申上ゲル通り根本法即チ小作法ト云フモノハ、餘程面倒ナモノデアリテ、之ヲ朝一夕ニ作ルト云フコトハ到底出來ナナイノデアリマス、ソレ故ニ日ハ調査中ドコトハ到底出來ナナイノデアリマス、ソレノ解消ハ、其調査ヲ俟テ根本法が出来タ後ニ著手スルト云フコトハ、餘りニ今日ノ現状ニ於ケル争議ノ状態ヲ等閑ニ付スルト云フコトニナラウト思ヒマスカラ、争議ノ調停ニ關スル事ヲ先以テ定メタノデゴザイマシテ、根本法ニ付テモ息ラズ調査ヲ續ケテ行ク積リデゴザイマス、又左様ナ例ハ隨分外國ニモ在ルノデゴザイマシテ、多ク斯ウ云フ方法ニ只今ハナテ居リマス、又此調停ヲ致シマスルノニ、何等標準ニナルモノガナイカト斯ウ言ヘバ、ソレハアルノデス、民法モアリ、又地方

ノ習慣モアルカラソレニ依ラテ適當ナル調節ノ方法ハ案出シ得ルト信ズルノデゴザイマス、次ニ第八條ニ於テ義務ノ回避其他不法ノ申立ニ依ルモノト認メタトキニハ、調停ハ差戻ス、調停ノ申立ハ差戻スト云フヤウナコトガアルガ、是ハ總テ義務ノ回避ト云フコトノ爲ニ争議ノ起キルモノダカラス。斯様ナ規定ハ自家撞著デハナカラウカト云フヤウナ御趣意デゴザイマスガ、八條ニハ濫ニ云々ト規定シテアルノデゴザイマシテ、濫ニ義務ノ回避ヲスルガ爲ニ申立テルト云フヤウナモノハ、之ヲ聽キ入レナイト云フノデアリマス、是ハ徒ニ争議ヲ永引カサウト云フヤウナ趣意デ、眞ニ調停ヲシテ貰フト云フ思意ガ無クシテ、濫ニ申立テル、斯様ノ場合ニ一々應ジテ居ルト云フ譯ニハ行キマセヌカラビテ拒絶スル、斯ウ云フ積リデゴザイマス、ソレカラ小作官ノ職務ニ付テハ、是ハ何レ官制ヲ制定致シマシテ、小作官ノ巨細ノ義務責任ヲ規定スル積リテゴザイマス。

○議長(柏谷義三君) 是ニテ質疑ハ終リマシタ、日程第二、右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス。

第一 右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉  
○鈴木錠藏君 委員ノ數ハ特ニ十八名トシ、議長ニ於テ指名サレンコトヲ望ミマス。  
〔贊成〕〔贊成〕ノ聲起ル  
○議長(柏谷義三君) 鈴木君ノ動議ニハ御異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス——日程第三、共通法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、馬場法制局長官

第三 共通法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)  
第一讀會  
共通法中改正法律案  
第一條中「又ハ關東州」ヲ、「關東州又ハ南洋群島」ニ改ム  
第九條中「又ハ關東州」ヲ、「關東州又ハ南洋群島」ニ改ム  
「又ハ關東都督」ヲ、「關東長官又ハ南洋廳長官」ニ改ム  
第十六條「一箇ノ刑事案件又ハ牽連スル數箇ノ刑事案件地域ヲ異ニスル數箇ノ裁判官廳ノ管轄ニ屬スルトキハ、刑事訴訟法第五條及第十一條第一項ノ規定ヲ準用ス

附則  
本法ハ大正十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十  
六條ノ改正規定施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
第十六條ノ改正規定施行ノ際現ニ繫屬スル事件ニ付テ  
ハ仍從前ノ規定ニ依ル  
〔政府委員馬場瑛一君登壇〕

○政府委員(馬場瑛一君) 共通法中改正法律案ノ提出  
理由ヲ簡單ニ申上げマス、御承知ノ如ク南洋群島ガ我が帝國ノ委任統治ニ屬シマシタノト、昨年刑事訴訟法ノ改正ニシ得ルト信ズルノデゴザイマス、次ニ第八條ニ於テ義務ノ回避其他不法ノ申立ニ依ルモノト認メタトキニハ、調停ハ差戻ス、調停ノ申立ハ差戻スト云フヤウナコトガアルガ、是ハ總テ義務ノ回避ト云フコトノ爲ニ争議ノ起キルモノダカラス。斯様ナ規定ハ自家撞著デハナカラウカト云フヤウナ御趣意デゴザイマスガ、八條ニハ濫ニ云々ト規定シテアルノデゴザイマシテ、濫ニ義務ノ回避ヲスルガ爲ニ申立テルト云フヤウナモノハ、之ヲ聽キ入レナイト云フノデアリマス、是ハ徒ニ争議ヲ永引カサウト云フヤウナ趣意デ、眞ニ調停ヲシテ貰フト云フ思意ガ無クシテ、濫ニ申立テル、斯様ノ場合ニ一々應ジテ居ルト云フ譯ニハ行キマセヌカラビテ拒絶スル、斯ウ云フ積リデゴザイマス、ソレカラ小作官ノ職務ニ付テハ、是ハ何レ官制ヲ制定致シマシテ、小作官ノ巨細ノ義務責任ヲ規定スル積リテゴザイマス。

○議長(柏谷義三君) 日程第四、右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス。

第四 右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉  
○鈴木錠藏君 本案ハ阪上貞信君外四名提出、植民政策確立ニ關スル建議案外一件ノ委員ニ併セテ付託セラレントコトヲ望ミマス。

〔贊成〕〔贊成〕ノ聲起ル  
○議長(柏谷義三君) 鈴木君ノ動議ニハ御異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス、日程第五、大正十年法律案ノ百二號中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、馬場法制局長官

第五 大正十年法律第百二號中改正法律案(政府提出) 第一讀會

大正十年法律第百二號中改正法律案  
第一讀會

大正十年法律第百二號中左ノ通改正ス

同法中官吏恩給法第五條ノ規定ニ依リ計算シタル年額ニ其ノ百分ノ五十二相當スル金額ヲ「恩給法中文官ノ普通恩給ニ關スル規定ニ依リ計算シタル年額ニ其ノ百分ノ三十二相當スル金額」三改ム

附則  
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依ル恩給年額ヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依ル恩給年額ヲ給ス

本法施行ノ際現ニ從前ノ規定ニ依ル恩給年額ニ基ク扶助料ヲ受ク又ハ受クヘキ者ニハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依ル恩給年額ヲ給ス

〔政府委員馬場瑛一君登壇〕

○政府委員(馬場瑛一君) 大正十年法律第百二號ト同法中三定年ニ依リテ退職致ス判檢事ニ、普通恩給ノ外ニ五割ノ増額ヲ支給シテ居ルノデアリマス、然ルニ過日本院ヲ通過シマシタル恩給法ノ改正ニ依リマシテ、一般ニ恩給ダ文武官共ニ増加スルコトニ相成ルダラウト思フノデアリマス、此一般恩給ノ増加ガアリマスレバ、定年ニ依テ退職スル判檢事ニ五割ノ増額ヲ爲スノ必要モ無イト考ヘマスノデ、斯様ニ相當ニ率ニ於テ減額シタイト思フノデアリマス、即ち百

分ノ五十ヲ增加致シマスノヲ、百分ノ三十二改メルヲ相當ト思フノデアリマス、此意味ニ於テ大正十年法律第百二號ヲ改正致シタインデアリマス、宜シク御協賛ヲ與ヘラレングトヲ望ミマス。

○議長(柏谷義三君) 日程第六、右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス。

第六 右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉  
○鈴木錠藏君 本案ハ高木正年君外二名提出、恩給改正ニ關スル建議案外八件ノ委員ニ併セテ付託セラレントコトヲ望ミマス。

〔贊成〕〔贊成〕ト呼フ者アリ  
○議長(柏谷義三君) 鈴木君ノ動議ニハ御異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス、日程第七、西比利亞引揚ノ爲損害ヲ被リタル者等ノ救恤ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、提案ノ趣旨聲明ヲ許シマス——只今政府委員ガ居リマセヌカラ後廻シニ致シマス、日程第九、競馬法案ノ第一讀會ノ續ヲ開キ、委員長ノ報告ヲ求メマス、委員長廣岡宇一郎君

第九 競馬法案(政府提出) 第一讀會ノ續(報告)

第一讀會ノ續(報告)

一競馬法案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スベキモノト議決致候此段及報告候也

大正十二年三月八日

競馬法案委員長廣岡宇一郎

衆議院議長柏谷義三殿 報告書

(廣岡宇一郎君登壇)

○廣岡宇一郎君 競馬法案ノ委員會ニ於ケル終始頗未

ヲ御報告致シマス、本案ハ馬ノ改良繁殖並ニ馬事思想ノ

普及ヲ圖ルガ爲ニ、馬券ノ發賣ヲ伴フ競馬ヲ實施セントス

ルニ在ルノデアリマス、政府當局ノ説明ニ依リマスレバ、近來

我國ニ於ケル馬ノ產出が非常ナル減少ヲ來シテ居ル、是ハ

產業ト、國防上、由々シキ問題アル、殊ニ國防上ニ於ケル

馬ノ需要ノ跡ヲ尋ねマスレバ、最近數十年ノ間ニ於テ、戰爭

中二人百人ニ對シ馬十五頭、五ヲ要シテ居ッタ、是ガ十七ト

ナリ、十九トナリ、最近歐羅巴ノ戰爭ニ於キマシテハ、有ユ

ル文明ノ機械力ヲ應用シタルニモ拘ラズ、更ニ增大致シマ

シテ、三十一頭以上ノ必要ヲ感ジテ居ルノデアリマス、斯様

ナル狀態ニ於テ、我國ノ馬ノ產出が年々減少致ストスルナ

バ、此儘ニシテ放置致シタラバ、一朝有事ノ際ニ於テ國

防上寢ニ寒心ニ堪ヘヌノデアリマス、是ニ於テカ今回ノ競馬

法ヲ提案シタノデアル、固ヨリ馬ノ改良產出ノ方法ハ、競馬

ニ依ルノガ唯一ノ方法デハナイノデアル、從來ニ於テモ種々

ナル施設ヲ試ミテ獎勵シ保護シ、今日ニ至ラテ多少ノ效果ハ舉ゲタノデアリマスケレドモ、今日ノ如キ状態ニ於テハ、最も確實ニシテ最速ナル此競馬ノ方法ニ依ラナケレバナラヌノデアル、斯様ニ説明ヲ致シテ居ルノデアリマス、固ヨリ競馬ハ馬ノ改良繁殖ニ非常ナル效果ガアリマセウカ、他面カラ見マスレバ馬券ノ發賣ハ一般國民ノ射幸心ヲ唆リ、風教上完ニ忌ムベキ事項が現レノデアリマス、現ニ明治三十九年ニ一度之ヲ試ミテ、其弊害ニ堪ヘズ、國論沸騰シタルガ為ニ、僅々二年ニシテ禁止シタク歴史ヲ持シテ居ルノデアリマス、故ニ此兩者ノ間ヲ調和シ、制限ヲ致シテ最モ弊害ヲ少クスルコトヲ範圍ニ於テ、最モ多クノ效果ヲ收メントスルノガ本案ノ骨子デアリマス、案文ヲ通覽致シマスレバ、法案立案者ノ苦心ノ痕跡々見ルベキモノガアリマスノミナラズ、委員會ニ於ケル質問應答モ全ク此一點ニ集中致シテ居ルノデアリマス、是ニ於テ是ニ對スルニ此制限ニ對スルノ政府ノ説明ハ、條文並ニ其他委員會ニ於ケル説明ノ大要ヲ御紹介ヲ致ス必要ガアラウト思フノデアリマス、只今ノ如キ此馬券ノ發賣ガ種々ナル弊害ヲ伴ウテ居ルノデアリマス、故ニ各種ノ方面ニ於テ是ガ制限調和ヲ目的トスル會社ニハ一切之ヲ許サヌ、民法第三十四條ノ所謂法人二限ルノデアル、ニミナラズ今日競馬ヲ開催スルモノハ、營利ヲ目的トスル會社ニハ一切之ヲ許サヌ、民法第三十四條ノ所謂法人ニ限ルノデアル、ニミナラズ今日競馬ヲ開催致シテ居ル此法人ガ、全國ヲ通ジテ十一アリマスルガ、是レ以外ニハ政府ハ近キ將來ニ於テ斷ジテ新タル法人ノ設立ヲ認可ヲシナイ、斯様ニ聲明ヲ致シテ居ルノデアリマス、競馬ノ馬券ノ金額ハ二十圓以下ト制限シ、之ヲ購買スル者ハ學生、生徒、未成年者、並ニ競馬ニ從事スル者ニハ之ヲ許サズ、拂戻金ハ券面金ノ十倍ヲ超ユルコトヲ許サズ、買得金ノ額ヲ超ユルコトヲ許サズ、而シテ更ニ此買得金ノ内ヨリシテ、政府ニ或

ス、順次其發言ヲ許シマス、松本君平君、只今御出席ニナツテ居リマスカラ發言ヲ拋棄セラレタモノト認メマス、森下龜太郎君、是モ御出席ガアリマセス、是ニテ別ニ討論ハアテアリマス、故ニ此兩者ノ間ヲ調和シ、制限ヲ致シテ最モ弊害ヲ少クスルコトヲ範圍ニ於テ、最モ多クノ效果ヲ收メントスルノガ本案ノ骨子デアリマス、案文ヲ通覽致シマスレバ、法案立案者ノ苦心ノ痕跡々見ルベキモノガアリマスノミナラズ、委員會ニ於ケル質問應答モ全ク此一點ニ集中致シテ居ルノデアリマス、是ニ於テ是ニ對スルニ此制限ニ對スルノ政府ノ説明ハ、條文並ニ其他委員會ニ於ケル説明ノ大要ヲ御紹介ヲ致ス必要ガアラウト思フノデアリマス、只今ノ如キ此馬券ノ發賣ガ種々ナル弊害ヲ伴ウテ居ルノデアリマス、故ニ各種ノ方面ニ於テ是ガ制限調和ヲ目的トスル會社ニハ一切之ヲ許サヌ、民法第三十四條ノ所謂法人ニ限ルノデアル、ニミナラズ今日競馬ヲ開催スルモノハ、營利ヲ目的トスル會社ニハ一切之ヲ許サヌ、民法第三十四條ノ所謂法人ニ限ルノデアル、ニミナラズ今日競馬ヲ開催致シテ居ル此法人ガ、全國ヲ通ジテ十一アリマスルガ、是レ以外ニハ政府ハ近キ將來ニ於テ斷ジテ新タル法人ノ設立ヲ認可ヲシナイ、斯様ニ聲明ヲ致シテ居ルノデアリマス、競馬ノ馬券ノ金額ハ二十圓以下ト制限シ、之ヲ購買スル者ハ學生、生徒、未成年者、並ニ競馬ニ從事スル者ニハ之ヲ許サズ、拂戻金ハ券面金ノ十倍ヲ超ユルコトヲ許サズ、買得金ノ額ヲ超ユルコトヲ許サズ、而シテ更ニ此買得金ノ内ヨリシテ、政府ニ或

ス、順次其發言ヲ許シマス、松本君平君、只今御出席ニナツテ居リマスカラ發言ヲ拋棄セラレタモノト認メマス、森下龜太郎君、是モ御出席ガアリマセス、是ニテ別ニ討論ハアテアリマス、故ニ此兩者ノ間ヲ調和シ、制限ヲ致シテ最モ弊害ヲ少クスルコトヲ範圍ニ於テ、最モ多クノ效果ヲ收メントスルノガ本案ノ骨子デアリマス、案文ヲ通覽致シマスレバ、法案立案者ノ苦心ノ痕跡々見ルベキモノガアリマスノミナラズ、委員會ニ於ケル質問應答モ全ク此一點ニ集中致シテ居ルノデアリマス、是ニ於テ是ニ對スルニ此制限ニ對スルノ政府ノ説明ハ、條文並ニ其他委員會ニ於ケル説明ノ大要ヲ御紹介ヲ致ス必要ガアラウト思フノデアリマス、只今ノ如キ此馬券ノ發賣ガ種々ナル弊害ヲ伴ウテ居ルノデアリマス、故ニ各種ノ方面ニ於テ是ガ制限調和ヲ目的トスル會社ニハ一切之ヲ許サヌ、民法第三十四條ノ所謂法人ニ限ルノデアル、ニミナラズ今日競馬ヲ開催スルモノハ、營利ヲ目的トスル會社ニハ一切之ヲ許サヌ、民法第三十四條ノ所謂法人ニ限ルノデアル、ニミナラズ今日競馬ヲ開催致シテ居ル此法人ガ、全國ヲ通ジテ十一アリマスルガ、是レ以外ニハ政府ハ近キ將來ニ於テ斷ジテ新タル法人ノ設立ヲ認可ヲシナイ、斯様ニ聲明ヲ致シテ居ルノデアリマス、競馬ノ馬券ノ金額ハ二十圓以下ト制限シ、之ヲ購買スル者ハ學生、生徒、未成年者、並ニ競馬ニ從事スル者ニハ之ヲ許サズ、拂戻金ハ券面金ノ十倍ヲ超ユルコトヲ許サズ、買得金ノ額ヲ超ユルコトヲ許サズ、而シテ更ニ此買得金ノ内ヨリシテ、政府ニ或

ス、順次其發言ヲ許シマス、松本君平君、只今御出席ニナツテ居リマスカラ發言ヲ拋棄セラレタモノト認メマス、森下龜太郎君、是モ御出席ガアリマセス、是ニテ別ニ討論ハアテアリマス、故ニ此兩者ノ間ヲ調和シ、制限ヲ致シテ最モ弊害ヲ少クスルコトヲ範圍ニ於テ、最モ多クノ效果ヲ收メントスルノガ本案ノ骨子デアリマス、案文ヲ通覽致シマスレバ、法案立案者ノ苦心ノ痕跡々見ルベキモノガアリマスノミナラズ、委員會ニ於ケル質問應答モ全ク此一點ニ集中致シテ居ルノデアリマス、是ニ於テ是ニ對スルニ此制限ニ對スルノ政府ノ説明ハ、條文並ニ其他委員會ニ於ケル説明ノ大要ヲ御紹介ヲ致ス必要ガアラウト思フノデアリマス、只今ノ如キ此馬券ノ發賣ガ種々ナル弊害ヲ伴ウテ居ルノデアリマス、故ニ各種ノ方面ニ於テ是ガ制限調和ヲ目的トスル會社ニハ一切之ヲ許サヌ、民法第三十四條ノ所謂法人ニ限ルノデアル、ニミナラズ今日競馬ヲ開催スルモノハ、營利ヲ目的トスル會社ニハ一切之ヲ許サヌ、民法第三十四條ノ所謂法人ニ限ルノデアル、ニミナラズ今日競馬ヲ開催致シテ居ル此法人ガ、全國ヲ通ジテ十一アリマスルガ、是レ以外ニハ政府ハ近キ將來ニ於テ断ジテ新タル法人ノ設立ヲ認可ヲシナイ、斯様ニ聲明ヲ致シテ居ルノデアリマス、競馬ノ馬券ノ金額ハ二十圓以下ト制限シ、之ヲ購買スル者ハ學生、生徒、未成年者、並ニ競馬ニ從事スル者ニハ之ヲ許サズ、拂戻金ハ券面金ノ十倍ヲ超ユルコトヲ許サズ、買得金ノ額ヲ超ユルコトヲ許サズ、而シテ更ニ此買得金ノ内ヨリシテ、政府ニ或

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
附 則

(國務大臣伯飼内田康哉君登壇)

○國務大臣(伯飼内田康哉君) 只今御出席ニナツテ居リマスカラ直ニ本案ニ付テ採決ヲ致シマス(「反對」ト呼フ者アリ) 本案第一讀會ヲ開クニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ願ヒマス

シテ、僅三百五十万圓ヲ計上セラレ、其損害ノ額約三千万圓ト見積ラレタ其理由ヲ私ハ第二ニ伺ヒタク、何故ニ此西比利亞引揚ニ對スル損害ト云フモノニ私ガ重キヲ置クカト申シマスルト、只今大臣ノ御説明中ニ、一ツノ私ニ取テハ不可解ナ御説明ノ一語ガアダ、即チスノ如ク國策ノ變更ニ依テ來タ所ノ損害ハ、別ニ賠償ト云フヤウナ責任ハ無イト云フ御一言ガアリマス、勿論法律上ノ用語ヲ以テ致シマスル賠償ノ責任ハ無イカモ知テヌ、併ナガラ國家ガ西比利亞在留民ニ對スル從來ノ方針上、西比利亞移住等を獎勵シ、西比利亞ニ於ケル、林業、漁業等ニ對シテモ國家ガ獎勵致シタ爲ニ、邦人ノ有力者デアルト然ラザルトニ拘ラズ、多數ノ人ガ西比利亞ニ在留シテ、一面ニ于テハ自己ノ爲メ、他面ニ于テハ國家ノ爲ニ多年努力致シク其人ミガ、今回政府ニ猫ノ目ノ如ク變々タ西比利亞駐兵ノ理由ト——不徹底ナル駐兵ノ理由ト、及此引揚ニ對シテ倉皇トシテ善後ノ始末ヲ付ケザリシ其政府ノ失體ノ爲ニ、此損害カ多クナシト云フコトハ、中外ノ齊シク認ムル所ト信ジルノアリマス、果シテ然ラバ此責任ニ對シテモ、救恤ハ恩カナ事、此救恤ニ對シテハ勢ヒ一段ノ御考慮アツテ然ルベキモノト思ヒマスガ、本案ニ於テ現レタル數字ニ依リマスレバ、私ハ更ニ其御誠意ヲ認ムルコトカ出來ナイ、之ヲ第三ニ伺ヒタク、更ニ最後ニ伺ヒタクノハ内田外務大臣ハ他ノ外務大臣ニ對シテ、之ニ歐米ノ言葉ハ用ヒマセヌガ、外務大臣ハ退讓主義ノ和衷協同ガ、若シ本來ノ御親ノ神デアルナラバ、何故ニ外國ニ對シテノミ斯クマデ退讓、若クハ届辱ヲ重ネラルニ拘ラズ、我ガ日本臣民ガ一面ニ于テ國ノ爲ニ、彼ノ西比利亞ノ寒地ニ於テ多年ノ間苦シニ居タ者ガ、今ヤ政府ノ政策ノ誤マレコトニ申シマスカ、世間ヲハサウ申シ傳ハテ居ル、私ハ敢テソレノ言ヒマスカ、審議會ト言ヒマスカ、徒ニ小田原評定ヲ重ネラレテ居ル爲ニ、未ダ其全部が分配シ終ラズニ居ルサウデアル、何ガ故ニ退讓ノ美德ヲ發揮スルノ勇ナキカヲ疑フ者デアル、更ニ最後ニ伺ヒタクノハ、昨年既ニ貴族院ノ協賛ヲ經テ支出来セラレマシタ百五十万圓スラ、所謂霞ヶ關流ノ審査會ト言ヒマスカ、居ル、ノハ一年、三年先キノ事ニナリハセヌカラト憂ヘテ居ル、此僅カナ涙金ニ等シキ救恤ヲ致シマス以上ハ、之ヲ受クル者ハ焦眉ノ急ニ迫テ居ル人デアル、焦眉ノ急ニ迫テ居ル人ヲ救濟スルニ、一日早クスレハ假令十分ノ一日金デモ、十倍ノ效力ヲ示シマスケレドモ、斯ノ如キ因循、桂華トシテ日ヲ送リ、一年二年ヲ經テ僅ニ配布ヲ終ルガ如キ

手緩イコトデハ、其直意ヲ達シ兼ネルデアラウト云フコトヲ深ク憂ヘマスカラ、之ヲ第五ノ質問ノ要旨ト致シマシテ、國務大臣トシテノ外務大臣カラ、責任アル御答辯ヲ得タイト思ヒマス

〔國務大臣伯爵内田康哉君登壇〕

○國務大臣(伯爵内田康哉君) 只今、樋口君ノ御質問ニ御答致シマス。第一ノ御質問ハ百五十万圓ト限リタル理由ハドウデアルカト云フコトデアリマスか、是ハ質問中ニ申サレタ通りニ、大凡三千万圓ノ損害ノ見積リ次第デ、是ハ如何様ニモナリマス、併シ先刻説明中ニモ申シマシタ通り、昨年ノ例モ追ヒ、又日露戰役ノ例モ考慮ニ入レテ、約百五十万圓に内デ適當デアラウト云フ判定ノ下ニ出シタノテアリマス、尙オ詳細ノ事ニ付キマシテハ、委員會之ニ於テ説明ヲ致スコトニ致シマセウ、尙ホ救恤ト救濟ノ事ニ付テ御質問モアタヤウデアリマスガ、固ヨリ該事處ニ於キマシテハ、單リ救恤ノニテナク、救濟ノ事ニ付キマシテモ考慮ヲ拂ヒツツアルノデアリマス、西比利亞方面ノ我が國民ノ企業ヲ盛ンニシ、通商ヲ盛ニスル爲イノデアリマス、何カ此西比利亞政策ヲ政府が誤ラクカラシニハ、之ニ對シテ何等カノ救濟ヲ要スルコトハ申ス、マデモナヒ話デアリマスカラ、是ノ點ニ對シマシテモ、只今考慮ヲ拂ヒツツアルノデアフニ、決シテ救濟ヲシナイト云フ趣意テハナ策ヲ誤ラクカラ此救恤金ヲ出スノデハナイ、固ヨリ西比利亞方面ニ於ケル事柄ハ、洵ニ是已ムヲ得ナイ事柄デアリマシテ、其責任トシテ鉅額ノ金ヲ出サナクテハナラヌヤウナ趣意御質問モアリマシタガ、若シサウ云フ御趣意デアルナラバ、是ハ全然政府ノ見ル所ト異ニテ居リマス、政府ハ其政限リ救恤ヲ爲シ又救濟ヲ致シタイト考ヘテ居ルノデアリマス、最後ニ昨年ノ救恤金ノ始末ハ如何デアルカ、右ヨリ左ニ直グニ斯ノ如キ事件が始末セラレ得ルカノ如キ御理由ヲ以テ御質問デアリマシタガ、中ミ斯ル問題ハ甚ダ手數ヲ要スルノデアリマス、昨年ノ例ヲ申シマスレバ、昨年ノ救恤ヲ受クベキ者ハ、ソレドモ損害ノ要求ヲ出サナクテハナラヌ、其締切ノ期日ハ昨年七月三十一日ニナニテ居ル、總テノ損害ノ額が出来マセスト、之ヲ割當テルト云フコトハ甚ダムヅカシイ、ソレ故ニ是等ノ損害要求ヲ取纏メテ、之ニ詳細厳密ナル審査ヲ加ヘルニシ、時ヲ要スル、其爲ニ外務省ニ於テハ委員ヲ持ヘテ、日夜此事ニ盡瘁シテ居リマス、間モナク完結スルデアラウト思ヒマス、決シテ徒ニ怠慢ヲ致シテ、是等ノ救恤ヲ受クベキ人ノ不便ヲ無視シテ居ルト云フコトデアリマヌ、尙ホ今回ノ救恤ニ對シマシテモ、出來得ル限り速ニ其損害額ヲ知テ、之ヲ受クベキ人々ニ割當テル積リデアリマスカラ、左様御承知ヲ願ヒタイ



思フ、第一ニ一一番初メ加藤寛治中將ノ如キハ七割ヲ聲明シ、徳川全權カ又ソレヲ取消シタト云フコトデアル、又加藤全權ノ御話ニ依リマシテモ、一應ハ加藤全權カラモ七割ヲ主張シタガ、終ニ之ヲ讓歩シタト云フコトニ付テハ、何ダカ日本ガ駆引ヲヤッタヤウナ形ニナフテ甚ダ面白クナイ、私共六割ニ異存ハアリマセヌガ、其経過ガ甚ダ拙イヤウニ考ヘル、次ニ太平洋ノ問題ヲ議スルニ當リマシテ、亞米利加ノ布哇ヲ除外スルコトヲムサヘト承認サレタト云フコトニ付テハ、加藤全權總理カラ色ニ事情ヲ承リマシタガ、是亦物足ラヌ感ガスル、或ハ其御説ニ依リマスレバ、非律賓ガ一番大事ダカラ、非律賓サヘ除外サレ、バ布哇ノ如キハサウ重キヲ置カスト云フ御説ニアタガ、是ハ國民トシテドウモ首肯スル能ハザル點ニアタコト云フコトヲサレテ居リマシテ、「ジャパンプロバート云フ字ヲ使シテ、ソレニ付テ色ニノ疑義ヲ生ジ、遂ニ之ヲ改メルト云フヤウナコトヲヤッタ、加藤全權——總理大臣モ少々手落デアタト云フコトヲ申サレテ居リマスガ、甚ダ是ハ失態デアル、別ニ利害ニ關係ガナカッタト致シマシテモ失體デアル、其次ニ軍艦攝津ヲ除イテ陸奥ヲ加ヘタト申ストコトハ、是ハ餘程ノ御苦心ニアタヤウニ承リマシタガ、其代リニ英吉利ニモ二隻ヲ許シ、亞米利加ニモ二隻ノ新艦ヲ許シタト云フコトハ、差引キ我國ノ爲ニハドウ云フ結果ニナクタコト言ヒマスト、私共ハ疑か解クタノデゴイマスソレカド今一ヶ日英同盟三代ハル所ノ四國協約ヲ制定致シマシタ、此結果ニ付キマシテハ私共今此ニ其利害得失ヲ論斷スルコトハ避ケマスガ、唯其條文ヲ拵ヘルニ當リマシテ、條約國・太平洋ニ於ケル其島嶼タル屬地ト領地ト云フ文字ノ解釋ニ當テ、色ニ矛盾シタヤウナコトヲヤリマシテ、又再ビ後デ追加協定ヲヤシタト云フヤウナコトモ甚ダ拙劣ナルコト、認メルノデアリマスガ、ソレハ大シタ問題デハゴザイマセヌケレドモ、私共最モ此會議ニ於テ遺憾ヲ感ジマスノハ、初メ我國ガ亞米利加カラ勸招サレマシタ時分ニ、太平洋問題即チ東洋問題トハドウ云フ風ナモノナアズ、ドウ云フ性質ノモノナルカト云フコトヲ亞米利加ノ方ヘ問返シク、其時ニ亞米利加ノ方ノ答ニハサウ云フ問題ハ何レ寄セテ此問題ヲ研究スル時ニ定メタイカラ、此處デハ追究スルコトヲ避ケテ與ス、サウ云フ返事デアシタ、之ニ對シテ帝國ハ十年七月二十六日ヲ以テ斯ウ云フコトヲ回答シテ居ル、肯定國閏限リノ問題、若クハ既定事實ニ及ブコトハ慎重ニ之ヲ選ケルヲ以テ可ナリトス、慎重ニト云フ字ヲ加ヘテドウシテモサウ云フコトヲヤリタクナイ、ヤル意思ハ無イト云フコトヲ明ニ言テ居リマス、然ルニニ會議ヲ開キ、ソレニハ而モ亞米利加並ニ英吉利、兩國ノ全權ノ隨員ガ其會議ニ出張致シマシテ、監視ト申スコトハモ、結局英吉利、亞米利加、兩全權ノ勸誘ト申シマスカ、強制ト申シマスカ、ソレニ依テ遂ニ日本ト支那トノ兩國ノ間モ拘ラズ彼ノ地ニ於テ山東協約ノ問題ヲ議シタ、是ハ華盛頓會議ノ問題トハナツテ居ラヌト云フコトヲ言ヒマスケレドモ、甚ダイカヌカハ知リマセヌケレドモ、兎モ角其事ヲ色ニ聽イテ居タ、斯ウ云フヤウナコトデ此會議ヲ開イタ、即チ支那ト

致シマシテハ此兩國ヲ背景ト致シマシテ、日本ニ對シテ色々  
未ヲシタト申スコトハ、實ニ我が外交ノ一大失策ニアリ、吾  
吾ハ千古ノ恨事ト致スノデアル、外務大臣ニ此事ヲ承リマスレバ、彼地ニ開イタノハ便利上開イタノデアルト申サレマスケレドモ、何カ便利デアル、日本ト支那トノ問題ヲ華盛頓ニ持テ行テ開カナクテモ宜イ、之ヲ日本ニ開ク、或ハ支那ニ  
開イタナラバ、恐ラクア、云フ讓歩シナイデ済ンダコト、考  
ヘラレル、ソレニモ拘ラズ殆ド兩國監視ノヤウナ形ニ於テ、斯  
ウ云フヤウナ讓歩ヲスルニ至ツタコトハ、洵ニ私共長ク之ヲ日本ノ歴史カラ見テモ遺憾ト認メル者アリマス（拍手）ソレデ  
外務大臣アタリ、即チ政府ノ答辯ニ依リマスレバ、大變ナ讓  
歩ヲシタニ付テ、日本ト支那トノ間ノ親善ノ空氣ガ大變改  
マッテ、非常ナル好イ效果ヲ得シ、アルト云フコトヲ申サレテ居リマスケレドモ、是ハ私ダ前ニモ申シマシタ通りニ、私共ハ  
決シテサウトハ思ハヌ、此會議ニ於テ大ニ弱腰ヲ示シタレバ、  
コソ、此度二十一箇條ノ殘ニ居ル條件ニ對シテ、支那ハ是  
ガ無效ヲ宣布シ既ニ向フカラ入ガ參テ日本ノ政府三掛合  
ハントスル如キコトニ至ツタノハ全ク此爲デアル、是ハ英米ノ  
背景背後ガアツコトヲ忘レズ頭ニ持テ居ラテ、マカリ間違ヘ  
バ仲裁裁判ニモ持出スト云フコトヲ言フテ居ル、斯ウ云フコ  
トニ至ツタノハ決シテ親善ニ進ンダコロデハナイ、寧ロ弱腰  
ヲ示シタ所ノ結果ト斷定シナケレバナラヌ（拍手）斯ウ云フコ  
トヤウナ狀況デゴザイマシテ、華盛頓會議ノ費用ニ付テハ、私  
共ハ費用ハ贊成致シマスケレドモ、其經過竝ニ結果ニ付テ  
ハ決シテ満足シテ居ル者デナイト云フコトヲ茲ニ言明致シマ  
シテ之ニ贊成スル、即チ承諾ヲ與ヘントスル者アル、序ナガ  
ラ使ヒマシタ費用ノ内譯ヲ一寸参考ノ爲ニ申上げテ置キマ  
スガ、總額ハ二百三十八万幾ラアリマス、其中事務所ニ  
使ツタ費用ガ百七万幾ラソレカラ旅行手當ト申シマスモノ  
ニ四十一万六千圓ヲ出シテ居ル、又特別手當ニ三十八万  
七千圓出シテ居ル、其外ニ機密費ト云フモガ七十五万圓  
アル、七十五万圓ト申シマスト殆ド全額ノ三分ノ一、三分ノ  
一マテ機密費ヲ出シテ居ル外務省ニ機密費ガ多イト云フコ  
トハ私共常ニ之ヲ疑テ居ル、當年モ豫算ノ時分ニ革新俱  
樂部ノ方ガアルト思ヒマス、ノハ、間キマスト何ニ使ツタカ言フコトハ出來ヌト言ニテ、遁レテ  
居リマスガ、僅カナラナラバ宜シウゴザイマスケレドモ、金額ノ  
三分ノ一ニ達スル七十五万圓モ使ツタ云フコトハ、實ニ甚  
シイ使ヒ方アルト思ヒマス、ノハ、間キマスト何ニ使ツタカ言フコトハ出來ヌト言ニテ、遁レテ  
任官ニナリマスレバ、六千二百圓、ソレカラ日當ハドウカト云  
ヒマスレバ、一番高イノガ一日百七十五圓、ソレカラ百五十  
圓、勅任官ニ至リマシテハ、八十圓カラ六十圓、尤モ是ハ向

第十 河川法中改正法律案（本多貞次郎  
君外三名提出） 第一讀會

河川法中左ノ通改正ス

河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ハ河川ニ關スル費用ヲ以テ之ヲ支辨ス

○本多貞次郎君 本案ノ提出ノ理由ヲ 極テ簡単ニ申上

デマス、本案ハ河川法第三十二條ノ第一項ヲ改正致スノ  
デアリマス、此河川法ハ明治二十九年四月八日ノ制定ニ

シマセヌ點が多々アリマス、極テ舊イ法文ノ爲ニ、往々時勢ニ伴隨  
係ルモノアリマス、極テ舊イ法文ノ爲ニ、往々時勢ニ伴隨

ニ付キマシテハ非常ニ不備ノ點カアリマスルカ故ニ茲三提  
シ付シタ次第アリマス、是ハ現行法ヲ一寸申シテ置キマス、  
「可シタ」次第アレ〔各々は〕モ法ヲ一寸申シテ置キマス、

用ハ其ノ工事ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體若ハ管理私ノ負擔トス、但シ命令ノ定ムレ共

ニ從ヒ河川ニ關スル費用ノ内ヨリ其ノ費用ノ全部若ハ一部ヲ補助スルコトヲ妨ケズ斯ウアリマスルガ故ニ、政府ト關

係者トハ常ニ種々ナル紛擾ヲ醸シマシテ、結局矢張政府ノ  
支辨ニ屬シテ居ルノガ今日多イノデアリマス、故ニ此法文ヲ

簡明ニ致シタイ爲ニ本案ヲ提出シタ次第アリマス、何卒  
諸君ノ御賛成ヲ仰ギマス(拍手)

○鈴木鉄藏君 本案ハ本多貞次郎君外五名提出ハ、利根運河開渠有ニ關スル建議案ノ委員ニ併セテ付託サレシコ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

メマス、仍テ勧議ニ如ク決シマス、日程第十一、災害地租免除法中改正法津案ノ第一讀會ヲ開キマス、是出皆直賜宣

君  
卷之二

# 第十一 灾害地租免除法中改正法律案 (植場平君外一名提出) 第一講

官報號外

大正十二年三月十日

衆議院議事速記錄第二十八號

卷之三

災害地圖

卷之十

سید علی

災害地地租免除法中改正法律案  
第一條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第一項ノ田畠ニ再植ヲ爲シタルトキハ收穫ノ有無ニ拘ラス仍其地租ヲ免除ス

〔植場平君登壇〕

○植場平君 災害地地租免除法ノ改正案ヲ提出致シマシタ其要旨ヲ極テ簡單ニ一言致シタイト存ジマス、御承知ノ通り災害地地租免除法ニ依リマスト、灾害ノ爲モ收穫皆無ニナリマシタ畠烟ニ限テ、地租ヲ免除スルコトニ相成テ居ルノデアリマス、然ルニ其災害ノ季節如何ニ依リマシテハ再び植付ケマシテ收穫ヲ得ルコトガ出來得ルノデアリマス、其再び植付ケマシテ收穫ヲ得ルマシタモノニ對シテハ、地租ノ免除ノ恩典ヲ與ヘルコトカ出來ナイ、デアリマス、ソレ故ニ私ハ法律ヲ改正致シマシテ、勞費ヲ厭ハズ再び植付ケテ收穫ヲ得マシタモノニ對シテハ、收穫皆無ノ爲ニ免租セラル、モノト同様ナル恩典ヲ與ヘタイ、ト存ジマスノデアリマス、仍テ此法案ヲ提出致シテ諸君ノ御審議ヲ請フ次第アリマス、唯、一言茲ニ加ヘテ申上ゲテ置キタイノハ、此法案ハ前期ノ議會ニ提出致シマシテ、滿場ノ御同意ヲ得テ、本院ハ通過ヲ致シタノデアリマス、併シ形式ノ上ニ於テ多少違フ所ガアリマスカラシテ、一言申シテ置キタイ、昨年提出致シマシタトキニハ、第一條ノ一項ニ但書ヲ加ヘルト云フコトニシテ提出致シタノデアリマスガ、本年ハ第一條ノ一項ノ一項ノ次ニ一項ヲ加ヘルト云フコトニ形式ヲ改メタノデアリマス、是ハ種々考慮ノ上改メマシタノデ、要旨ニ於テハ更ニ變ル所ハナインデアリマス、故ニ御審議ノ上、前期議會同様滿場ノ御賛成ヲ得ク切望致ス、次第アリマスガ、宜シク願ヒマス

○鈴木錠藏君 本案ハ林田龜太郎君外一名提出、明治四十一年法律第三十七號中改正法律案外六件ノ委員ニ併セテ付託セラレントラ希望ニマス、議長(柏谷義三君)鈴木君ノ動議ニ御異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス、日程第十二、農業倉庫普及充實ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、提出者井上角五郎君

右建議ス  
〔井上角五郎君登壇〕  
農業倉庫ハ農村ノ金融小農ノ保護米價ノ安定等ノ機関トシテ農村振興上必須ノ設施ナリ政府ハ宜シク農業倉庫ノ補助金増額ヲ爲シ以テ其ノ普及充實ヲ圖ルベシ

○井上角五郎君 本案ノ说明ヲ致シマス、本案ハ即チ農業倉庫ノ充實普及ヲ圖ルモノアリマシテ、現ニ成立シテ居ル所ノ米穀法案ヲ實行スル上ニ於キマシテモ、政府カラ申

シマシテモ、亦農民カラ申シマシテモ、此倉庫ハ必要ナルモノアルノデアリマス、米其他ノ農産ノ價格ヲ維持スル上ニ於キマシテ、農村ニ倉庫ノ必要ナルコトハ申スマテモナキ事アリマス、又此農業倉庫ハ即チ低利資金ヲ運用致シマス上シタ其要旨ヲ極テ簡單ニ一言致シタイト存ジマス、御承知ノ通り災害地地租免除法ニ依リマスト、灾害ノ爲モ收穫皆無ニナリマシタ畠烟ニ限テ、地租ヲ免除スルコトニ相成テ居ルノデアリマス、然ルニ其災害ノ季節如何ニ依リマシテハ再び植付ケマシテ收穫ヲ得ルコトガ出來得ルノデアリマス、其再び植付ケマシテ收穫ヲ得ルマシタモノニ對シテハ、地租ノ免除ノ恩典ヲ與ヘルコトカ出來ナイ、デアリマス、ソレ故ニ私ハ法律ヲ改正致シマシテ、勞費ヲ厭ハズ再び植付ケテ收穫ヲ得マシタモノニ對シテハ、收穫皆無ノ爲ニ免租セラル、モノト同様ナル恩典ヲ與ヘタイ、ト存ジマスノデアリマス、仍テ此法案ヲ提出致シテ諸君ノ御審議ヲ請フ次第アリマス、唯、一言茲ニ加ヘテ申上ゲテ置キタイノハ、此法案ハ前期ノ議會ニ提出致シマシテ、滿場ノ御同意ヲ得テ、本院ハ通過ヲ致シタノデアリマス、併シ形式ノ上ニ於テ多少違フ所ガアリマスカラシテ、一言申シテ置キタイ、昨年提出致シマシタトキニハ、第一條ノ一項ニ但書ヲ加ヘルト云フコトニシテ提出致シタノデアリマスガ、本年ハ第一條ノ一項ノ一項ノ次ニ一項ヲ加ヘルト云フコトニ形式ヲ改メタノデアリマス、是ハ種々考慮ノ上改メマシタノデ、要旨ニ於テハ更ニ變ル所ハナインデアリマス、故ニ御審議ノ上、前期議會同様滿場ノ御賛成ヲ得ク切望致ス、次第アリマスガ、宜シク願ヒマス

○鈴木錠藏君 本案ハ林田龜太郎君外一名提出、明治四十一年法律第三十七號中改正法律案外六件ノ委員ニ併セテ付託セラレントラ希望ニマス、議長(柏谷義三君)鈴木君ノ動議ニ御異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス、日程第十三、農業倉庫普及充實ニ關スル建議案外九件ノ委員ニ併セテ付託セラレントラ希望ニマス

〔鶴澤宇八君登壇〕  
農業倉庫普及充實ニ關スル建議案

農業倉庫ハ農村ノ金融小農ノ保護米價ノ安定等ノ機

関トシテ農村振興上必須ノ設施ナリ政府ハ宜シク農業

倉庫ノ補助金増額ヲ爲シ以テ其ノ普及充實ヲ圖ルベシ

右建議ス  
〔鶴澤宇八君登壇〕  
農業倉庫ハ農村ノ金融小農ノ保護米價ノ安定等ノ機

関トシテ農村振興上必須ノ設施ナリ政府ハ宜シク農業

倉庫ノ補助金増額ヲ爲シ以テ其ノ普及充實ヲ圖ルベシ

右建議ス  
〔鶴澤宇八君登壇〕  
農業倉庫普及充實ニ關スル建議案

農業倉庫ハ農村ノ金融小農ノ保護米價ノ安定等ノ機  
關トシテ農村振興上必須ノ設施ナリ政府ハ宜シク農業  
倉庫ノ補助金増額ヲ爲シ以テ其ノ普及充實ヲ圖ルベシ  
右建議ス  
〔鶴澤宇八君登壇〕  
農業倉庫普及充實ニ關スル建議案

農業倉庫ハ農村ノ金融小農ノ保護米價ノ安定等ノ機

關トシテ農村振興上必須ノ設施ナリ政府ハ宜シク農業

倉庫ノ補助金増額ヲ爲シ以テ其ノ普及充實ヲ圖ルベシ

右建議ス  
〔鶴澤宇八君登壇〕  
農業倉庫普及充實ニ關スル建議案

農業倉庫ハ農村ノ金融小農ノ保護米價ノ安定等ノ機

關トシテ農村振興上必須ノ設施ナリ政府ハ宜シク農業

倉庫ノ補助金増額ヲ爲シ以テ其ノ普及充實ヲ圖ルベシ

右建議ス  
〔鶴澤宇八君登壇〕  
農業倉庫普及充實ニ關スル建議案

農業倉庫ハ農村ノ金融小農ノ保護米價ノ安定等ノ機

關トシテ農村振興上必須ノ設施ナリ政府ハ宜シク農業

倉庫ノ補助金増額ヲ爲シ以テ其ノ普及充實ヲ圖ルベシ

右建議ス  
〔鶴澤宇八君登壇〕  
農業倉庫普及充實ニ關スル建議案

農業倉庫ハ農村ノ金融小農ノ保護米價ノ安定等ノ機

關トシテ農村振興上必須ノ設施ナリ政府ハ宜シク農業

倉庫ノ補助金増額ヲ爲シ以テ其ノ普及充實ヲ圖ルベシ

右建議ス  
〔鶴澤宇八君登壇〕  
農業倉庫普及充實ニ關スル建議案

騰貴致シマシテ、國民ハ生活ニ苦シニ居ルノデアリマス、成ベク物價ヲ低落セシメテ國民ノ生活ニ安定ヲ與ヒシメルト云フコトハ、今日ノ急務デアルト存ズルノデアリマス、物價ノ中ニ於キマシテ何ガ高イト申シマシテモ、私ハ今日魚類程高い物ハ無イカト思ヒマス、何カ爲ニ魚類ガ斯ノ如ク高イノデアリマセウカ、是ハ申ス迄モナク需用供給ノ關係デアリマス、國民ハ年々七八十万宛ノ増加ヲスルノニモ拘ラズ、之ト反比例ニ漁業ノ漁獲ハ年々減額ヲシテ居ルノデアリマス、此意味ニ於キマシテ、我ガ國民ハ往古ヨリ米ニ相亞イデ魚類ヲ喰ベテ居ルノデアリマス、即チ魚類ノ需用が極ムテ多イノアル、其魚類ガ十分ニ國民ノ需用ヲ充スコトガ出來ナイ、自然即チ騰貴シテ、國民ハ生活ニ益、困難ヲスルト云フコトニナテ居サノデアリマスカラ、是非共此漁業ヲ獎勵シテ澤山ノ漁獲ヲ得テ、市場ニ澤山ノ魚類ヲ送ルト云フコトカ、今日最善ノ方法デアルノデアル、如何ニシタナラバ魚類ヲ市場ニ送ルコトガ出来ルカ、即チ漁業資金ノ缺乏ノ結果、魚ヲ澤山市場ニ送ルコトガ出来ナイト云フコトニナラテ居ルノデアリマスルカラ、漁業資金ノ方法ト致シマシテ、特殊ノ水產銀行ト云フモノヲ造ルト云フノガ私ノ趣旨ニ在ルノデアリマス、諸君、我が國民ハ先ツメヲ喰ベテ居ルノデアリマスケレドモ、副食食物ト致シマシテハ魚類ニ限ルノアリマス勿論牛豚肉ヤ、鶏肉ノ如キモ副食物ト致シテ居リマス、又榮養物トモ致シテ居リマスノデアリマスケレドモ、此牛豚ニ頗ツ食物ト、同一ノ食物ヲ依テ生活ヲシテ居ル、成患ヲスルモノデアル、著殖スルモノデアル、猶逸デハ過去五年ノ長期間ノ戰争中ニ於テ食糧が缺乏致シタソコニモ、此牛豚ニ頗ツ食物トハ少シモ抵觸シテ居ナイノデアリマス、而シテ即チ水產物ノ棲息スル所ノ面積ト云フモノハ、地球ノ七分ノ五ヲ占メテ居ルノデアリマス、而モ海洋ハ自由デアリマスルカラ、其富源ハ無盡藏デアルノデアリマス、デ此天然自然ノ漁業ヲ旺盛ナシシタナラハ、當ニ今日ノ即チ榮養問題ト人ノ食糧問題ノ解決トカ、又生活ノ安定ヲ得セシムルナドト云フヤウナ事バカリデハナインデアル、今日世界ノ各様ハドウデアルカ、其富源ハ無盡藏デアルノデアリマス、諸君、申スマデモナル神武天皇ノ御母君ハ海神ノ女ニ、我ガ祖先ハクハ天風ノ將士ハ何レ海ニ親シダノデアル、我ガ祖先ハクハ天風ト海上トニ依テ送ラタル所ノ海國人種デアルノデアリマス、スルガ故ニ、我ガ國民ヲシテ建國創業ノ由來ヲ忘却サセテハナヌノデアリマス、而シテ我國ノ自然ノ狀態ヲ、海ノ恩澤ニ沿シテ居リ、而シテ海ニ依テ生活物資、營養食物ヲ仰イ

デ居リマスル以上ハ、徹底的ニ海ヲ利用スルノ考ヲ持タナケレバナラヌノデアリマス、諸君、渺茫タル所ノ太平洋、又日本海ノ此海ハ、我ガ國民ニ天ヨリ授ケラレタル、委ネラレタル所ノ活動舞臺デアルノデアリマス、無限ノ富源、廣大ナル寶庫ハ、海中海底到ル處ニ在ルノデアリマス、大ニ國民ノ活動スベキ舞臺デアルト存ズルノデアリマス、寶ノ山ニ上レドモ、手ヲ空シウシテ歸ルト云フガ、此寶ノ海ニ面シテ爲スコトヲ爲然即チ騰貴シテ、國民ハ生活ニ益、困難ヲスルト云フコトニナテ居サノデアリマスカラ、是非共此漁業ヲ獎勵シテ澤山ノ漁獲ヲ得テ、市場ニ澤山ノ魚類ヲ送ルト云フコトカ、今日最善ノ方法デアルノデアル、如何ニシタナラバ魚類ヲ市場ニ送ルコトガ出来ルカ、即チ漁業資金ノ缺乏ノ結果、魚ヲ澤山市場ニ送ルコトガ出来ナイト云フコトニナラテ居ルノデアリマスカラ、漁業資金ノ方法ト致シマシテ、特殊ノ水產銀行ト云フモノヲ造ルト云フノガ私ノ趣旨ニ在ルノデアリマス、諸君、我が國民ハ先ツメヲ喰ベテ居ルノデアリマスケレドモ、副食食物ト致シマシテハ魚類ニ限ルノアリマス勿論牛豚肉ヤ、鶏肉ノ如キモ副食物ト致シテ居リマス、又榮養物トモ致シテ居リマスノデアリマスケレドモ、此牛豚ニ頗ツ食物ト、同一ノ食物ヲ依テ生活ヲシテ居ル、成患ヲスルモノデアル、著殖スルモノデアル、猶逸デハ過去五年ノ長期間ノ戰争中ニ於テ食糧が缺乏致シタソコニモ、此牛豚ニ頗ツ食物トハ少シモ抵觸シテ居ナイノデアリマス、而シテ即チ水產物ノ棲息スル所ノ面積ト云フモノハ、地球ノ七分ノ五ヲ占メテ居ルノデアリマス、而モ海洋ハ自由デアリマスルカラ、其富源ハ無盡藏デアルノデアリマス、諸君、申スマデモナル神武天皇ノ御母君ハ海神ノ女ニ、我ガ祖先ハクハ天風ノ將士ハ何レ海ニ親シダノデアル、我ガ祖先ハクハ天風ト海上トニ依テ送ラタル所ノ海國人種デアルノデアリマス、スルガ故ニ、我ガ國民ヲシテ建國創業ノ由來ヲ忘却サセテハナヌノデアリマス、而シテ我國ノ自然ノ狀態ヲ、海ノ恩澤ニ沿シテ居リ、而シテ海ニ依テ生活物資、營養食物ヲ仰イ

デ居リマスル以上ハ、徹底的ニ海ヲ利用スルノ考ヲ持タナケレバナラヌ事デアラウト思フ、而シテ此漁業ガ社會政策上カラ見テ、生活上如何ニ重大ナ關係ガアルカ、今其統計ニ就テ一言申述ベタナラバ、此大東京市、所謂三多摩ヲ除キシタル大東京市ノ世帶ハ八十二万戸アルト云フコトアル、此八十二一万戸ノ世帶中ニ於テ、即チ此世帶ノ中ニハ料理店モアリマスレバ、數多イ所ノ飲食店モアリ、又華族、豪族モヨリ十分ニ漁獲致シテ、國民生活ノ唯一ノ—即チ米ニ亞イデ唯一ノ漁業ヲ十分ニ徹底的ニ遺憾ナク之ヲ供給サセ、又サマルト云フコトハ、我ガ國家經濟ノ上ニ於テ、爲スペカラザル事デアルト思フノデアリマス、即チ資本ヲ充實サシテ、魚類ヲ空シウシテ歸ルト云フガ、此寶ノ海ニ面シテ爲スコトヲ爲サムルト云フコトハ、我ガ國家經濟ノ上ニ於テ、爲スペカラザル事デアルト思フノデアリマス、即チ資本ヲ充實サシテ、魚類ヲ空シウシテ歸ルト云フガ、此寶ノ海ニ面シテ爲スコトヲ爲コトハ、今日國家ニ於テ當然爲サナケレバナラヌ事デアラウト私ハ思フノデアリマス、諸君、今日我國ノ重要物產中ノ花形デアル所ノ生絲ハドウデアリマセウカ、伊太利ハ戰後回復ヲ致シマシテ、生絲ノ產出ノ上ニ力ヲ用キテ居ルノデアマス、更ニ支那ハドウデアリマセウ、年々ノ產額ト云フモノハ非常ナ熱ヲ示シテ居ルノデアリマス、唯、今日ハ製品が粗惡ナルガ爲メ、吾ノ生絲ニ頗頑スルコト能ハザルノデアリマスケレドモ、彼ノ危大ナル四百餘州ノ支那ノ地ニ於テ此生絲ガ益、進歩發展致シマシタナラバ、我ガ生絲ハ將來甚ダ輸出ニ於テ恐ルベキ事ニナルト思フノデアリマス、唯、今日ハ製品が粗惡ナルガ爲メ、吾ノ生絲ニ頗頑スルコト能ハザルノデアリマスケレドモ、彼ノ危大ナル四百餘州ノ支那ノ地ニ於テ此生絲較ノ一言申シテ見ミシタナラバ、アノ金銀ノ產額ノ如キドウニ於テ恐ルベキ事ニナルト思フノデアリマス、諸君、此漁業ハ我國ニ於キマシテ如何ニ忽諸ニ付スベカラザルカ、又如何ニ重大ナル關係ガアルノデアルカ、試ニ海陸物產ニ付テ其比

宇カ出ルノデアリマス、一箇月ニハ一三ダ六、三八二十四

二百四十六万兩ト云フ金ガ浮クノデアル、之ヲ一年三百六十、大正元年ノ產出ハ六百七十九万九千圓アル、大正四年ニ一千八十八万ト云フ多額ノ產出ガアタノデアルガ、十

年間ヲ平均致シマシテ、一千萬二ハ達シテ居ナシ、九百五

十万内外デアルノデアル、銀モ亦其位ノ程度ニシカ過ギナ

ノデアル、然ルニ漁業ハドウデアリマセウカ、大正七年カノ調

度採掘スレバソレテ盡キテシマフノデアル、其經費ノ上ニ於

キマシテモ遙ニ鑄業ハ多額ノ費用ヲ要スルノデアリマス、斯

ク申シマスル私ニ在テモ、鑄業ノ不必テ要ラニハマシテ、

金銀、銅、鐵ヲ始メ石炭ニ至ル迄、國家ト致シマシテハ

モ缺クベカラザル所ノ重要ナ品物デアリマスカラ、此鑄業ノ

進歩發展モ亦非常ニ熱望スルモノデアリマスケレドモ、此

漁業ニハ經驗ヲ有シテ居ルノデアリマス、諸君、申スマデモナ

ク神武天皇ノ御母君ハ海神ノ女ニ、在スノデアリマス、當時

ス、諸君、我國ニ於ケル今日ノ有様ハドウデアリマセウカ、

衣食住ノ爲ニノミ國民効カザルヲ得ザルヤノ感ア

御考ニ至ラザルコト甚ダ遺憾ト存ズルノデアリマス、諸君、

コトガ、即チ因ニテ起ル所ノ問題デアラウト思フノデアリマス、

カク結果デハナイカト思フノデアリマス、若シ眞ニ荒井農商大臣ガ此魚價ヲ引下ゲ、國民生活ヲ安定セシメントスル

所ノ誠意アルナラバ、須ラク魚獲ヲ増大セシメル舉ニ出テ、

セニスベカラザル所ノ重大ナ問題デアルト考ヘルノデアリマス

コトガ、即チ因ニテ起ル所ノ問題デアラウト思フノデアリマス、

即チ漁業ニ志ヲ入レル其精神可ナリト雖モ、未ダシレマデノ

御考ニ至ラザルコト甚ダ遺憾ト存ズルノデアリマス、諸君、

由來我國ノ漁業ハ沿岸漁業デアルノデアリマス、家族眷族

一并ニ沿岸ニ在テ、小サノ漁業ヲ營ンデ、サウシテ日々ノ生

計ヲ立てるヲ以て足レリトシテ所ノ道百アルノアリマス、  
遠ク沖合ニ出テ大キナ漁業ヲスルコトガ近時盛ニナテ來タ  
ト雖モ、此四面環海、多クノ漁民ノ多數ノ人ハ、即チ沿岸ニ  
在テ小サナ漁業ヲ營ミ、小サナ漁獲ヲシテ、サウシテ生活ノ  
餘力ヲ以テ販賣スル位ニアタノアリマス、沿岸ノ漁業ハ非  
常ニ減退ヲ致シタノアリマシテ、是等ノ即チ往古ヨリ昔ヨ  
リ、習慣トシテ、取リ来タク所ノ此漁民ハ、遠ク沖合ニ出ル  
ノニハ大キナ船ハ無ク、即チ大キナ船ヲ造ルニハ資本ガ足リ  
ナクシテ、山スコトカ出来ズシテ即チ、業ヲ廢メル、若クハ轉業  
ヲスル者ガ多ク出來タノアリマス、甚ダ地方ノ漁民ト云フ  
モノハ、困憊ノ状態ニ立至テ居ルノアリマス、諸君、今日  
我國ノ漁民ノ中ニハ半農者モアリマス、半漁者モアリマス、  
漁業ヲ營ム者ガアルノアリマス、此半農半漁者ヲ合スレ  
バ、私ハ殆ド一千萬、即チ我國ノ五分ノ一ノ漁業者ガアルモ  
ラズ、即チ農業ニハ農工銀行、勸業銀行等ガアリ、商業家ニ  
ハ幾多ノ銀行ガ設立サレテアルノアリマス、工業ニハ日本  
興業銀行等ガアルノニモ拘ラズ、此水産家ニ對シテ此金融  
ノ途ヲ圖ルベキ所ノ特殊ノ銀行ガ、今日マデ無カタト云フ  
コトハ甚ダ遺憾ニ堪ヘナイノアル(ヒヤー)カ故ニ、是等  
ノ多數ノ漁民ヲ救濟シ、今日ノ生活ヲ安定セシメ、而シテ漁  
業ヲ安固ナラシムルノ途ト致シマシテハ、特殊ノ水產銀行ヲ  
立テルヨリ外ナイト思フノアリ、四民平等、一視同仁ト云  
フ大仰心ニモ副ハナイ本デアルト思フノアリ、速ニ是等ノ  
銀行ヲ立テ、而シテ漁業ヲ十分ニ旺盛ナラシムテ、國民生  
活ヲ安定セシムルト云フ事カ、刻下ノ最大急務デアルト存ズ  
ルノアリマス、此意味ニ於キマシテ簡単ニ此說ヲ爲シ、敢テ  
諸君ノ御同意ヲ請ハント欲スルノアリマス  
○鈴木綱藏君 本案ハ櫻内幸雄君外二名提出、大漁船  
獎勵三關スル建議案外二件ノ委員ニ併セ付託セラレン  
コトヲ望マス

## 〔異議ナシ下呼フ者アリ〕

○議長(柏谷義三君) 鈴木君ノ動議ニ依テ漁業ヲ營ム者  
メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、日程第十五、第十六  
ハ一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ下呼フ者アリ〕  
○議長(柏谷義三君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議  
メマス、日程第十五、第十六ノ兩案ヲ一括シテ、阪上貞  
鐵附屬地間ノ郵便電信料金統一ニ關スル建議案外二件ノ  
十六、仁川築港擴張三關スル建議案、右二案ヲ一括シテ議  
題ト致シマス――提出者ノ趣旨辨明ヲ許シマス――牧山耕  
藏君

## 第十五 内地ト朝鮮臺灣、樺太、南洋群島

關東州及滿鐵附屬地間ノ郵便電  
信料金統一ニ關スル建議案(牧)

内地ト朝鮮、臺灣、樺太、南洋群島、關東州及滿鐵附屬地間ノ郵便電信料金統一ニ關スル建議案提出

關地間ノ郵便電信料金統一ニ關スル建議案  
内地ト朝鮮、臺灣、樺太、南洋群島、關東州及滿鐵附屬地間ノ郵便電信料金統一ニ關スル建議案  
内地ト朝鮮、臺灣、樺太、南洋群島、關東州及滿鐵附屬地間ノ郵便電信料金ハ其ノ種類ニ依リ内地相互通關ニ比  
シ高埠ナリ之ヲ統一スルハ拓殖統治上極メテ緊要ノコトニ改正スヘシ  
右建議ス

## 第十六 仁川築港擴張ニ關スル建議案

(牧山耕藏君外四名提出)

仁川築港擴張張ニ關スル建議案

仁川港ハ朝鮮西海岸ニ於ケル一大要港ニシテ輓近產業  
ノ進展ニ伴ヒ其ノ貿易額ハ逐年激増シ現ニ大正十一年  
ノ如キ一億万圓ヲ突破スルノ盛況ヲ呈セリ而シテ之ニ件  
フ出入船舶ノ增加ハ直ニ築港ノ狹隘ヲ來シ之カ擴張增  
築ハ洵ニ刻下ノ急務ニ屬ス依テ政府ハ速ニ適當ノ計畫  
ヲ樹テ必要ナル豫算案ヲ提出セラレムコトヲ望ム

右建議ス

(牧山耕藏君登壇)

○牧山耕藏君 此席ヨリ發言ノ御許ヲ願ヒマス――日程

第十五ハ内地ト朝鮮、臺灣、樺太、南洋群島、關東州、及滿

鐵附屬地間ノ郵便電信料金統一ニ關スル建議案外二件ノ  
議題ト爲スニ依リマシテ、内地相互間ヨリモ著シク高率ニ在ルノアリマ

ス、之ヲ内地ト同様ニ改メタイト云フノガ本建議ノ趣旨デ

アリマス、此結果ト致シマシテハ、遞信省並ニ各植民地政廳

ノ收入ニ多少ノ影響ナ及ボヌニアリマスケレドモ、植民地

統治ガ帝國ノ重要ナル國務アリ、其成敗如何ガ國勢

ノ消長ニ重大ナル關係ヲ持テ居ル點ヨリ考察致シマスレ

バ、斯様ナル差等ヲ撤廢致シマシテ、内地同様ニ改メルコト  
ガ統治政策上適當ナリト信ジマシテ、此案ヲ提出致シマシタ

次第アリマス次ニ三日程第十六ハ、仁川港擴張ニ關スル建議

デアリマスガ、仁川ハ溝渠ノ如キ關係ニ在ルノアリマス、  
ス、丁度東京ニ對スル横濱ノ如キ關係ニ在ルノアリマス、

貿易額ノ如キモ日本全國ヲ通ジテ第五位ニ在ルノアリマ

シテ、大正十二年ノ如キハ既ニ一億万圓ヲ突破シテ居ル  
ノアリマス、此港ハ潮ノ干満ノ差甚基シク、普通ノ築港デ

ハ其用ヲ爲サヌノアリマシテ、蓋ニ政府ハ三百五十餘万

圓ノ經費ヲ以テ、明治四十四年ニ開港式築港ノ計畫ヲ立

テマシテ、大正七年ノ十月ニ竣工ヲ致シタノアリマス、所ガ

其當時ノ計畫ハ約六十萬噸ノ貨物が集散ラスルト云フ

コトヲ目安トシテ計畫ヲ立テラレタノアリマスガ、時勢ノ進

展ニ伴ヒマシテ貨物者シク増加シ、既ニ今年ノ如キ又昨年  
ノ如キ七十餘萬噸ヲ超過致シテ居ルヤウナ次第、隨テ出

其當年ノ計畫ハ約六十萬噸ノ貨物が集散ラスルト云フ

コトヲ目安トシテ計畫ヲ立テラレタノアリマスガ、時勢ノ進

展ニ伴ヒマシテ貨物者シク増加シ、既ニ今年ノ如キ又昨年

ノ計畫ヲ立ツルニ非ザレバ、豫期ノ目的ヲ達スルコトが出來  
ヌノアリマス、政府ハ速ニ適當ナル計畫ヲ立テラレマシテ、  
之ニ必要ナル豫算ヲ提出セラレムコトヲ希望シ本建議ヲ爲  
ス次第アリマス尙ホ詳細ナル提案理由ノ説明ハ委員會  
ニ譲リマス  
○鈴木綱藏君 第十五第十六ノ兩案ヲ一括シテ、阪上貞  
信君外四名提出、植民政策確立ニ關スル建議案外二件ノ  
委員ニ併セ付託セラレムコトヲ望ム  
○議長(柏谷義三君) 鈴木君ノ動議ニ御異論アリマセヌ  
カ  
(「異議ナシ」「異議ナシ下呼フ者アリ」)  
○議長(柏谷義三君) 御異議ナシトイト認メマス、仍テ動議  
ノ如ク決シマシテ、第十七、第十八モ便宜上一括議題ト爲ス  
ニ御異議アリマセヌカ  
(「異議ナシ」「異議ナシ下呼フ者アリ」)  
○議長(柏谷義三君) 御異議ナシトイト認メマス、日程第十  
七、牧野法制定ニ關スル建議案、日程第十八、第二國立  
醸造試驗所新設ニ關スル建議案、右二案ヲ一括議題ト致  
シマス 提出者ノ趣旨辨明ヲ許シマス、吉良元夫君  
右建議ス

## 第十七 牧野法制定ニ關スル建議案(吉良元夫君提出)

牧野法制定ニ關スル建議案

牧野法制定ニ關スル建議案

二牧野法ノ制定セラレムコトヲ望ム

一牧野ノ定義ヲ明ニスルコト

二牧野ト開墾地植林地等ノ管理區分ヲ明ニスル  
コト

三牧野ノ整理及設備ヲ命スルコト

四牧野ノ保護、維持ニ關スル事項ヲ制定スルコト

五牧野ノ整理、設備、維持ニ關シ獎勵金ヲ交付ス  
ルコト

右建議ス

## 第十八 第二國立醸造試驗所新設ニ關スル建議案(吉良元夫君外二名提出)

第二國立醸造試驗所新設ニ關スル建議案

第二國立醸造試驗所新設ニ關スル建議案

本邦醸造業ハ近年大ニ其ノ改良進歩ノ實績ヲ顯ハシ之  
テ舊時ニ比スレハ殆ト隔世ノ感アリ然レトモ未タ根本的  
之腐造防止ノ方法ヲ發見セラルニミナラス其ノ附藏ニ於  
テモ全ク防腐剤ヲ用井スシテ能ク長期ノ貯藏ニ耐エルノ  
確法ヲ發見セス且本邦ノ地勢上其ノ氣候風土原料水  
質ヲ異ニスルコト多キカ爲現在東京ニ於ケル唯一國立  
醸造試驗所ノミヲ以テシテハ到底滿足スヘカラサルハ全  
國醸造業者多年ノ輿論ナリ依テ政府ハ速ニ相當ノ調查  
ヲ遂ク更ニ九州ノ地ニ一箇所ノ國立醸造試驗所ヲ增

設シ以テ大ニ本邦醸造業ノ進歩ヲ圖リ人生嗜好品上  
ニ於ケル衛生保健ノ改善ニ努メラレムコトヲ望ム  
右建議ス

〔吉良元夫君登壇〕

〔柏谷議長議長席ヲ退キ松田副議長代り著席〕

○吉良元夫君只今上程セラレマシタ此牧野法制定ニ  
關スル建議案ハ、昨年ノ議會ニ於テモ諸君ノ御贊成ヲ經マ  
シテ、一應委員會ニ付託ニナリマシタケレドモガ、期日ガゴザ  
イマセヌ爲ニ、遂ニ審議未了ニ了ダ案アリマス、此案ハ名  
前ガ奇妙ナ爲ニ、不急無要ナ事ノヤウニ論ズル人モアルヤ  
デアリマスケレドモガ、是ハ不急不要アリマセヌ、既ニ本日  
ノ本會議ニ於キマシテモ、競馬法ノ如キハ可決ニ相成リマ  
シタ、私ハ此畜産業ト云フモノガ盛ニナルト云フコトニ付テハ、  
極テ目下我國ノ有様ニ見テ、非常ニ重要ナル事デアルト信  
ジマス、就テハ競馬法ノ如キニ致シマシテモ、之ヲ獎勵スル譯  
デアリマスケレドモガ、是ハ不急不要アリマセヌ、既ニ本日  
シタ、私ハ此畜産業ト云フモノガ盛ニナルト云フコトニ付テハ、  
ジマス就テハ競馬法ノ如キニ致シマシテモ、之ヲ獎勵スル譯  
デアリマスケレドモガ、是ハ不急不要アリマセヌ、既ニ本日  
アリマスケレドモソレヲモ忍耐馬匹改良、馬匹充實ノ爲  
ニハ、斯ノ如キ案ヲ滿場殆ド異議ナク御決定ニナルト云フ  
時代ニナツテ居ルノデアリマス、然ルニ本邦畜産界ノ現況ト  
云フモノハ、他ノ産業ニ比シマシテハ、洵ニ微々トシテ振ハヌ  
ノデアリマス、其振ヒマセヌ原因ト云フモノハ、固ヨリ種々原  
因ガアリマスケレドモガ、此牧野二關スル法律ノ制定ガア  
リマセヌノデアリマス、我國ハ近時法典ニ於テハ、百般ノ制  
度淘ニ殆ド完備ノ域ニ近シテ居リマシテ、實ニ法典編纂  
其宜シキヲ得マシテ、實ニ法律ニ於テハ東洋ニ於テニミナラ  
ズ世界ノ何レノ方面ニ於テモ誇ルニ足ル法治國トナツテ  
居リマスルガ、今日マテ此牧野法制定ト云フコトヲヤリニ  
ナツテ居ラヌ、之ガ爲ニ近年牧野ニ關スル所ノ地域ガ甚ダ縮  
小致シテ居リマス、又牧野ヲ生ズル所ノ地力ガ甚ダ荒廢ニ  
屬シテ居リマス、是等ノ原因カラシテ畜産業ガ洵ニ萎微不  
振ノ状態ニ陥ニア居ルノデアリマス、本邦現在ノ家畜數ハ大  
體半ガ百三十万頭デ、馬カ百五十万頭合セテ三百萬頭ニ  
出デヌノデアリマス、サウシテ羊ト牛豚トカト云フモノハ洵ニ  
少イモノデアリマス、ソレデアリマスカラシテ、近來朝鮮及山  
東地方ヨリ移入シマスル所ノ此牛馬ト云フモノハ、約十數  
萬頭ニ達シテ居リマス、又羊毛及其他ノ製品ノ輸入ト云フ  
モノハ、年々數千万圓ニ及シテ居ルノデアリマス、ソレデアリ  
マスカラシテ、我國ハ御承知ノ如ク地域ガ狹小デザイマ  
所ノ面積ト云フモノガアルノデアリマス、其證據ニハ本邦ア  
リマシテ、サウシテ現ニ中ノ畜産業ト云フモノが進んで居リマ  
シテ盛ニナツテ居リマス、サウシテ又此畜産業ナルモノハ洵ニ

結構ナ事アリマシテ「花ハ千咲ク生ル實ハーツト云フ」謳  
ガゴザイマスガ、人間其他ノ動物ハサウ云フ譯ニハ參リマセ  
云フ原因ヲ知ルニ私ハ苦ムノデアリマス、凡ソ國土經營ノ上  
ニ付テハ諸種ノ事ガアリマスルガ、森林業ニ致シテモ、農業  
ニ致シテモ、非常ニソレト方法ヲ設ケテ獎勵ヲ致サレ  
テ居リマス、又近來ハ食物充實ノ爲ニ、御承知ノ如ク開墾  
デアリマスケレドモガ、是ハ不急不要アリマセヌ、既ニ本日  
アリマスケレドモソレヲモ忍耐馬匹改良、馬匹充實ノ爲  
ニハ、斯ノ如キ案ヲ滿場殆ド異議ナク御決定ニナルト云フ  
時代ニナツテ居ルノデアリマス、然ルニ本邦畜産界ノ現況ト  
云フモノハ、他ノ産業ニ比シマシテハ、洵ニ微々トシテ振ハヌ  
ノデアリマス、其振ヒマセヌ原因ト云フモノハ、固ヨリ種々原  
因ガアリマスケレドモガ、此牧野二關スル法律ノ制定ガア  
リマセヌノデアリマス、我國ハ近時法典ニ於テハ、百般ノ制  
度淘ニ殆ド完備ノ域ニ近シテ居リマシテ、實ニ法典編纂  
其宜シキヲ得マシテ、實ニ法律ニ於テハ東洋ニ於テニミナラ  
ズ世界ノ何レノ方面ニ於テモ誇ルニ足ル法治國トナツテ  
居リマスルガ、今日マテ此牧野法制定ト云フコトヲヤリニ  
ナツテ居ラヌ、之ガ爲ニ近年牧野ニ關スル所ノ地域ガ甚ダ縮  
小致シテ居リマス、又牧野ヲ生ズル所ノ地力ガ甚ダ荒廢ニ  
屬シテ居リマス、是等ノ原因カラシテ畜産業ガ洵ニ萎微不  
振ノ状態ニ陥ニア居ルノデアリマス、本邦現在ノ家畜數ハ大  
體半ガ百三十万頭デ、馬カ百五十万頭合セテ三百萬頭ニ  
出デヌノデアリマス、サウシテ羊ト牛豚トカト云フモノハ洵ニ  
少イモノデアリマス、ソレデアリマスカラシテ、近來朝鮮及山  
東地方ヨリ移入シマスル所ノ此牛馬ト云フモノハ、約十數  
萬頭ニ達シテ居リマス、又羊毛及其他ノ製品ノ輸入ト云フ  
モノハ、年々數千万圓ニ及シテ居ルノデアリマス、ソレデアリ  
マスカラシテ、我國ハ御承知ノ如ク地域ガ狹小デザイマ  
所ノ面積ト云フモノガアルノデアリマス、其證據ニハ本邦ア  
リマシテ、サウシテ現ニ中ノ畜産業ト云フモノが進んで居リマ  
シテ盛ニナツテ居リマス、サウシテ又此畜産業ナルモノハ洵ニ

ノ效果ヲ舉ダ得ルコトヘ信ズルノデアリマスカラシテ、諸君ノ  
御贊成ヲ願ヒタイ（拍手）尚ホロ今併セテ上程サレマシタ問  
題ハ第二國立醸造試驗所新設ニ關スル建議案アリマ  
ス、是亦多數ノ御方ハ海ニ御退屈ニアリマセウケレドモ、六  
七年間御清聰ヲ願ヒマス我國ノ醸造業ハ御承知ノ如ク、接  
ナツテ居ルノデアラウカ、或ハ閑却サレテ居ルノデアラウカト  
云フ原因ヲ知ルニ私ハ苦ムノデアリマス、凡ソ國土經營ノ上  
ニ付テハ諸種ノ事ガアリマスルガ、森林業ニ致シテモ、農業  
ニ致シテモ、非常ニソレト方法ヲ設ケテ獎勵ヲ致サレ  
テ居リマス、又近來ハ食物充實ノ爲ニ、御承知ノ如ク開墾  
デアリマスケレドモガ、是ハ不急不要アリマセヌ、既ニ本日  
アリマスケレドモソレヲモ忍耐馬匹改良、馬匹充實ノ爲  
ニハ、斯ノ如キ案ヲ滿場殆ド異議ナク御決定ニナルト云フ  
時代ニナツテ居ルノデアリマス、然ルニ本邦畜産界ノ現況ト  
云フモノハ、他ノ産業ニ比シマシテハ、洵ニ微々トシテ振ハヌ  
ノデアリマス、其振ヒマセヌ原因ト云フモノハ、固ヨリ種々原  
因ガアリマスケレドモガ、此牧野二關スル法律ノ制定ガア  
リマセヌノデアリマス、我國ハ近時法典ニ於テハ、百般ノ制  
度淘ニ殆ド完備ノ域ニ近シテ居リマシテ、實ニ法典編纂  
其宜シキヲ得マシテ、實ニ法律ニ於テハ東洋ニ於テニミナラ  
ズ世界ノ何レノ方面ニ於テモ誇ルニ足ル法治國トナツテ  
居リマスルガ、今日マテ此牧野法制定ト云フコトヲヤリニ  
ナツテ居ラヌ、之ガ爲ニ近年牧野ニ關スル所ノ地域ガ甚ダ縮  
小致シテ居リマス、又牧野ヲ生ズル所ノ地力ガ甚ダ荒廢ニ  
屬シテ居リマス、是等ノ原因カラシテ畜産業ガ洵ニ萎微不  
振ノ状態ニ陥ニア居ルノデアリマス、本邦現在ノ家畜數ハ大  
體半ガ百三十万頭デ、馬カ百五十万頭合セテ三百萬頭ニ  
出デヌノデアリマス、サウシテ羊ト牛豚トカト云フモノハ洵ニ  
少イモノデアリマス、ソレデアリマスカラシテ、近來朝鮮及山  
東地方ヨリ移入シマスル所ノ此牛馬ト云フモノハ、約十數  
萬頭ニ達シテ居リマス、又羊毛及其他ノ製品ノ輸入ト云フ  
モノハ、年々數千万圓ニ及シテ居ルノデアリマス、ソレデアリ  
マスカラシテ、我國ハ御承知ノ如ク地域ガ狹小デザイマ  
所ノ面積ト云フモノガアルノデアリマス、其證據ニハ本邦ア  
リマシテ、サウシテ現ニ中ノ畜産業ト云フモノが進んで居リマ  
シテ盛ニナツテ居リマス、サウシテ又此畜産業ナルモノハ洵ニ

ノ效果ヲ舉ダ得ルコトヘ信ズルノデアリマスカラシテ、諸君ノ  
御贊成ヲ願ヒタイ（拍手）尚ホロ今併セテ上程サレマシタ問  
題ハ第二國立醸造試驗所新設ニ關スル建議案アリマ  
ス、是亦多數ノ御方ハ海ニ御退屈ニアリマセウケレドモ、六  
七年間御清聰ヲ願ヒマス我國ノ醸造業ハ御承知ノ如ク、接  
ナツテ居ルノデアラウカ、或ハ閑却サレテ居ルノデアラウカト  
云フ原因ヲ知ルニ私ハ苦ムノデアリマス、凡ソ國土經營ノ上  
ニ付テハ諸種ノ事ガアリマスルガ、森林業ニ致シテモ、農業  
ニ致シテモ、非常ニソレト方法ヲ設ケテ獎勵ヲ致サレ  
テ居リマス、又近來ハ食物充實ノ爲ニ、御承知ノ如ク開墾  
デアリマスケレドモガ、是ハ不急不要アリマセヌ、既ニ本日  
アリマスケレドモソレヲモ忍耐馬匹改良、馬匹充實ノ爲  
ニハ、斯ノ如キ案ヲ滿場殆ド異議ナク御決定ニナルト云フ  
時代ニナツテ居ルノデアリマス、然ルニ本邦畜産界ノ現況ト  
云フモノハ、他ノ産業ニ比シマシテハ、洵ニ微々トシテ振ハヌ  
ノデアリマス、其振ヒマセヌ原因ト云フモノハ、固ヨリ種々原  
因ガアリマスケレドモガ、此牧野二關スル法律ノ制定ガア  
リマセヌノデアリマス、我國ハ近時法典ニ於テハ、百般ノ制  
度淘ニ殆ド完備ノ域ニ近シテ居リマシテ、實ニ法典編纂  
其宜シキヲ得マシテ、實ニ法律ニ於テハ東洋ニ於テニミナラ  
ズ世界ノ何レノ方面ニ於テモ誇ルニ足ル法治國トナツテ  
居リマスルガ、今日マテ此牧野法制定ト云フコトヲヤリニ  
ナツテ居ラヌ、之ガ爲ニ近年牧野ニ關スル所ノ地域ガ甚ダ縮  
小致シテ居リマス、又牧野ヲ生ズル所ノ地力ガ甚ダ荒廢ニ  
屬シテ居リマス、是等ノ原因カラシテ畜産業ガ洵ニ萎微不  
振ノ状態ニ陥ニア居ルノデアリマス、本邦現在ノ家畜數ハ大  
體半ガ百三十万頭デ、馬カ百五十万頭合セテ三百萬頭ニ  
出デヌノデアリマス、サウシテ羊ト牛豚トカト云フモノハ洵ニ  
少イモノデアリマス、ソレデアリマスカラシテ、近來朝鮮及山  
東地方ヨリ移入シマスル所ノ此牛馬ト云フモノハ、約十數  
萬頭ニ達シテ居リマス、又羊毛及其他ノ製品ノ輸入ト云フ  
モノハ、年々數千万圓ニ及シテ居ルノデアリマス、ソレデアリ  
マスカラシテ、我國ハ御承知ノ如ク地域ガ狹小デザイマ  
所ノ面積ト云フモノガアルノデアリマス、其證據ニハ本邦ア  
リマシテ、サウシテ現ニ中ノ畜産業ト云フモノが進んで居リマ  
シテ盛ニナツテ居リマス、サウシテ又此畜産業ナルモノハ洵ニ

テ居ルノアリマス、所が此酒ナルモノハ、衛承知ノ如ク大變ニ氣候、水質、原料、其他ノ事ニ付テ、唯、瀧野川ノミノ研究ヲ以テ足レヒト致シマセバ、農事試験場モサウデアリマス、關東ノ農事試験ト九州ノ農事試験ト、全ク農事試験ニ於テ、種々ナル結果ヲ達フ試験ノ成績ヲ得テ居ルノアリマシテドウシテモ此上ハ九州等ニ於テモ、第一ノ醸造試験ヲ御起シ下スルテ此絶對的防腐劑無クシテ清酒ヲ貯藏シ得ルト云フヤウナ研究ヲ、近キ將來ニ於テ實驗スルト云フコトガ極メテ國民衛生上ニ於テモ非常ニ必要ナシデアル、又九州方面ニ於テハ酒清ノ強ニ飲料ガ非常ニ流行ルノアリマス、即チ宮崎、鹿兒島、熊本ノ如ハ、燒酎ト云フモノ也非常ニリマシテ、殆ド舶来品ノ中以下、「ウヰスキー」ヨリ餘程上等ナモノガ出來テ居ルノアアル、此清酒ヲ段々段々趣向ヲ變ヘマシテ、此近來ノ進歩セル焼酎ニ依リマシタナラバ、或ハ絕對的防腐劑ヲ加ヘズシテ保存ヲスル方法モ「是ハ確ニ出来ルノアリマス、燒酎ノ如キハ五十年百年經テモ敗壞スルモノデハアリマセス、酸造酒ニ於テハ不幸ニシテ未ダ其防腐劑無クシテ、必ズ多年ノ貯蔵ニ堪ヘ得ルト云フ研究ガ無イノアリマス、ソレテ國庫ニ於テモ僅カナル費用デアル、ソレガ爲ニ税額ノ上ルコトハ二億圓ニ達シテ居ルト云フヤウナ業務デアル、其業務ノ保護スルノデハナイ、六千八百万人ノ酒ヲアガル御方ニ付テハ極メテ有效ナル經過ヲ齋ラスベキ、斯ノ如キ事ヲ今日迄オヤリニナシテ居ラヌト云フコトハ、甚ダ私

ハ當局者ニ向テ遺憾トスル所デアル、是ハ全國酒造家大會ニ於テモ多年ノ懸案デアリマシテ屢、當局ニハ此事ヲ以テ迫テ居ルノデス——迫テ居リマスクレドモガ、酒造業者ハ僅ニ一万一千人シカ無イ、サウシテ比較的生活ノ安定ヲ得タヤウナ人方ニアニテ、強制的欲求反抗的欲求——何所迄モ當局者ニヤカマシク言ハヌ、ドナラカト云ヘバ羊ノ如ク、ノ如ク柔順ナ方デアルカラシテ、今日迄當局者モ之ヲ至ニテバクト構ヘテ居ラレル、眞面目ニナフテ居ラレヌト云コトバ、甚ダ私ハ遺憾デアル、是ハ國家ノ損失ニヨリムコトデナシ、又經費ヲ大ニ要スルコトデモナイニアミスカラ、是ハ追加豫算ヲ以テモ、是非速ニヨヤリニナルコトヲ希望スルノデアリマス、諸君ノ御賛成アランコトヲ希望シマス(拍手)。

○鈴木藏君 日程第十七ハ、安達謙藏君外四名提出、農村振興ニ關スル建議案外六件ノ委員ニ付託シ、日程第十八ハ、高田紳平君提出、煙草專賣法中改正法律案ノ委員ニ付託セラレントコトヲ希望シマス

○副議長(松田源治君) 御異議ナシト呼フ者アリ

セヌカ

(「賛成」「賛成」ト呼フ者アリ)

○副議長(松田源治君) 鈴木君ノ動議ニ御異議ハアリマス議ノ如ク決シマス——日程第十九、北海道本州連絡完成ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス——提出者阿部武智雄

第十九

北海道本州連絡完成ニ關スル建議案(阿部武智雄君外八名提出)

○阿部武智雄君　北海道ト本州トノ連絡ヲ今一層完全ニスル方法ヲ講シテ貰フコトヲ建議致スノデアリマスカ、北海道ト本州ノ連絡ハ、御承知ノ如ク青森カラ函館ニ渡ツ居ルノガ幹線デアリマス、北海道モ年々開ケテ來マスラカ、面積ノ廣イ場所所デ、而モ年々著シク發達シテ來テ居リマスカフ、青森ト函館トノ連絡ガ年々追ヒ日ニ増シ類繁ニナフテ來テ居ルノデアリマス、然ニモ拘ラズ一方函館ノ方ハ、連絡船ガ横付ケ

ニナシテ居ルハアリマス故ニ吾々ハ先年來唱ヘル所ノモノ  
ハ、青森灣ノ西ノ方面カラシテ北海道ニ渡ル方法ヲ講ジテ  
貰ヒタク、即チ陸奥灣ノ西ノ方面ヲ渡テ行クノデアリマス、  
是ハ政府ノ鐵道網ニモ鐵道線路ガ明ニ調ベアリマスルガ、  
其線路ヲ通りマシテ即チ外ヶ濱ト稱スル陸奥灣ノ西海岸  
ヲ通りマシテ、青森ヨリ四十哩程デ三厩ト云フ所ガアリマ  
ス、此三厩ト云フ所カラ北海道ニ渡ル方法ヲ講ジタインデ  
アリマス、此三厩ト云フ所ハ諸君モ御承知ノ如ク、彼ノ源義  
經公ノ北海道ニ渡ラタ時ニ、馬ヲ三頭置イタ爲三三厩ト稱  
タノデアルト云フ名所ノ土地アルノデ、今尙ホ此三厩ニハ  
辯慶ノ背負ダ笠トカ、義經ノ持テ居タ觀音様ナドガ遺  
テ居ル土地デアリマシテ、諸君モ古イ事デハアリマスルガ、能  
ク青森北海道ニ流行テ居ル追分ト云フ唄ガアリマスカ、追

追分唄、上云「フモノガ起テ居ルノアリマシテ、三廐ノ港カラ  
「ヤマセ」ト云フ東風ニ依テ北海道ニ渡タノデ、松前藩ノ總  
チノ藩公ガ三廐カラ松前ニ渡タノデアリマス、シカ爲三アノ地  
方デハ「ヤマセ吹カセテ松前渡ル」ト云フ唄ガアリマスガ、此  
「ヤマセ」ノ風デ北海道ニ渡タノデアリマスガ、此三廐ト云フ  
所カラ北海道ニ渡ルトスルト、海デ渡ル時間ヲ陸デ走テ行  
クノデアルカラ、即チ四十哩陸ヲ走ルノデアルカラ、其殘リヲ

海ア函館小樽ニ渡テ行クノアリマスカラ、ズット里數ハ近アリマス、一方此線路カラ渡リタク、イマ一ツハ此三厩ヨリ更ニ十哩越エテ北海ノ方面ニ行キマスルト小泊ト云フ所ガアリマス、小泊カラ北海道ノ福山ニ渡テ行ク、之モ沟ニ便利ナ所ニナルノア、小泊ト云フ所ハ天然ノ良港ナノアリマシテ、權現岬ト云フ大キナ岬ヲ以テ西ノ風ヲ防ギマス、ソレカラ龍飛岬ト云フ大キナ遠脈ヲ以テ東ノ風ヲ防ギマスノデ、殆ド天然ノ良港デアリマス、一朝鐵道サヘ通ズルト、非常ニ良イ天然ノ港ガ出來テ居ルノアリマス、之ニ昨年郡デ金ヲ出し、縣デ補助ヲ出シマシテ、極ク小規模デアリマスケレドモ、港ヲ造ルコトニナシテ居リマス、此小泊カラ北海道ノ福山、小樽、函館等ニ渡ルコト、ニシマスルト一層是ガ近クナルノアリマス、尙ホ此小泊ト云フ所ニ立テ、北海道ヲ天氣ノ好イ日ニ見マスルト北海道ハ殆ド自暉ノ間ニ見マス能ク小泊ノ若ハ言ヒマスガ、好天氣ノ日ハ北海道ノ竿掛ガ見ユルト言ヒマスガ、竿掛ガ見ユルト云フノハ、洗濯シタ衣ヲ干シタノガ見工ルト云フノアリマス、ソンナニ近イアリマス而モ諸君が勢ノ好イ處アリマスカラ、其處カラ北海道ニ渡ルヤウニシタイト思ヒマス、北海道ヘ渡リマスト、又渡島國ノ西ノ方面コ開拓スルツノ方法ニナルノデ、北海道ノ福山カラ上磯鐵道ニ連絡シテ、本古内へ鐵道ヲ通シタノアリマスガ、此木古内ト、上磯鐵道ガ連絡シナイト、效ヲ爲シ得ナ事ニナリマスカラ、ドウカ御清聽ブ願ヒマス今一方ハ北海道ノ方ヲ作ル共ニ、尙ホ青森ノ方モ作ブテ連絡スルヤウニスルト全ナル連絡ガ取ルコトニナルノアリマス、尙ホ又モウ一ツ申上ダマスガ(「簡単」下呼フ者アリ)長モノ、一方北海道ノ方ガ斯ノ如ク手續ガ付イテモ、青森縣ノ一方ガ鐵道ガ連絡シナイト、效ヲ爲シ得ナ事ニナリマスカラ、此居リマスカラ、是ガ早ク實現セラマスコトニナリマスケレドモ、一方北海道ノ方ガ斯ノ如ク手續ガ付イテモ、青森縣ノ一方ガ鐵道ガ連絡シナイト、效ヲ爲シ得ナ事ニナリマスカラ、此一方ハ北海道ノ方ヲ作ル共ニ、尙ホ青森ノ方モ作ブテ連絡スルヤウニスルト全ナル連絡ガ取ルコトニナルノアリマス、尙ホ又モウ一ツ申上ダマスガ(「簡単」下呼フ者アリ)長モノ、一方北海道連絡許リナク、例ノ無盡藏ト稱スル何億ト云フ砂鐵ノアル演ヲ通テ行クノアリマス、又一方ハ太平洋ノ

海產物ノ澤山アル場所デ、輸出品ニナシテ居ル大キナ魚類ダ、此所カラ澤山獲レル場所デアリマスガ、此二十八哩行、テ、大間ト云フ所ヘ出テ行クノアリマス、大間カラ北海道ニ渡ルニハ極ク近イ里數デ、即チ函館ニ至ルノニ二十二海里デアル、室蘭ニハ六十三海里、北海道ノ釜石ニ至ルニハ十二海里デアル、十二海里デアルカラ一時間アルト確ニ渡レルノアリマス、ソレデアルカラ一日ノ中ニ幾回ノ往復モ出来ルノテ從來トモ北海道カラ内地ニ牛馬ヲ渡ストキニ、主ニ此所ヲ渡テ來テ居ルノアリマス、サウシテ丁度此北海道ノ方ニ渡リマスニ、北海道ハ即チ釜石カラ函館ニ行クノアリマス、函館ニ連絡シテ北海道ノ連絡ガ付クノアリマス、ソレニ四國ト中國トノ連絡ノ意味トシテ頂キタイノアリマス、丁度岡山ノ宇野カラ四國ノ高松ニ渡ルト云フ極ク簡便ニ小サイ船デスケレドモ、簡便ニ渡テ居ル、アア云フ意味ニ見テ此大間釜石、小泊、福山或ハ蟹田、福山ト云フ方面ニ渡テ行キタイノアリマス、丁度大阪ノ川口カラ小松島ニ渡ルニ、即チ本州ト四國トノ連絡ノ大路デアリマスカラ、青森ト函館トハ即チ大路ニシタノア、此小泊乃至大間ハ補助航路トシテ簡便ニ渡ルト云フ方法ニシタノアリマス、(「簡単」下呼フ者アリ)今一ツ終リニ瞧ニ諸君ニ御清聽ヲ願ヒ七夕ノアリマス、北海道ト本州トノ間ヲ隧道デ以テ通スコトガ出來マイカト云フコトヲ考ヘテ頂キタイ、即チ海底隧道デ行クコトガ出來ナイナラバ、何カシラノ方法ヲ以テ橋ヲ架ケルナリ何カノ方法ヲ以テ、内地ト連絡ノ方法ヲ執ル私共ノ死ニマシタラ五十年百年後ニハ必ず實現サル、モノト深ク信ジテ居ルノアリマス、(拍手)私ハ隧道博士ト稱セラレ、田邊三郎先生ノ「トンネル」ト云フ本ヲ見マシテ、此間ニ何カシラン適當ノ方法ヲ以テ連絡スル途ハアルマイカト思ヒマシテ、田邊博士ニ御尋ね申シテ見マシタ、書面ヲ出シテ田邊博士カラノ返事デヘ北海道ト本州トノ間ハ海底ノ土ガ餘り軟カデ、即チ土ガ惡クテ隧道ハ或ハ西倒グラクツ云フ返事ヲ得マシテ、尙ホ京都大學ヘ行キマシテ自身ニ田邊博士ヒシテ、御意見ヲ質シテ見タノアリマス、サウ致シマシタラ博士、申シマスニハ、南佐久郡内山平賀ヲ經テ佐久鐵道中込驛ニ至ル間ノ鐵道ヲ建設スヘシ

## 右建議ス

(「佐藤寅太郎君登壇」)

○佐藤寅太郎君 極ク簡単ニ越旨辯明ヲ致シマス、此建議案ハ群馬縣ノ勢力中心タル高崎ヲ起點トシテ、下仁田ヲ經由シ、長野縣ノ佐久平ノ中央ニ於テ佐久鐵道ニ連絡ヲ圖ルモノアリマス、其中高崎下仁田間ハ既ニ出來テ居リマスカラシテ、下仁田ヨリ佐久郡中込ニ至ルマデ、約十六七哩ノ鐵道敷設ヲ政府ニ要望スルノアリマス、此地方ハ極メテ物資ノ豊富ナル土地ヲアリマスカラシテ、此鐵道ノ出來テマシタ上ハ、產業ノ發達上ニ、又鐵道ハ頗ル有利ナルトスレバ、其水ノ深サト隧道ノ道トノ間ニ、即チ隧道トノ間ハ三倍以上ノ深サト保タナレバ、通スコトガ出來ヌモノニアリマス其大湊ト云フ處ヘ昨年私カラ大湊開港建議ト云ハレ、斯ウ云フノアリマシテ、今度隧道ヲ通スルト、更ニ五百尋カラ七十五尋ト云フ深サアアル、尙ホ隧道ヲ造ルトスレバ、其水ノ深サト隧道ノ道トノ間ニ、即チ隧道トノ間ハ三倍以上ノ深サト保タナレバ、通スコトガ出來ヌモノニアリマス、サウシマシタラバ、此北海道ト本州トノ間ノ海、又北海道連絡許リナク、例ノ無盡藏ト稱スル何億ト云フ砂鐵ノアル演ヲ通テ行クノアリマス、又一方ハ太平洋ノ間ニ至ルノアリマス、其間ハ二十八哩アリマス此鐵道八單行カヌト云フコトデアルカラ、殆ド隧道トシテハ不可能アリマス、尙ホ又モウ一ツ申上ダマスガ(「簡単」下呼フ者アリ)長モノ、一方北海道連絡許リナク、例ノ無盡藏ト稱スル何億ト云フウトハ考ヘテ來マシタ、併ナガラ此田邊博士ノ申シマスルニス、愈、碓氷ガ出來マシテモ只今ノ通り交通不便アリマス

カラシテ、自然今回建議ヲ致シマシタ所ノ道ヲ取ルト云フ  
コトガ、自然ノ必要ニナシテ參ツタ、次第デアリマスル、是ガ爲

ニ碓氷線ノ緩和ヲ圖シテ、上信越ノ交通ヲ便利ニシ、又一方ニ於テ本年其新線計劃ニ上リマシタ所ノ小梅小淵澤ノ鐵

道が出来マスレバ、此鐵道ハ佐久鐵道ニ依テソレト連絡ス  
ルノデアリマスカラシテ、甲斐ノ國、信濃ノ南部、即チ上信

甲ヲ連ネテソレガ遠ク奥羽又西國ニ向テノ極メテ便和ナル近道ニナルトニ云コトハ明カデアリマスル、何卒御審議ノ

上、通過スルコトヲ希望致シマス(握手)○鈴木錠藏君、本案ハ中野寅吉君外三名提出柳津小糸行丁目案(宣月レ建義案)ト七件ノ委

出閣及只見古田間鐵道延長ニ關する支那外債ノ事  
員ニ併セテ公託セラレンコトハニマス  
（注）公台古田ヨリ  
（注）本旨ノ勅議ニ異議アリマセヌ

カ(國語)長(木口浪江君) 錐刀君(中川君) トハラ君(大庭君)  
「異議ナシ下乎フ者アリ」

○副議長(松田源治君) 異議ナシト認メマス、依テ動議ノ如ク決シマス。日程二十一、筑波山國立公園設置ニ關ス。

ル建議案ヲ議題ト致シマス、提出者鈴木錠藏君

第二十一 筑波山國立公園設置ニ關スル  
建議案(鈴木鉉藏君提出)

筑波山國立公園設置ニ關スル建議案  
筑波山國立公園設置ニ關スル建議案

筑波山ヲ中心トスル國立公園ヲ速ニ設置セラレムコトヲ  
望ム

右建議ノ  
〔鈴木綻藏君登壇〕

○鈴木錠藏君 我ガ筑波山ハ、御承知ノ通り關東ノ平野ニ  
ニ聳ユル名山デアリマシテ、古來西ニ富士ヶ嶽東ニ  
筑波ト

稱セラレテ、我國山嶽ノ二大代表者アルトコトハ、今更申上ゲルマデモアリマセヌ、山嶽ノ山容ノ秀麗ナルコト、風

光ノ明媚ナルコト、是亦私が申上ゲルマデモナイト思ヒマス  
殊ニ近年交通機關ノ發達ニ伴ヒマシテ、登山客ハ非常ニ増

加致シマシテ、今日現ニ天下ノ大樂園ト申シテモ宜カラ立  
ト思フノデアリマス、近頃幾多ノ公園設置案ガ出マスルケ

ドモ、多クハ經費問題、經濟問題ニ於テ如何ト存ジマスか  
此筑波山ハ東京カラ一日程ニ致シマシテ往復スルコトガ出

來マヌ遊園地トシテハ頗ル適當ナ所ト有ジマヌ 頃チ天然ニ御クルニ僅カノ人工ヲ加ヘマシタナラバ、是レコソ本當ノ

理想的ノ國立公園ト有ジマスカラ、何卒諸君ノ満場一致御賛成ヲ請ヒマス

○赤屋茂君 本案八日對辰次君外二名提出霧島山頭立公園設置二闕スル建議案外五件ノ委員ニ併セ付託セラ

○副議長(松田源治君) 永屋君ノ動議ニ異議アリマセヌ

○副議長（松田源治君）「異議ナシ」と呼フ者アリ  
異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ

○如ク決シマス、一、日程第二十二、行政裁判制度改革ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、提出者清瀬一郎君  
○清瀬一郎君、先キニ内務大臣及司法大臣ノ出席ヲ求メテ置キマシタカ  
○副議長(松田源治君)、出席ハ要求シテアリマス、復タ要求シマスカラ、登壇ノ上説明ヲ願ヒマス  
○清瀬一郎君、後廻シテ願ヘマセヌカ  
○副議長(松田源治君)、後廻シニ異議アリマセヌカ  
〔異議ナシ下呼フ者アリ〕  
○副議長(松田源治君)、ソレデハ後廻シニ致シマス、一  
日程第二十三乃至二十五ハ便宜上一括議題ト爲スニ異議アリマセヌカ  
〔異議ナシ下呼フ者アリ〕  
○副議長(松田源治君)、異議ナシト認メマス、仍テ一括シテ議案ト爲シマス、日程第二十三、重信川改修ニ關スル建議案、日程第二十四、伊豫三津律濱町ニ停車場設置ニ關スル建議案、日程第二十五、愛媛縣三津濱港修築ニ關スル建議案ヲ議題トナシ提出者ノ説明ヲ求メマス成田榮信君  
右建議ス

**第二十三 重信川改修ニ關スル建議案**  
(成田榮信君外四名提出)

重信川改修ニ關スル建議案  
重信川改修ニ關スル建議案  
政府ハ速ニ愛媛縣下重信川改修ノ計ヲ立テラレムコトヲ望ム  
右建議ス

**第二十四 伊豫三津濱町ニ停車場設置ニ關スル建議案(成田榮信君外九名提出)**

伊豫三津濱町ニ停車場設置ニ關スル建議案  
伊豫三津濱町ニ停車場設置ニ關スル建議案  
一四國線西條松山間ニ於テ愛媛縣下三津濱港ヲ交通圈内ニ編入マル爲豫定線ノ一部ニ變更ヲ加ブルコト  
一三津濱停車場ヲ設置スルコト  
右ハ三津濱町ノ經濟關係及地方交通ノ利便ナルニ於テ其ノ必要ヲ認ムルノミナラス四國縱斷線完成ノ曉ニハ地方旅客及物資ノ運輸ハ勿論軍事上海陸ノ連絡上極メテ緊切ナリト信ス政府ハ宜シク其ノ實狀ヲ調査シ相當ノ施設ヲ講セラレムコトヲ望ム  
右建議ス

**第二十五 愛媛縣三津濱港修築ニ關スル建議案(成田榮信君外十名提出)**  
(出)

愛媛縣三津濱港修築ニ關スル建議案  
愛媛縣三津濱港修築ニ關スル建議案

程第二十三乃至第二十五ノ件 六二四  
愛媛縣三津濱港ハ松山市ヲ背後ニ有シ縣ノ中郡ニ於ケ  
ル重要港ニシテ中國九州及四國中央部ノ聯絡港トシテ  
將來其ノ地位益重キヲ加フヘキ運命ヲ有シ現在ニ於テ  
モ隣接港タル高濱町ヲ加へ人口約二萬ニ達セムトスル  
商業地ナルニ拘ラス港灣ノ設備猶甚タ不完全ニシテ貨  
客出入ノ不便少カラズ故ニ政府ハ速ニ同港ヲ重要港中  
ニ指定シ且國費修築ノ案ヲ立テラムコトヲ望ム  
右建議ス  
○成田榮信君 此席ヨリ説明ヲ御許シヲ願ヒタウゴザイマ  
ス  
○副議長(松田源治君) 許可シマス  
○成田榮信君 愛媛縣重信川ハ愛媛縣ノ中央部ニ在リ  
マシテ、源ヲ溫泉郡北吉井村ニ發シテ、伊豫郡ノ松前海岸  
ニ連ニテ居リマス、此延長ハ三十五里餘アリマシテ、此支流  
ハ數百ヲ以テ算ヘルコトガ出來ルノデアリマス、此沿岸ノ關係  
町村ハ二十七箇村ニ涉リマシテ、此附近ニアリマス戸數  
ハ一万七千九百餘テアリマス、又人口ノ關係ニ於テモ五万  
有餘ヲ有シテ居ルノデアリマス所ガ重信川ハ頗ル土砂ガ堆  
積シマシテ、非常ニ川底ガ浅ク、水流ガ勢ヲ呈シテ居ラヌ  
ノデアリマス、一雨降ル毎ニ此水ガ汎濫ヲ致シマシテ、此附近  
ニ於キマス住民ハ、何時モ安定スルコトガ出來ヌト云フヤウ  
ナ有様デゴザイマス、過去五十箇年ノ統計ヲ以テ見マシテ  
モ、此水害ノ及ブ所ハ甚ダ廣クアリマシテ、三十万内外ノ何  
時モ損害ヲ受ケテ居ルノデアリマス、斯様ナ次第デゴザイマ  
シテ、到底地方費ヲ以テハ其支辨ニ堪ヘ切レスノデアリマス、  
何卒國家ガ之ヲ十分ニ調査ヲ致シテ、國庫補助ヲ以テ此  
治水工事ノ完成ヲ期シタイト云ラノガ本案提出ノ理由デゴザ  
伊豫ニ於テ最モ中央ノ重要ナ港デゴザイマス、中國及九州  
ノ連絡港トシマシテモ、最モ重キヲ爲ス所デゴザイマス、然ル  
ニモ拘ラズ、此鐵道豫定線ノ計畫ニ依リマスト、此町ニハ著  
カヌト云フコトノ計畫ニシテ居ルノデゴザイマス、此港ハ只  
今申シマスヤウナ調子デ、總テノ方面カラ見マシテモ、亦一  
朝事ノ有ル秋ニハ軍事上ノ關係カラ申シマシテモ、ドウシテ  
モ此處ニ鐵道ヲ敷設シテ停車場ヲ置クト云フコトが最モ  
必要ナコト、思フノデアリマス、是レ本案ヲ提出シタ次第デ  
アリマス、日程ノ二十五ノ三津濱港修築ニ關スル件デゴザ  
イマス、此事ハ只今申シマシタ如クニ三津濱ト云フ所ハ商  
業港ノミナラズ、避難港トシテ最モ重要な所デゴザイマスが、  
政府ハ重要港灣ノ中ニ今迄入レテ居ラス之ヲ重要港灣  
ニ入レマシテ、國庫ノ支辨ヲ以テ改修ヲセラレルト云フコト  
ヲ希望スルノガ本案提出ノ理由デゴザイマス、三案トモ何卒  
慎重審議ノ上御賛成アランコトヲ希望致シマス  
○鈴木錠藏君 日程第一十三ハ津崎尚武君外二名提出  
肝臓病修改速成ニ關スル建議案外一件ノ委員ニ併セ付  
託シ日程第二十四ハ矢野丑乙君外三名提出八幡濱中

村間鐵道速成二關スル建議案外二件ノ委員ニ併セ付託シ、日程第二十五ハ大島實太郎君外二名提出舞鶴軍港廢止ニ伴フ地方善後ニ關スル建議案外四件ノ委員ニ併セ付託セラレントヲ望ミマス

○副議長(松田源治君) 鈴木君ノ動議ニ異議アリマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ

ノ如ク決シマス、日程第二十六、熱海大仁間鐵道速成ニ

關スル建議案ヲ議題ト致シマス、提出者小泉策太郎君

第二十六 热海大仁間鐵道速成ニ關スル

建議案(小泉策太郎君外一名)

政府ハ靜岡縣熱海ヨリ大仁ニ至ル間ノ鐵道ヲ速成シ以テ運輸交通ノ發達ヲ促進セラレムコトヲ望ム

右建議ス

熱海大仁間鐵道速成ニ關スル建議案

鈴木錠藏君 本案ハ提案者ノ説明ヲ省略シ、議長指名ヲ以テ九名ノ委員ニ付託セラレントコトヲ望ム

○鈴木錠藏君 本案ハ提案者ノ説明ヲ省略シ、議長指名ヲ以テ九名ノ委員ニ付託セラレントコトヲ望ム

「大賛成」ト呼フ者アリ

○副議長(松田源治君) 鈴木君ノ動議ニハ異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス、日程第二十七、國立公園設定促進ニ關スル建議案ヲ議題トシ、提出者ノ説明ヲ求メマス、提出者平野光雄君

第二十七 國立公園設定促進ニ關スル建  
議案(平野光雄君提出)

國立公園設定促進ニ關スル建議案

國立公園設定促進ニ關スル建議案

政府ハ速ニ國立公園設置ノ計畫ヲ定メ且其ノ地域ノ内

外ニ瓦ル交通ヲ完備スル爲適當ノ措置ヲ執ラレムコトヲ望ム

右建議ス

○平野光雄君 嘗席カラ發言ノ御許シヲ願ヒマス

○副議長(松田源治君) 許可致シマス

○平野光雄君 此建議案ノ趣旨ハ、既ニ霧島山外五件

ノ委員會ニ於テ政府當局ト應答爲サレマシタ結果、略ボ

吾ニノ趣旨ハ盡サレテ居リマス、尙ホ建議ノ趣旨ハ既ニ皆

様ノ御手許ニ付託セラレテ居ル所ノ文書三依テ明カデアルト思フ、私

此趣旨辨明ヲ略シマス、委員會ニ於テ詳細ニ申述ベタイ

ト思ヒマス

○鈴木錠藏君 本案ハ日野辰次君外三名提出霧島山

國立公園設置ニ關スル建議案外六件ノ委員ニ併セ付託セラレントコトヲ望ム

○副議長(松田源治君) 鈴木君ノ動議ニ異議アリマセヌカ  
「異議ナシ」ト呼フ者アリ

ノ如ク決シマス、日程第二十八、鹿野山國立公園設置ニ關スル建議案ヲ議題トシ、提出者ノ説明ヲ求メマス、提出者鈴木隆君

第二十八 鹿野山國立公園設置ニ關スル  
建議案(鈴木隆君外二名提出)

鹿野山國立公園設置ニ關スル建議案

房總半島ハ所謂山紫水明ノ地ニシテ之ニ加フルニ名所舊蹟甚々豊富ナリ且東都ニ近クシテ水陸ノ便アリ而シテ九十九谷ノ風光絶佳ナルコト兒童走卒モ普ク知ルトコロナリ茲ニ一大國園ヲ建設シテ國家的ノ借樂園タラシムコトヲ望ム

右建議ス

○鈴木隆君 簡單デアリマスカラ

○副議長(松田源治君) 宜シウゴザイマス

○鈴木隆君 鹿野山ハ總房半島ノ西南部ニ在リマス、東南ハ三里乃至三里ニシテ、大平洋ニ遠ナテ居リマス、西ハ僅ニ二里乃至三里ニシテ、東京灣ニ臨ム位置ニ在ルノデアリマス、近キコトニ於テハ國園ノ提出中ニ於テ最モ近キ所ノ位置ヲ占メ居リマス、是ガ第一ノ理由アリマス、次ニハ此山ハ甚ダ高イト云フ譯デハアリマセヌ、唯、此山ノ勝地故ニ必ズシモ貴イト云フ譯デハアリマセヌ、山高キガトシテ一言申上ダナケレバナリマセヌコトハ、其勝地ノ部分ハ枚舉ニ遑アラズアリマスケドモ、九十九谷ノ絶景ニ至テハ到底筆紙ノ能クスル所ニアラズシテ、若シ山陽ヲシテ第一ニ此鹿野山九十九谷ヲ見セシメタナラバ、必ズ筆ヲ擱イテ日本一ト云フニ相違ナイト思ヒマス、其點ニ於テ資格十分アリマスガ、更ニ今一ツアリマス、此避暑客ノ各府縣別ニシテ最モ多イ所ハ千葉縣アリマス、即チ民衆的ノ山水ノ地デアルガ故ニ最モ避暑客及避寒客ノ多イ理由アリマスカラ、民衆的ノ適切ナル所謂時代ノ要求ニ應シタ國園トシテハ、其價値十二分ト稱サナケレバナラズ、殊ニ帝都ノ食膳ヲ朝夕賑ハシテ居リマス所ノ此副食物先刻鶴澤君ノ建議案ニ出馬シタ所ノ御話ガアリマシタが、若シ此鹿野山が國園ニナタナラバ、鶴澤君ノ水産業ノ如キハ、大ニ其餘慶ヲ受ケルコト、思フノデアリマス、而シテ此陸路僅ニ一千里、海路僅ニ十里デアリマシテ、帝都ヨリノ距離ハ是亦最モ近イノデアリマスルガ、更ニ近時風俗ノ甚ダ面白カラザル事柄ガ避暑地ニ行ハレチ居リマスルガ、其點ニ於テモ人情純朴デ、是亦最モ善イコトヲ諸君ニ申上ゲル、更ニ此鹿野山ヲ推奨スル所以ハ、二千年以前ニ於テ先づ日本尊ガ之ヲ推稱シテ居ル、次ニハ聖德太子ガ推稱シタコトガ一つ、此一大理也

由ニ依テ歴史的ノ價値十二分デアルノミナラズ、東ハ小湊

西ハ鋸山ト云フ勝地ガアツテ、既ニ大平洋ヲ東京灣トヲ連接スル所ノ雄大ナル國園ニナルノデアリマスカラ、此意味ニ於キマシテ御贊成アランコトヲ希望致シマス、次ニ此養老川…

○副議長(松田源治君) 議題ニナシ、居リマセヌ

○鈴木錠藏君 本案ハ日野辰次君外二名提出、霧島山國立公園設置ニ關スル建議案外七件ノ委員ニ併セ付託セラレントコトヲ望ム

○副議長(松田源治君) 「異議ナシ」ト呼フ者アリ

ノ如ク決シマス、日程第三十一、烏根縣ニ鐵道局設置ニ關スル建議案、日程第三十二出雲今市三次間鐵道速成ニ關スル建議案、日程第三十三、本次三次間鐵道速成ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、日程第三十、本件第三次間鐵道速成ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、日程第三十一、烏根縣ニ鐵道局設置ニ關スル建議案、日程第三十二出雲今市三次間鐵道速成ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、提出者ノ説明ヲ求メマス、提出者原夫次郎君

**第三十 木次三次間鐵道速成ニ關スル建議案**

(原夫次郎君外一名提出)

木次三次間鐵道速成ニ關スル建議案

木次三次間鐵道速成ニ關スル建議案

島根縣木次驛(私設鐵道終點)ヨリ廣島縣三次驛

(私設鐵道終點)ニ達スル木次三次間鐵道既ニ

鐵道敷設法別表中ニ編入セラレシ所ノ線路ニシテ古來

陰陽連絡ノ大幹線トシテ廣島松江間ヲ通スル唯一ノ道

路ヲ基準トシタルモノナリ從テ之カ速成ハ交通運輸上將

又産業上實ニ重要且急務ナルヲ認ム依テ速三該鐵道ヲ

敷設セラレムコトヲ望ム

右建議ス

**第三十一 島根縣ニ鐵道局設置ニ關スル建議案**

(原夫次郎君外二名提出)

島根縣ニ鐵道局設置ニ關スル建議案

關スル建議案ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

〔賛成〕下呼フ者アリ

島根縣木次驛(私設鐵道終點)ヨリ廣島縣三次驛

(私設鐵道終點)ニ達スル木次三次間鐵道既ニ

鐵道敷設法別表中ニ編入セラレシ所ノ線路ニシテ古來

陰陽連絡ノ大幹線トシテ廣島松江間ヲ通スル唯一ノ道

路ヲ基準トシタルモノナリ從テ之カ速成ハ交通運輸上將

又産業上實ニ重要且急務ナルヲ認ム依テ速三該鐵道ヲ

敷設セラレムコトヲ望ム

右建議ス

**第三十三 國稅徵收事務ニ對スル交付金増額ニ關スル建議案(長谷川宗治君)**

增額ニ關スル建議案(長谷川宗治君)

國稅徵收事務ニ對スル交付金増額ニ關スル建議案

成ハ單ニ四國四縣聯絡中心線ノトシテ必要ナルノミナラス近畿四國九州ノ聯絡上重大ナル意義ヲ有スルモノナルヲ以テ政府ニ於テ速ニ之カ敷設ノ計ヲ立テラレムコトヲ望ム

右建議ス

河上哲太君 本席ヨリ説明ヲ御許ヲ願ヒマス

○副議長(松田源治君) 宜シウゴザイマス

○副議長(松田源治君) 本案ハ數回引續キマシテ本議場ニ於テ満場一致ヲ以テ可決セレタ案ニアリマス、故ニ内容ノ説明ハ近時地方公共團體ニ於テハ教育土木勸業ヲ始メ地方費辨ノ新事業漸次增加シ現在ノ地方財源ヲ以テシテハ到底物價ノ暴騰ニ應シ時勢ノ進運ニ伴フ經費ヲ支辨スル甚其事態ナルノ状態ニ在リ依テ政府ハ速ニ現在ノ國稅徵收事務ニ對スル交付金ヲ増額シ以テ之ヲ救濟セラレムコトヲ望ム

右建議ス

長谷川宗治君 此席デ説明致シマス

○副議長(松田源治君) 許可致シマス

○長谷川宗治君 本建議案ハ國稅徵收法ノ第五條ヲ改正致シマシテ、交付金ノ増額ヲ希フ次第アリマス、此國稅徵收法ハ大正三年三月法律第十二號デ改正ニナシテ居リマス、其後十年ノ歲月ヲ經テ居リマス、其時ニ第五條ニ在リマス規定ハ、徵收金額ノ百分ノ三、ソレカラ徵收告知書一通ニ付二錢之ヲ増額シテ貰ヒタイト云ノガ趣旨アリマス、尙詳細ノコトハ委員會申上ダマス

成ヲ願ヒマス

〔賛成〕下呼フ者アリ

○鈴木錠藏君 本案ハ林田龜太郎君外二名提出、八幡濱

法中改正法律案外七件ノ委員ニ併セ付託セラレムコトヲ

望ミマス

〔賛成〕下呼フ者アリ

○鈴木錠藏君 本案ハ野乙君外三名提出、八幡濱

中村間鐵道速成ニ關スル建議案外四件ノ委員ニ併セ付

託セラレムコトヲ望ム

〔賛成〕下呼フ者アリ

○鈴木錠藏君 本案ハ野乙君外三名提出、八幡濱

中村間鐵道速成ニ關スル建議案外四件ノ委員ニ併セ付

託セラレムコトヲ望ム

〔異議ナシ〕下呼フ者アリ

○鈴木錠藏君 本案ハ野乙君外三名提出、八幡濱

中村間鐵道速成ニ關スル建議案外四件ノ委員ニ併セ付

託セラレムコトヲ望ム

### 第三十八 福相鐵道速成ニ關スル建議案

(壩切善兵衛君外六名提出)

テモ、或ハ天ノ橋立ト申シマシテモ、非常ニ絶景ノ所デアリマス、又此大江山ハ子供デモヤカマシク言ッテ居リマス、昔鬼ガ棲ンダ所アリマス、サウシテ此大江山ノ山麓ヲ經マシテ、内宮外宮、即チ伊勢ト稱スル所ヲ通ルノデアリマス、最モ必要ナ線路ニアリマス滿場一致御賛成ヲ願ヒマス

〔「贊成」ト呼フ者アリ〕  
○副議長(松田源治君) 鈴木君ノ動議ニ御異議アリマセバカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕  
○副議長(松田源治君) 異議ナイト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス

○鈴木錠藏君 日程第三十三ノ訂正ヲ致シタイト思ヒマス、即チ本案ハ林田龜太郎君外一名提出、明治四十一年法律第三十七號中改正法律案外七件ノ委員ニ併セ付託スルコトニ訂正アラムコトヲ希望致シマス  
○副議長(松田源治君) 鈴木君ノ訂正ノ動議ニ御異議アリマセバカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(松田源治君) 異議ナント認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス

○鈴木錠藏君 本案ハ中野寅吉君外三名提出、柳津小

法律第三十七號中改正法律案外八件ノ委員ニ併セ付託スルコトニ訂正アラムコトヲ希望致シマス

○副議長(松田源治君) 鈴木君ノ訂正ノ動議ニ御異議アリマセバカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(松田源治君) 鈴木君ノ動議ニ御異議アリマセバカ

搬出スルト云フ利益ガアリマス、國策ノ上カラ申シマシテモ、利益ノ上カラ申シマシテモ、是ハ至急ニ敷設スルノガ得策デアラウト考ヘマス、政府ニ於ケレマシテモ、昨年鐵道敷設法ニシムルヤウニ致シタイト存ジマス(拍手)、出間鐵道速成ニ關スル建議案外八件ノ委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(松田源治君) 鈴木君ノ動議ニハ異議アリマセバカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(松田源治君) 異議ナント認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス——日程第三十七大阪和歌山間鐵道敷設ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、提出者山口義一君

○副議長(松田源治君) 本案ハ中野寅吉君外三名提出、柳津小

山口義一君此席ヨリ申上げタイト思ヒマス、委細ハ委員会ニ於テ説明ヲ申上げル必要ハナイト存ジマス、(拍手)

○鈴木錠藏君 本案ハ中野寅吉君外三名提出、柳津小

山口義一君是ハ昨年モ大多數ノ御賛成ヲ得テ遠三本

得テ本邦ヲ通過致シテ居ル所ノ建議案デアリマス、即チ大

阪市ヲ發シマシテ、堺市ヲ經テ和歌山縣ニ至ル所ノ鐵道ヲ相俟テ初テ完全ナル交通鐵道タルヲ得ヘシ依テ遠三本

鐵道ヲ設セラレムコトヲ望ム

○副議長(松田源治君) 鈴木君ノ動議ニハ異議アリマセバカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(松田源治君) 異議ナント認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス

○副議長(松田源治君) 本案ハ中野寅吉君外三名提出、柳津小

山口義一君是ハ昨年モ大多數ノ御賛成ヲ得テ遠三本

得テ本邦ヲ通過致シテ居ル所ノ建議案デアリマス、即チ大

阪市ヲ發シマシテ、堺市ヲ經テ和歌山縣ニ至ル所ノ鐵道ヲ相俟テ初テ完全ナル交通鐵道タルヲ得ヘシ依テ遠三本

鐵道ヲ設セラレムコトヲ望ム

○副議長(松田源治君) 鈴木君ノ動議ニハ異議アリマセバカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(松田源治君) 異議ナント認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス

○副議長(松田源治君) 本案ハ中野寅吉君外三名提出、柳津小

山口義一君是ハ昨年モ大多數ノ御賛成ヲ得テ遠三本

得テ本邦ヲ通過致シテ居ル所ノ建議案デアリマス、即チ大

阪市ヲ發シマシテ、堺市ヲ經テ和歌山縣ニ至ル所ノ鐵道ヲ相俟テ初テ完全ナル交通鐵道タルヲ得ヘシ依テ遠三本

鐵道ヲ設セラレムコトヲ望ム

○副議長(松田源治君) 鈴木君ノ動議ニハ異議アリマセバカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

邁步致シマシテ、サウシテ住民モ多クナリ、農耕地モ多クナルト云フヤウナ譯ア、三十一年ニ初テ大ナル水害ニ遭ヒマシテ、北海道ノ住民ハ殆ド腰ヲ披カサンハカリニ驚イダノニアリマスル、爾來今日ニ至ルマテ昨年ノ大ナル水害ヲ加ヘマシテ、八回ノ水害ニ遭シテ居ルノデアリマスルガ、是ハ全道ニ涉テ居ル所ノ水害デアリマシテ、サウシテ一地方限ノ水害、  
ハ殆ド年々歲々之ヲ繰返シテ居ルノデアリマス(「簡単」)簡單ニ下呼フ者アリ、簡單ニハ參リマセヌ、コソナ重大問題ヲ簡  
單ニ上云フノハ誰ダ(「ヒヤー」)ト呼フ者アリ近ク此復舊費ノ追加豫算ガ本議場ニモ現レルコトデアリト思ヒマスカラ、試ニ昨十一年八月ノ水害ノ状況ヲ簡単に二申上ゲテ見  
タイト思フノアリマスル、北海道ニ於テ昨年ノ八月ノ末ニ  
害高ハ浸水家屋、流失家屋等ノ損害高ガ、約二百五十六  
万九千餘圓ニ達シテ居ルノデアリマス、又田畠ノ反別ノ被  
害ハ、十万町歩ニ達シテ居ルノデアリマスガ、其損害高約二  
千万圓ニモ達シテ居ルノデアリマス、ソレカラ其中ナ流亡シテ  
最早荒廢ニ屬シテ居所ノ田畠ト云フモノハ、合セテ六千五百餘町歩ニ達シテ居ルノデアリマス、又其損害高ハ幾ラ  
デアルカト申シマスト云フト、四百万圓以上ニ達シテ居ルノ  
デアリマス、又死亡負傷ト云フヤウナ者ニ至リマスルト、死亡  
者ハ男女合セテ百三十五人、負傷者ハ一百二十人ト云フ  
ヤウナ多大ノ慘状ヲ呈シテ居ルノデアリマス、ソレカラ又道  
路橋梁堤防或ハ其外ニハ土木組合ノ工事ノ被害ヲ受ケタ  
點モアリマスルガ、ソレ等ヲ合セマスルト云フト、約モ四千  
万圓ニ達シテ居ルノデアリマス、是等以上ノモノヲ加ヘマス  
ルト云フト、ドウシテモ多大ナル、七八千万圓ニモ達スルト  
云フヤウナ被害ノ慘状ヲ呈シテ居ルノデアリマス、斯ノ如キ  
事ハ實ニ北海道ノ住民トシテハ戦々兢々誠ニ不安ノ念ニ驅  
ラレテ、サウシテ一日モ其堵ニ安ンゼズト云フヤウナ次第ア  
ルノデアリマスルガ、北海道ニ於キマシテ一面ニ於テドウ云フ  
事ヲヤフテ居ルカト申シマスト云フト、北海道廳ノ技術者ハ  
二十六河川ニ對シテ拍手スル者アリ、叩ケバ餘計ヤリマ  
ス——十六河川ニ對シテ設計調査ヲ致シマシタ其工事ヲ  
見マスト云フト、一億五千八百八十萬圓、約一億六千万  
圓ニ達スル所ノ巨額ニナ、テ居リマス、斯様ナ次第アルカラ  
シテ、中と當局ニ於テモ、手ヲ下スコトヲ能ウシナインデア  
マス、又一面ニ於キマシテハ治水事業ト云フモハ、消滅する  
事業デアルカラシテ、中ニ北海道ノ如キ鐵道道路港灣ト云  
フヤウニ諸種ノ積極的事業ノアル所ニ向テ、此治水事業  
ニ半ヲ若ケルト云フ事ハ困難アルト云フヤウナ次第ヲ以チ  
マシテ、今日迄吾々道民ハ、多年政黨政派ノ別ヲ問ハズ、其  
急要ヲ叫ンデ居ルノデアリマスルケレドエ、當局ニ於テハ甚ダ  
之ヲ開却シテ居ルノデアリマス、而シテマダ茲ニ一應諸君ノ  
御参考ニ供シタインハ、治水工事費約一億六千萬圓ヲ計  
上致シテ居リマスルガ、此調査ニ依リマスルト云フト、極テ此  
事業ハ有利アルノデアリマス、即チ此工事が完成シテカラ  
後ニ一箇年ニ水害ヲ除去スル所ノモノガ六百二十萬圓餘

ニナル、又工事竣工後從來未開地ニアタノア開發シタ爲ニ、三十餘万圓ト云フ利益ヲ得ルノデアリマス、其二點ヲ合  
せマスルト云フト、三千六百八十餘万圓ニ達スルノデアリマスルカラ、七箇年ニ及バ只今言ウタ通り、二億六千万圓ノ  
工事費ヲ償還スルト云フコトニナルノデアリマス、最モ有利ナルモノハ其中ニセナ「ペーセント」以上ニモ達シテ居ルモ  
ノガアリマスルカラ、一年半經タス内ニ其工事費ト云フモノハ償還シ得ルノデアリマス、最モ不利益ナルモノニ對シマシテ  
モ、百九十何年ト云フ年數ヲ經マスルナラバ、ソレヲ利益計算ニ致シテ見ルト、一箇年ニ矢張五朱一厘ニ當テ居ルト  
云フヤウナ頗ル有利ナ事業デアリマスカラ、唯單ニ治水事業ハ消極的事業ナルカ故ニ、之ヲ閑却スルト云フコトハ甚ダ  
當ヲ得ヌト私共考ヘテ居ル、一步讓リマシテ、治水事業デアルカラ消極的事業デアル、已ムヲ得ヌ、斯ウ云フヤウナ風ニ  
考ヘマシタナラバ、此北海道ノ土地ト云フモノハ、自然ニ荒廢ニ歸スルト云フ處ガアル爲ニ、北海道ノ住民ハ離散致シ  
マス、サウシテ再ビ不毛ノ原野ニ歸スルノデアリマスカラ、何等カ適當ノ方策ヲ立テマシテ、此場合ニ於テ政府當局ニ於  
テハ、北海道ノ根本治水計畫ヲ確立シ、速ニ是ガ遂行ヲ期セラレシコトヲ望ム所以テアリマス、御賛成ヲ願ヒマス(拍手)  
○鈴木錠藏君 本案ハ阿部武智雄君外八名提出北海道本州連絡完成ニ關スル建議案ノ委員ニ併セテ付託セラ  
レンコトヲ望ム  
○副議長(松田源治君) 鈴木君ノ動議ニ異議アリマセヌ  
カ  
〔賛成〕下呼フ者アリ  
○副議長(松田源治君) 鈴木君ノ動議ニ異議アリマセヌ  
カ  
〔異議ナシ〕下呼フ者アリ  
○副議長(松田源治君) 異議ナシト認メマス、依テ動議ノ如ク決シマス  
○副議長(松田源治君) 残餘ノ日程ニ對シテ延期ノ動議ヲ提出  
○鈴木錠藏君 残餘ノ日程ニ對シテ延期ノ動議ヲ提出  
ノ如ク決シマス  
〔異議ナシ〕下呼フ者アリ  
○副議長(松田源治君) 清瀬君ノガアリマス、鈴木君ノ動議、即チ殘餘ノ日程ニ對シテ延期ニ御異議アリマセヌカ  
○副議長(松田源治君) 異議ナシト認メマス、依テ動議ノ如ク決シマス、次ノ日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日  
ハ是ニテ散會  
午後五時四十五分散會

第四十 樺太資源開發ニ關スル建議案  
(坂上貞信君提出)  
樺太資源開發ニ關スル建議案  
○副議長(松田源治君) 異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマス、日程第四十樺太資源開發ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス——坂上貞信君

頁	段	行	誤	正
五三八	中	二四	選舉權ノ擴張及	
同	同	二六	共同及	
五	各五年	五	共用	
			過去五年	

衆議院議事速記録第二十五號中正誤

○坂上貞信君 簡單デアリマスカラ  
○副議長(松田源治君) 簡單ナラバ、議席デ許可致シマス  
○坂上貞信君 樺太資源開發ニ關スル建議案  
樺太拓殖ノ根本義ハ土地森林礦產漁業等其ノ豊富ナ  
ル資源ヲ弘く開放シ以テ同胞民族ノ移住ヲ獎勵スルニ  
在リ政府ハ速ニ之ニ對スル方策ヲ樹テ拓殖ノ實績ヲ舉  
ケムコトヲ望ム  
右建議ス

○坂上貞信君 簡單デアリマスカラ  
○副議長(松田源治君) 簡單ナラバ、議席デ許可致シマス  
○坂上貞信君 樺太領有以來十八年ヲ經過致シテ居ル  
ノデアリマスガ、而モ未だ樺太ノ眞ノ事情ハ多クノ人ニ徹底  
シテ居ラヌノデアリマス、然ルニ此樺太ノ領地タルヤ、鑑山或  
森林漁業總テノ方面ニ關シマシテ、非常ニ富源ノ地デアルノデアリマス、非常ニ富源ノ地デアルノデアリマス、而モ  
アルノデアリマス、是ガ未だ廣ク世ニ公々ニセラレズシテ、是ガ爲ニ我ガ内地人